

三田市の教育に関するアンケート調査

調査結果報告書

平成 28 年 2 月

三田市教育委員会

目 次

I 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査方法	1
3 回収状況	1
4 調査結果の表示方法	2
5 調査項目一覧	2

II 市民アンケート調査

1 回答者の基本属性	4
2 子どもの教育についての関心と学校、就学前教育に対する市民意識	7
3 子どもたちの現状と望む姿	12
4 いじめや不登校などの問題に対する市民意識	15
5 安全・安心な学習環境に対する市民意識	17
6 特別支援教育に対する市民意識	18
7 学校・幼稚園の小規模化に対する市民意識	19
8 三田市の教育全般の市民意識	22
9 家庭、地域の教育力を高めるために必要なこと	24

III 教職員アンケート調査

1 回答者の基本属性	28
2 教職員の勤務環境の状況	30
3 子どもたちの現状と望む姿	34
4 子どもたちの教育についての課題と学校、就学前教育に対する教職員意識	35
5 学校・幼稚園の小規模化に対する教職員意識	38
6 三田市の教育全般の教職員意識	41

IV 共通集計

1	子どもたちの現状と望む姿	43
2	子どもたちの教育についての課題と学校、就学前教育に対する意識	44
3	学校・幼稚園の小規模化に対する意識	45
4	三田市の教育全般の意識	48

V 調査結果の概要

1	自ら学び、心豊かに生きる子どもの育成について	50
2	子どもが安全で安心して学べる環境づくり・学校づくりについて	51
3	まち（地域）全体での子どもの学びと成長の支援について	52

VI 自由意見のまとめ

1	市民アンケート調査	53
2	教職員アンケート調査	60

VII 参考資料

1	市民アンケート調査票	63
2	教職員アンケート調査票	69

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、三田市の教育の振興に関して基本的な事項を定める「第2期三田市教育振興基本計画（計画期間：平成29年度～平成33年度の5年間）」を策定するにあたり、今後、重点をおくべき施策の把握を目的に、市民及び教職員にアンケート調査を実施するものです。

2 調査方法

- ① 調査地域 三田市内
- ② 調査対象者
 - ・市内に在住する18歳以下の子どもをもつ世帯・保護者
 - ・市立幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の教職員
- ③ 標本数
 - ・市民2,000人
 - ・教職員631人
- ④ 抽出方法
 - ・市民：住民基本台帳から無作為抽出
- ⑤ 調査方法
 - ・市民：郵送配布、郵送回収による郵送調査法
 - ・教職員：各学校園を通じて直接配布、直接回収
- ⑥ 調査期間 平成27年11月4日（水）～11月19日（木）

3 回収状況

	配布数	回収数	回収率(%)
市民アンケート調査	2,000	1,091	54.55%
教職員アンケート調査	631	628	99.52%

4 調査結果の表示方法

- ・グラフに表示されているN値とは、回答者数のことを示しています。
- ・集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入してありますので、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、すべての比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・単純集計に加え、回答者属性によるクロス集計を行いました。クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、集計表を作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。なお、クロス集計において項目ごとに、最も高い選択肢を網掛け□で表示しています。
- ・クロス集計の場合、回答者属性の無回答を排除しているため、クロス集計の回答数の合計と単純集計（全体）の回答数が合致しないことがあります。

5 調査項目一覧

下記の調査項目について、アンケート内容より整理しました。

(1) 市民アンケート調査

調査項目	設問内容		頁
1 回答者の基本属性	問1	性別	4
	問2	年齢	4
	問3	アンケート回答者	4
	問4	居住小学校区	5
	問5	居住年数	5
	問6	職業	6
	問7	子どもの年代	6
	問8	子どもの兄弟姉妹	6
2 子どもの教育についての関心と学校、就学前教育に対する市民意識	問9	子どもの教育について関心のあること	7
	問12	三田市の学校教育の取組でできていること	8
	問13	小・中学校に対しての要望	9
	問15	三田市の就学前教育の充実のために必要な取り組み	10
3 子どもたちの現状と望む姿	問10	三田市の子どもたちに望む姿	12
	問11	三田市の子どもたちに身につけている能力や態度	14
4 いじめや不登校などの問題に対する市民意識	問14	いじめや不登校などの問題を防止するために必要なこと	15
5 安全・安心な学習環境に対する市民意識	問16	子どもたちの安全・安心な学校生活や幼稚園・保育所（園）・認定こども園生活のために今後特に力を入れていくべきこと	17
6 特別支援教育に対する市民意識	問17	特別支援教育の充実のために必要な取り組み	18
7 学校・幼稚園の小規模化に対する市民意識	問18	幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考え	19
	問18-1	望ましい理由	20
	問18-2	望ましくない理由	21

調査項目	設問内容		頁
8 三田市の教育全般の市民意識	問 19	今後三田市で力を入れて行う必要がある教育施策・教育事業	22
9 家庭、地域の教育力を高めるために必要なこと	問 20	三田市の「家庭の教育力」「地域の教育力」について	24
	問 21	「家庭の教育力」を高めるために必要な取り組み	26
	問 22	「地域の教育力」を高めるために必要な取り組み	27

(2) 教職員アンケート調査

調査項目	設問内容		頁
1 回答者の基本属性	問 1	性別	28
	問 2	勤務先	28
	問 3	職種	28
	問 4	経験年数	29
	問 5	勤務している学校区	29
2 教職員の勤務環境の状況	問 6	自身の職務について忙しいと感じている度合い	30
	問 7	業務の内容について	31
	問 8	多忙を解消するために必要なこと	33
3 子どもたちの現状と望む姿	問 9	三田市の子どもたちに身につけている能力や態度	34
4 子どもたちの教育についての課題と学校、就学前教育に対する教職員意識	問 10	三田市の子どもたちの教育についての課題	35
	問 11	三田市の学校教育の取組でできていること	36
	問 12	三田市の就学前教育の取組でできていること	37
5 学校・幼稚園の小規模化に対する教職員意識	問 13	幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考え	38
	問 13-1	望ましい理由	39
	問 13-2	望ましくない理由	40
6 三田市の教育全般の教職員意識	問 14	今後三田市で力を入れて行う必要がある教育施策・教育事業	41

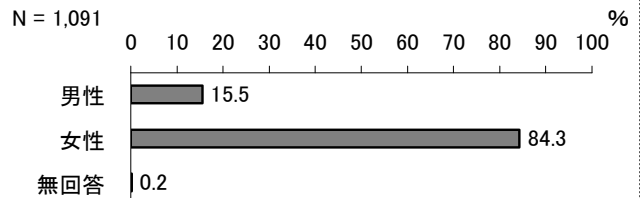
II 市民アンケート調査

1 回答者の基本属性

問1 あなたの性別はどちらですか。

①性別

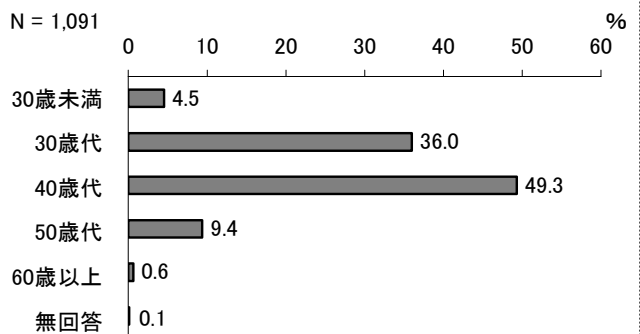
性別については、「男性」の割合が15.5%、「女性」の割合が84.3%となっています。



問2 あなたの年齢は何歳ですか。

②年齢

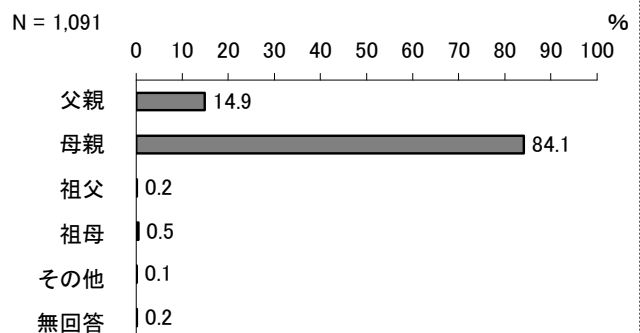
年齢については、「40歳代」の割合が49.3%と最も高く、次いで「30歳代」の割合が36.0%となっています。



問3 このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。

③アンケート回答者

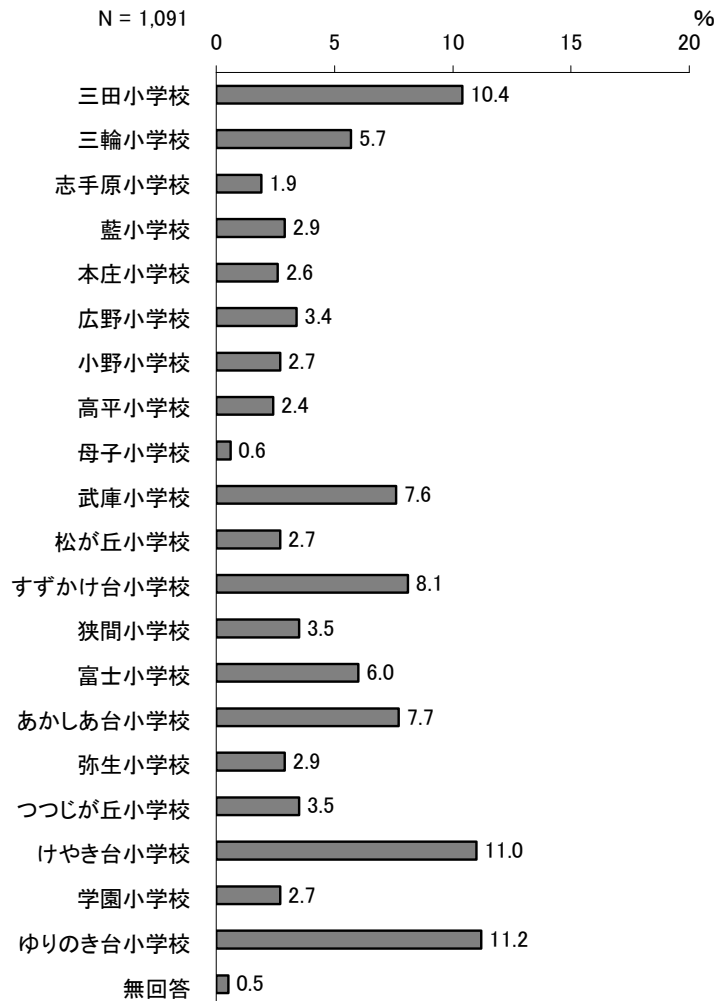
アンケート回答者については、「母親」の割合が84.1%と最も高く、次いで「父親」の割合が14.9%となっています。



問4 お住まいの小学校区はどちらですか。

④居住小学校区

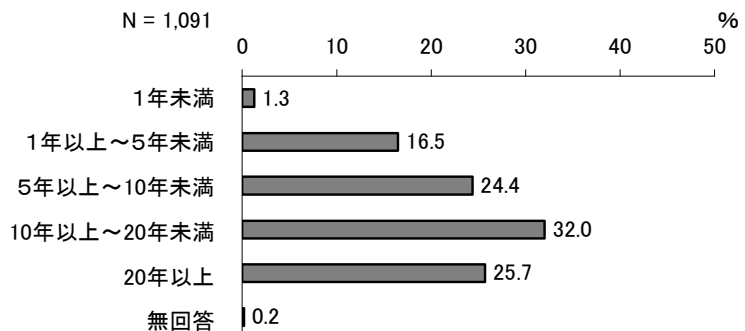
居住小学校区については、「ゆりのき台小学校」の割合が11.2%と最も高く、次いで「けやき台小学校」の割合が11.0%、「三田小学校」の割合が10.4%となっています。



問5 あなたは三田市に住んで何年になりますか。

⑤居住年数

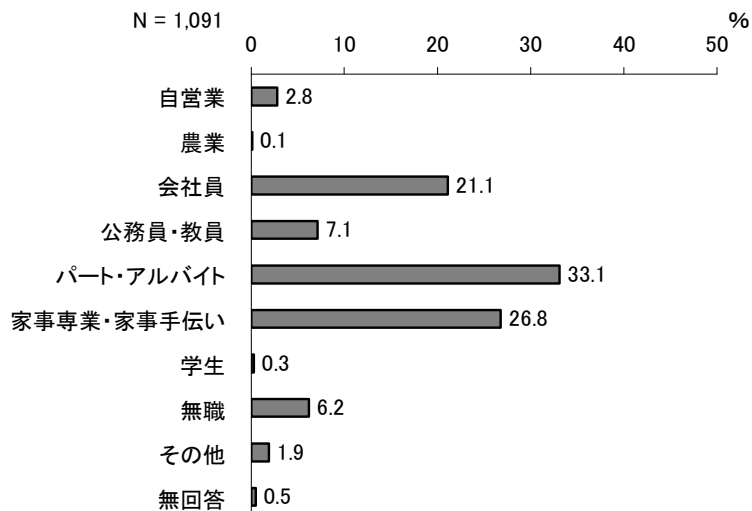
居住年数については、「10年以上～20年未満」の割合が32.0%と最も高く、次いで「20年以上」の割合が25.7%、「5年以上～10年未満」の割合が24.4%となっています。



問6 あなたの職業をお答えください。

⑥職業

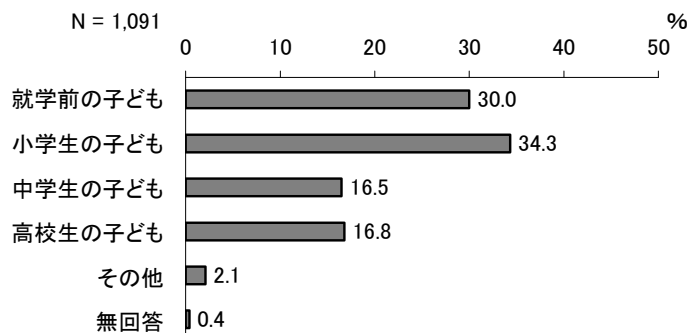
職業については、「パート・アルバイト」の割合が33.1%と最も高く、次いで「家事専業・家事手伝い」の割合が26.8%、「会社員」の割合が21.1%となっています。



問7 宛名のお子さんは次のどちらに該当しますか。

⑦子どもの年代

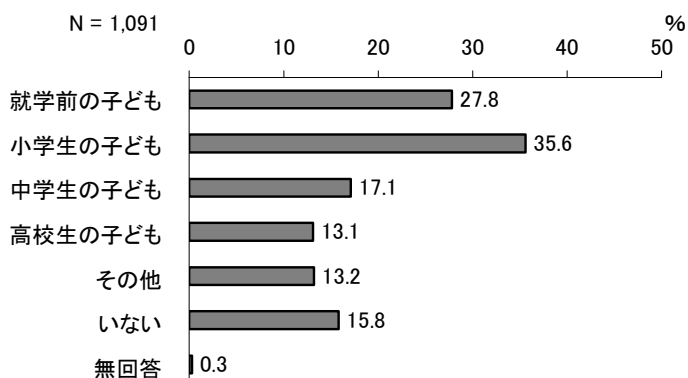
家族構成については、「小学生の子ども」の割合が34.3%と最も高く、次いで「就学前の子ども」の割合が30.0%、「高校生の子ども」の割合が16.8%となっています。



問8 宛名のお子さん以外に兄弟姉妹はいらっしゃるかどうか。いる場合は次のどちらに該当しますか。

⑧子どもの兄弟姉妹

子どもの兄弟姉妹については、「小学生の子ども」の割合が35.6%と最も高く、次いで「就学前の子ども」の割合が27.8%、「中学生の子ども」の割合が17.1%となっています。



2 子どもの教育についての関心と学校、就学前教育に対する市民意識

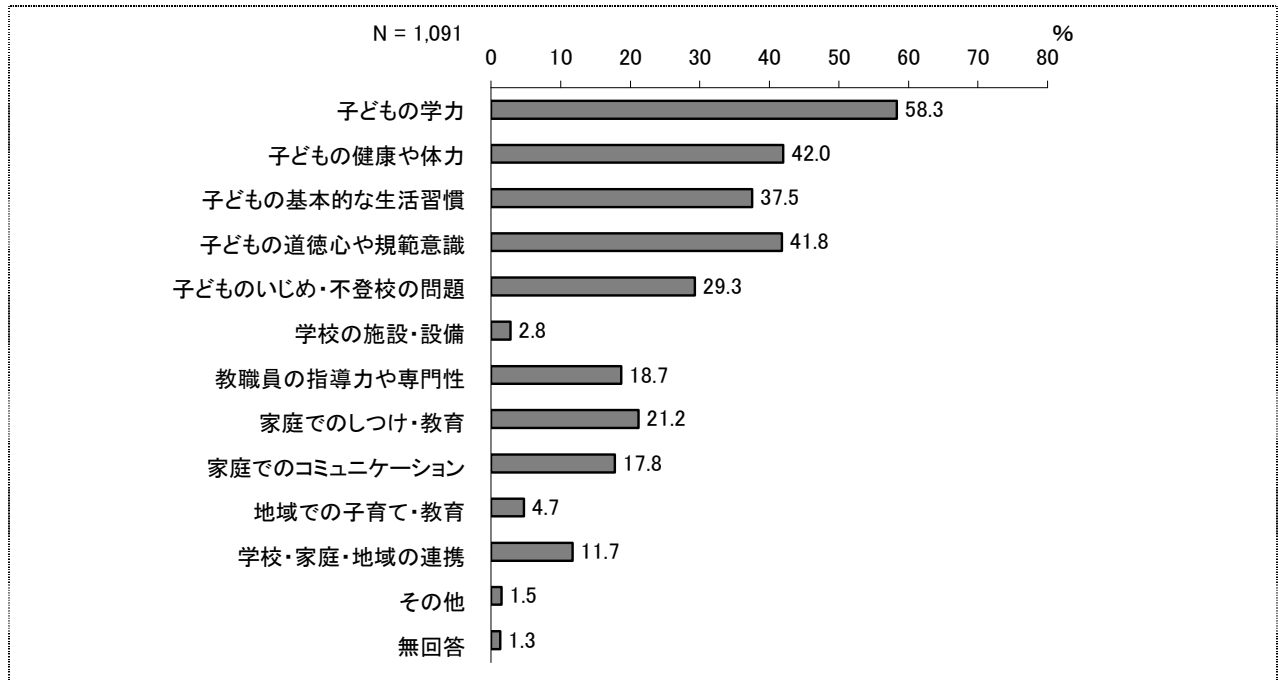
(1) 子どもの教育について関心のあること

問9 子どもの教育について、あなたが関心のあることは何ですか。
(主なもの3つまで○)

子どもの教育について関心のあることについては、「子どもの学力」の割合が58.3%と最も高く、次いで「子どもの健康や体力」の割合が42.0%、「子どもの道徳心や規範意識」の割合が41.8%となっています。

子どもの年代別でみると、他の年代に比べ、小学生の子ども、中学生の子どもで「子どもの学力」への関心の割合が高くなっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、子どもの教育について関心のあること

単位：%

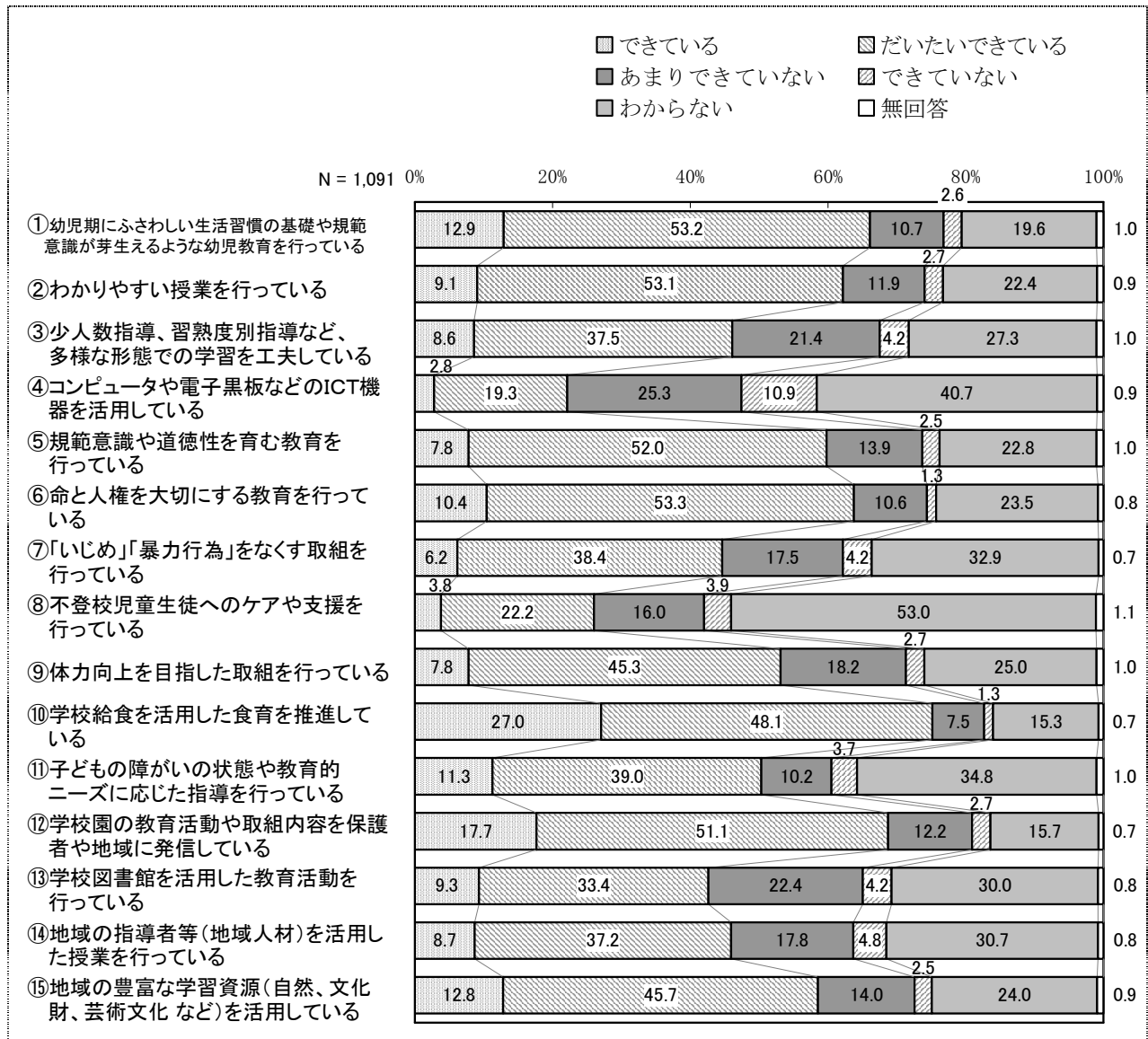
区分	有効回答数(件)	子どもの学力	子どもの健康や体力	子どもの基本的な生活習慣	子どもの道徳心や規範意識	子どものいじめ・不登校の問題	学校の施設・設備	性	教職員の指導力や専門性	家庭でのしつけ・教育	家庭でのコミュニケーション	地域での子育て・教育	学校・家庭・地域の連携	その他	無回答
就学前の子ども	327	44.0	45.0	31.8	41.0	38.5	4.3	17.7	25.1	18.3	6.7	11.6	1.5	1.5	
小学生の子ども	374	65.2	46.5	37.4	43.6	27.3	2.4	15.0	19.5	13.6	4.0	13.4	1.1	1.3	
中学生の子ども	180	68.3	30.6	47.8	41.1	20.0	1.1	22.2	18.3	20.6	5.6	7.8	1.7	1.1	
高校生の子ども	183	59.6	38.8	38.8	39.3	26.8	3.3	24.6	21.3	20.8	2.2	12.0	2.2	0.5	
その他	23	56.5	43.5	30.4	52.2	30.4	—	17.4	8.7	34.8	—	17.4	—	—	

(2) 三田市の学校教育の取組でできていること

問 12 三田市の学校教育において、次のような取組について、できていると思いますか。
 (①～⑮の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)

三田市の学校教育の取組でできていることについては、「できている」と「だいたいできている」をあわせた“できている”の割合が、⑩ 学校給食を活用した食育を推進している 75.1%、次いで⑫ 学校園の教育活動や取組内容を保護者や地域に発信している 68.8%となっています。

○全体集計



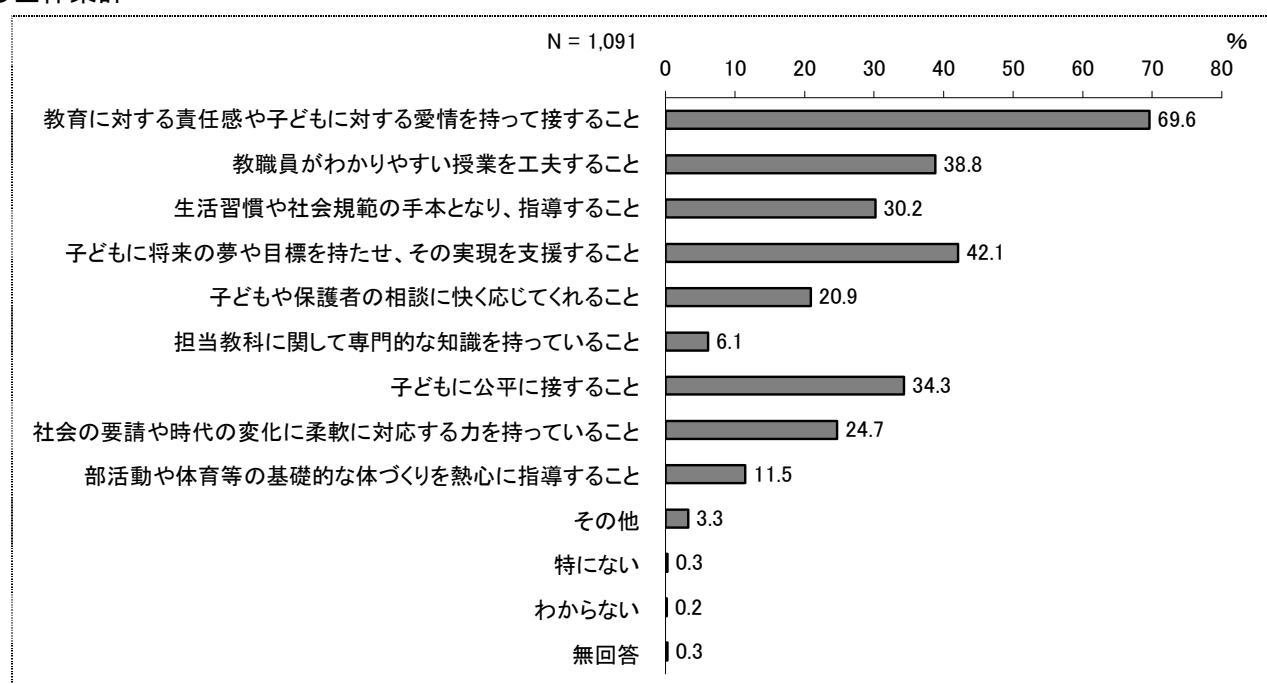
(3) 小・中学校に対しての要望

問13 あなたは小・中学校に対してどのようなことを望みますか。(主なもの3つまで○)

小・中学校に対しての要望については、「教育に対する責任感や子どもに対する愛情を持って接すること」の割合が69.6%と最も高く、次いで「子どもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること」の割合が42.1%、「教職員がわかりやすい授業を工夫すること」の割合が38.8%となっています。

子どもの年代別でみると、他の年代に比べ、中学生の子どもで「子どもに公平に接すること」の割合が高くなっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、小・中学校に対しての要望

単位：%

区分	有効回答数(件)	教育に対する責任感や子どもに対する愛情を持って接すること	教職員がわかりやすい授業を工夫すること	生活習慣や社会規範の手本となり、指導すること	子どもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること	子どもや保護者の相談に快く応じてくれること	担当教科に関して専門的な知識を持っていること	子どもに公平に接すること	社会の要請や時代の変化に柔軟に対応する力を持っていること	部活動や体育等の基礎的な体づくりを熱心に指導すること	その他	特にない	わからない	無回答
就学前の子ども	327	74.3	32.1	30.9	38.5	23.5	7.6	32.1	27.5	9.5	3.4	0.6	0.6	0.6
小学生の子ども	374	71.4	40.6	32.9	42.2	19.8	7.0	32.9	23.0	12.8	2.9	0.3	—	—
中学生の子ども	180	67.8	42.2	23.3	42.8	19.4	2.8	41.7	18.3	12.8	4.4	—	—	—
高校生の子ども	183	60.1	44.8	29.5	43.7	20.8	4.9	35.5	28.4	10.9	3.3	—	—	0.5
その他	23	65.2	30.4	26.1	69.6	17.4	4.3	26.1	26.1	8.7	—	—	—	—

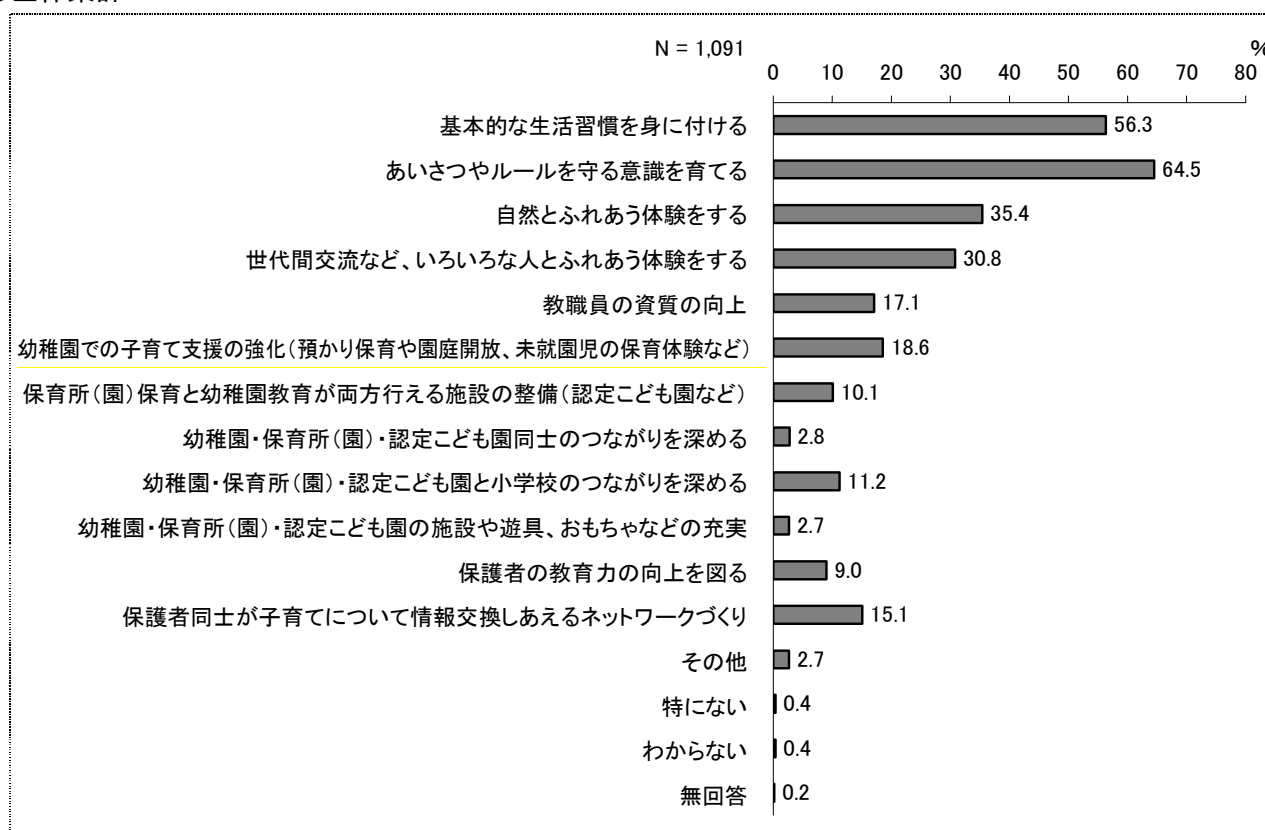
(4) 三田市の就学前教育の充実のために必要な取り組み

問 15 あなたは、三田市の就学前教育の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか。(主なもの3つまで○)

三田市の就学前教育の充実のために必要な取り組みについては、「あいさつやルールを守る意識を育てる」の割合が 64.5%と最も高く、次いで「基本的な生活習慣を身に付ける」の割合が 56.3%、「自然とふれあう体験をする」の割合が 35.4%となっています。

子どもの年代別で見ると、他の年代に比べ、就学前の子どもで「幼稚園での子育て支援の強化(預かり保育や園庭開放、未就園児の保育体験など)」の割合が高くなっています。また、中学生の子ども、高校生の子どもの「保護者同士が子育てについて情報交換しあえるネットワークづくり」の割合が高くなっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、就学前教育の充実のために必要な取り組み

単位：%

区分	有効回答数(件)	基本的な生活習慣を身に付ける	あいさつやルールを守る意識を育てる	自然とふれあう体験をする	世代間交流など、いろいろな人とふれあう体験をする	教職員の資質の向上	幼稚園での子育て支援の強化(預かり保育や園庭開放、未就園児の保育体験など)	施設整備(認定こども園など)	のつながりを深める	幼稚園・保育所(園)・認定こども園と小学校のつながりを深める	幼稚園・保育所(園)・認定こども園の施設や遊具、おもちゃなどの充実	保護者の教育力の向上を図る	その他	特になし	わからない	無回答
就学前の子ども	327	53.5	60.2	36.1	31.8	13.1	25.1	11.3	4.0	14.1	5.8	7.3	4.3	—	0.3	0.3
小学生の子ども	374	57.0	67.6	37.4	31.3	19.8	18.4	9.9	2.4	10.2	1.3	9.4	2.9	0.5	—	0.3
中学生の子ども	180	54.4	64.4	35.0	31.7	16.1	13.3	8.3	1.7	11.1	2.2	9.4	—	0.6	—	—
高校生の子ども	183	60.7	66.7	31.7	29.0	19.1	14.8	8.2	1.6	8.7	1.1	9.8	2.7	0.5	0.5	—
その他	23	65.2	60.9	26.1	21.7	13.0	—	17.4	13.0	8.7	—	13.0	—	—	8.7	—

3 子どもたちの現状と望む姿

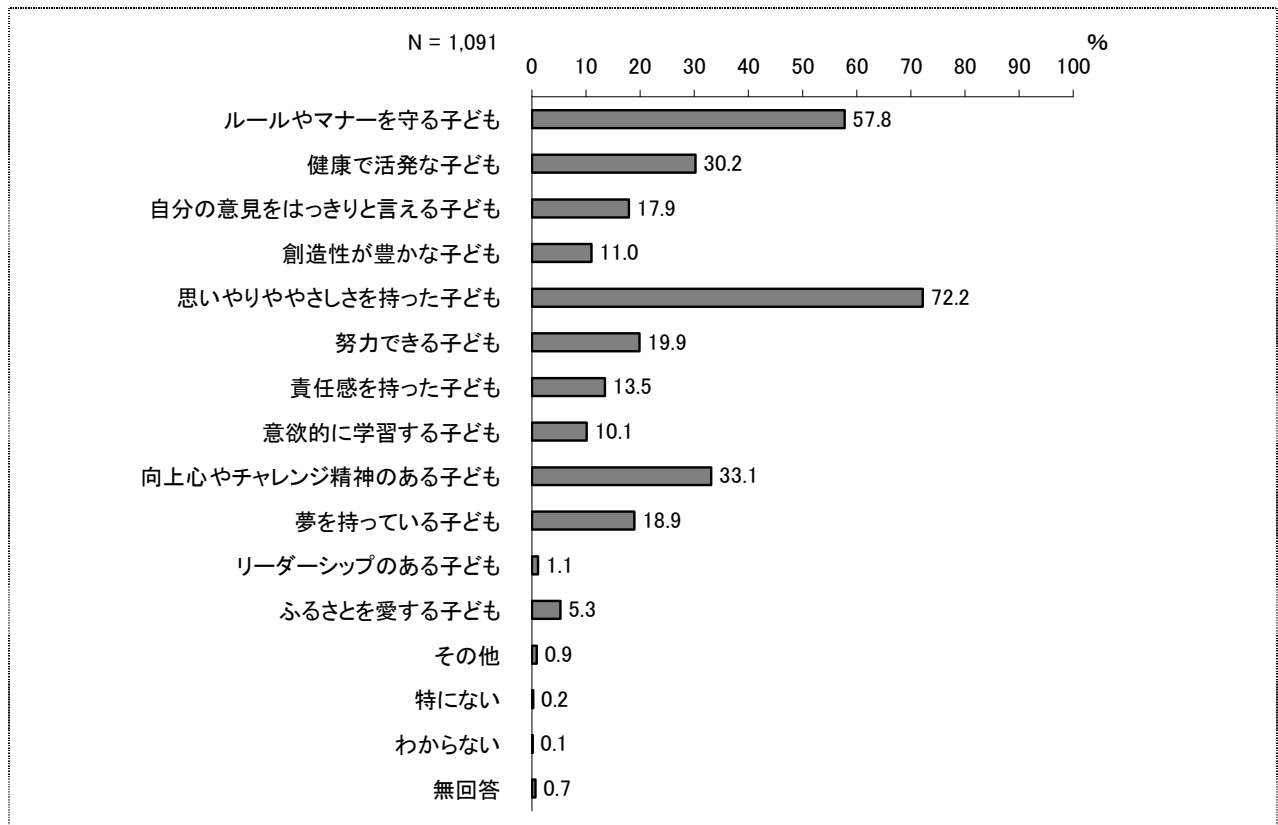
(1) 三田市の子どもたちに望む姿

問10 あなたは、三田市の子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思いますか。(主なもの3つまで○)

三田市の子どもたちに望む姿については、「思いやりやさしさを持った子ども」の割合が72.2%と最も高く、次いで「ルールやマナーを守る子ども」の割合が57.8%、「向上心やチャレンジ精神のある子ども」の割合が33.1%となっています。

子どもの年代別でみると、他の年代に比べ、就学前の子どもで「健康で活発な子ども」の割合が、中学生の子どもで「夢を持っている子ども」の割合が高くなっています。また、高校生の子どもの「責任感を持った子ども」の割合が高くなっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、三田市の子どもたちに望む姿

単位：%

区分	有効回答数(件)	ルールやマナーを守る子ども	健康で活発な子ども	自分の意見をはっきりと 言える子ども	創造性が豊かな子ども	思いやりやさしさを 持った子ども	努力できる子ども	責任感を持った子ども	意欲的に学習する子ども	向上心やチャレンジ精神 のある子ども	夢を持っている子ども	リーダーシップのある 子ども	ふるさとを愛する子ども	その他	特にな い	わから ない	無回 答
就学前 の 子ども	327	55.4	37.3	16.5	10.1	75.2	22.0	12.5	8.3	32.1	17.4	0.6	3.7	0.9	—	0.3	0.6
小学生 の 子ども	374	57.8	29.9	16.6	10.2	73.5	21.4	10.4	12.3	34.2	18.2	0.3	6.7	1.3	—	—	0.8
中学生 の 子ども	180	57.2	23.9	21.7	12.2	66.1	20.6	14.4	11.1	33.3	23.9	2.2	3.9	—	1.1	—	—
高校生 の 子ども	183	63.9	24.6	18.0	13.7	69.4	13.1	20.2	8.2	34.4	16.9	1.6	7.1	0.5	—	—	1.1
その他	23	56.5	30.4	26.1	8.7	82.6	8.7	17.4	8.7	17.4	26.1	4.3	4.3	4.3	—	—	—

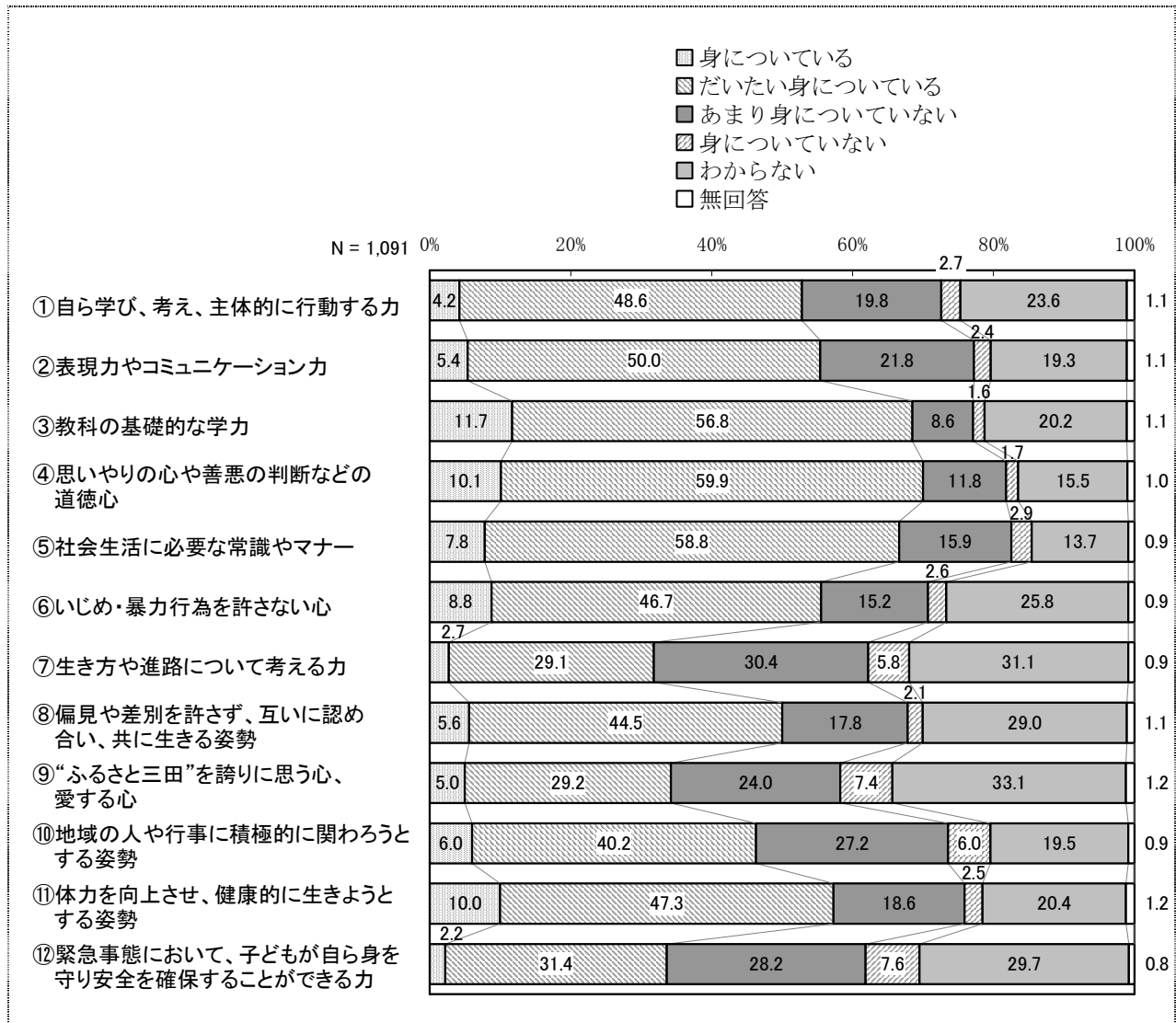
(2) 三田市の子どもたちに身につけている能力や態度

問 11 教育を通じて、三田市の子どもたちには、次のような能力や態度が実際に身につけていると思いますか。

(①～⑫の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)

三田市の子どもたちに身につけている能力や態度について、「身につけている」と「だいたい身につけている」をあわせた“身につけている”の割合が、④ 思いやりの心や善悪の判断などの道徳心 70.0%、次いで③ 教科の基礎的な学力 68.5%、⑤ 社会生活に必要な常識やマナー66.6%となっています。

○全体集計



4 いじめや不登校などの問題に対する市民意識

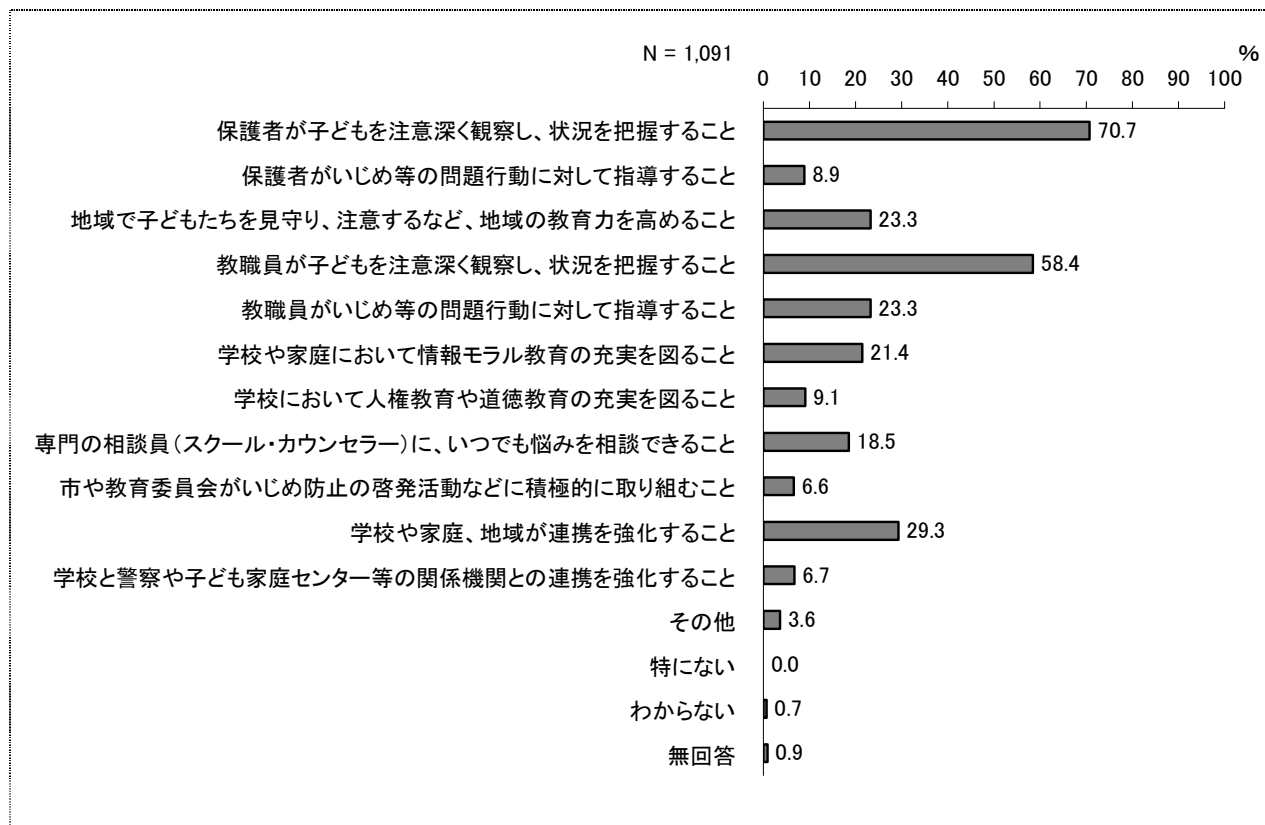
(1) いじめや不登校などの問題を防止するために必要なこと

問 14 あなたは、いじめや不登校などの問題を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(主なものを3つまで○)

いじめや不登校などの問題を防止するために必要なことについては、「保護者が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること」の割合が70.7%と最も高く、次いで「教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること」の割合が58.4%、「学校や家庭、地域が連携を強化すること」の割合が29.3%となっています。

子どもの年代別で見ると、他の年代に比べ、就学前の子どもと中学生の子どもで「学校において人権教育や道徳教育の充実を図ること」の割合が高くなっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、いじめや不登校などの問題を防止するために必要なこと

単位：%

区分	有効回答数(件)	保護者が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること	保護者がいじめ等の問題行動に対して指導すること	地域で子どもたちを見守り、注意すること、地域の教育力を高めること	教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること	教職員がいじめ等の問題行動に対して指導すること	学校や家庭において情報モラル教育の充実を図ること	学校において人権教育や道徳教育の充実を図ること	専門の相談員(スクール・カウンセラー)に、いつでも悩みを相談できること	市や教育委員会がいじめ防止の啓発活動などに積極的に取り組むこと	学校や家庭、地域が連携を強化すること	学校と警察や子ども家庭センター等の関係機関との連携を強化すること	その他	特になし	わからない	無回答
就学前の子ども	327	68.5	10.7	25.7	57.2	18.0	22.3	11.6	21.1	6.1	33.0	5.2	4.0	—	0.6	0.6
小学生の子ども	374	74.1	8.8	24.1	57.2	27.0	20.3	6.4	19.0	5.6	29.4	7.2	3.5	—	0.5	0.8
中学生の子ども	180	69.4	7.8	19.4	61.7	23.9	25.0	11.7	14.4	6.7	21.7	10.0	1.7	—	1.7	1.1
高校生の子ども	183	69.4	6.0	21.3	59.0	25.1	20.8	6.6	17.5	9.8	27.9	6.0	4.9	—	0.5	1.1
その他	23	69.6	13.0	21.7	60.9	17.4	8.7	13.0	17.4	—	43.5	—	4.3	—	—	4.3

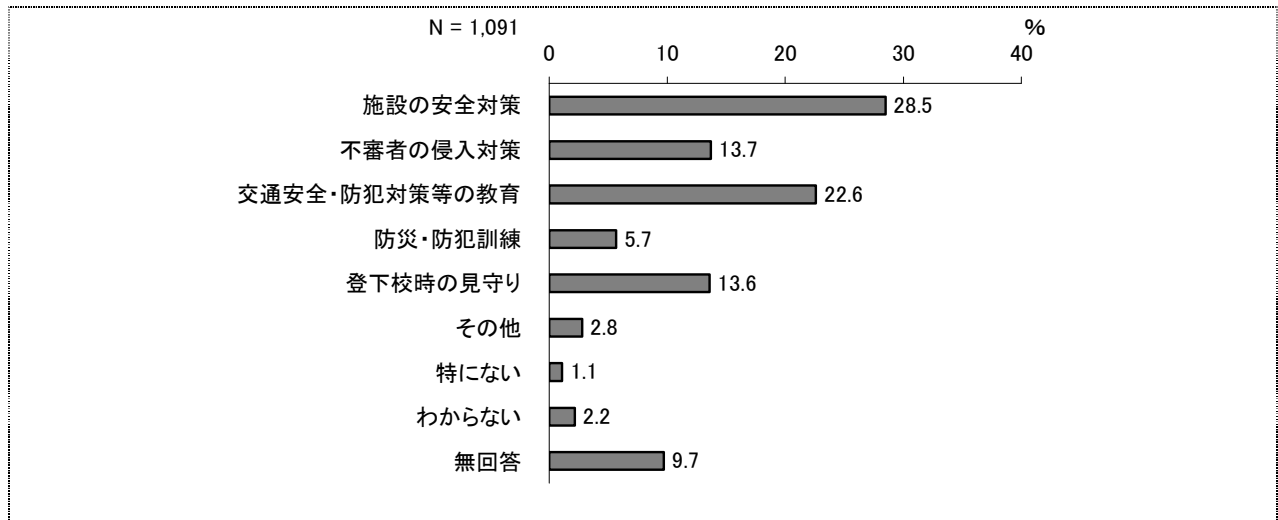
5 安全・安心な学習環境に対する市民意識

(1) 子どもたちの安全・安心な学校生活や幼稚園・保育所(園)・認定こども園生活のために今後特に力を入れていくべきこと

問 16 あなたは、子どもたちの安全・安心な学校や幼稚園・保育所(園)・認定こども園での生活の充実のために、どのような取組が必要だと思いますか。
(主なもの1つに○)

子どもたちの安全・安心な学校生活や幼稚園・保育所(園)・認定こども園生活のために今後特に力を入れていくべきことについては、「施設の安全対策」の割合が28.5%と最も高く、次いで「交通安全・防犯対策等の教育」の割合が22.6%、「不審者の侵入対策」の割合が13.7%となっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、子どもたちの安全・安心な学校生活や幼稚園・保育所(園)・認定こども園生活のために今後特に力を入れていくべきこと
単位：%

区分	有効回答数(件)	施設の安全対策	不審者の侵入対策	交通安全・防犯対策等の教育	防災・防犯訓練	登下校時の見守り	その他	特にない	わからない	無回答
就学前の子ども	327	30.9	14.7	21.1	7.0	12.2	2.4	0.9	2.4	8.3
小学生の子ども	374	24.1	16.0	23.8	5.1	12.6	3.7	0.8	2.4	11.5
中学生の子ども	180	28.3	13.9	27.2	7.2	12.8	1.7	1.1	1.1	6.7
高校生の子ども	183	33.3	7.1	19.1	3.8	16.4	3.3	2.2	2.7	12.0
その他	23	26.1	17.4	17.4	—	30.4	—	—	—	8.7

6 特別支援教育に対する市民意識

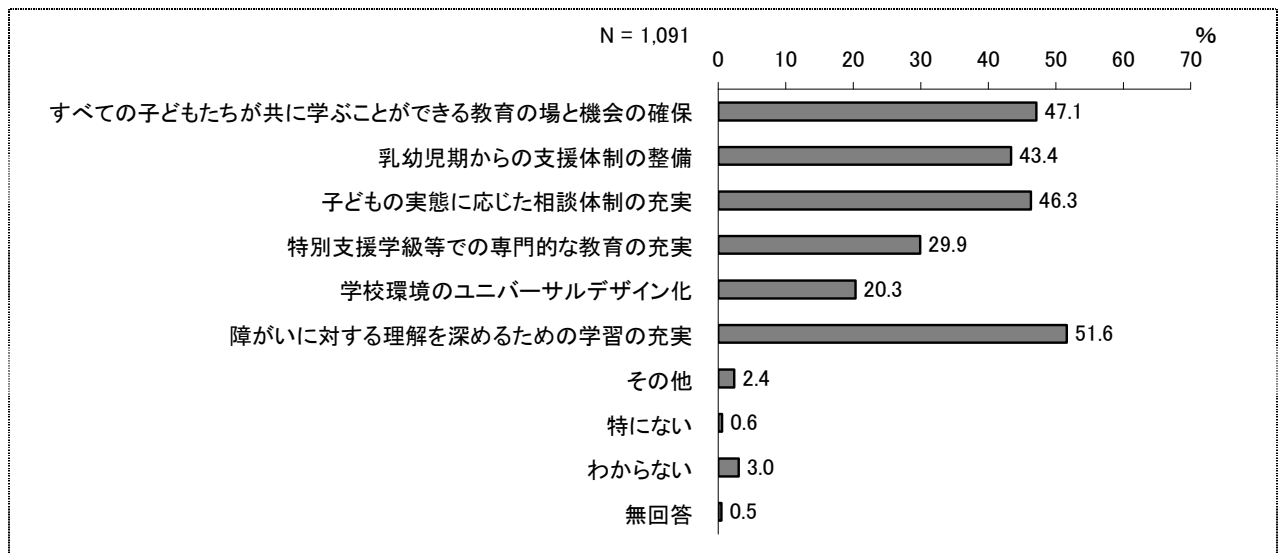
(1) 特別支援教育の充実のために必要な取り組み

問 17 あなたは、特別支援教育の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか。
(主なもの3つまで○)

特別支援教育の充実のために必要な取り組みについては、「障がいに対する理解を深めるための学習の充実」の割合が 51.6%と最も高く、次いで「すべての子どもたちが共に学ぶことができる教育の場と機会の確保」の割合が 47.1%、「子どもの実態に応じた相談体制の充実」の割合が 46.3%となっています。

子どもの年代別でみると、他の年代に比べ、就学前の子どもで「乳幼児期からの支援体制の整備」の割合が、小学生の子どもで「すべての子どもたちが共に学ぶことができる教育の場と機会の確保」の割合が高くなっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、特別支援教育の充実のために必要な取り組み

単位：%

区分	有効回答数(件)	すべての子どもたちが共に学ぶことができる教育の場と機会の確保	乳幼児期からの支援体制の整備	子どもの実態に応じた相談体制の充実	特別支援学級等での専門的な教育の充実	学校環境のユニバーサルデザイン化	障がいに対する理解を深めるための学習の充実	その他	特にない	わからない	無回答
就学前の子ども	327	43.4	54.4	43.7	26.9	21.4	52.0	2.1	0.9	2.4	0.6
小学生の子ども	374	52.4	37.4	49.7	32.1	20.3	50.3	3.7	0.3	1.6	0.5
中学生の子ども	180	43.9	43.3	46.7	29.4	17.8	53.9	1.7	0.6	4.4	—
高校生の子ども	183	43.7	36.6	44.3	32.2	18.0	50.3	1.1	1.1	5.5	0.5
その他	23	60.9	34.8	39.1	21.7	34.8	65.2	—	—	4.3	—

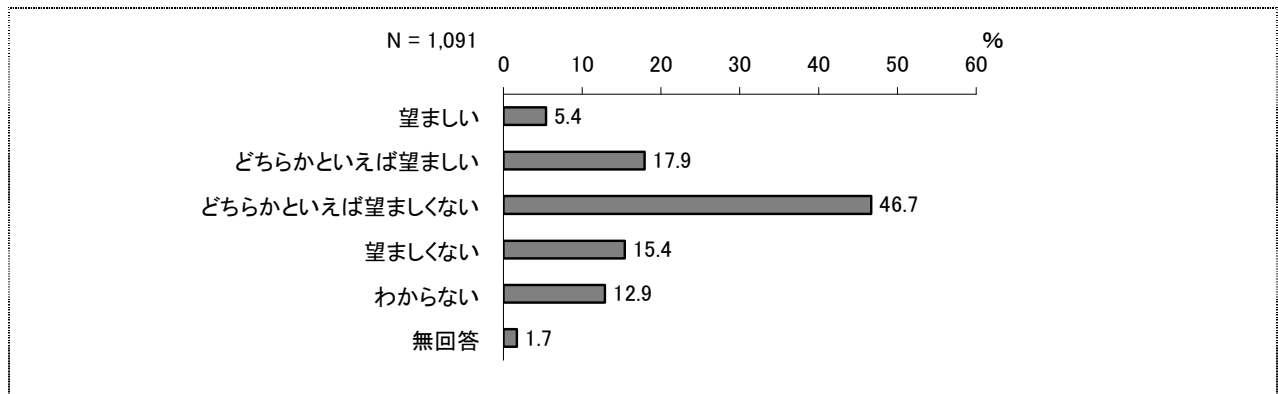
7 学校・幼稚園の小規模化に対する市民意識

(1) 幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考え

問 18 少子化に伴い、市立の幼稚園及び小中学校の子ども数が減少しており、混合学級の幼稚園（4歳児と5歳児が1クラス）、1学年1クラスの小中学校があり、今後、小規模な幼稚園や小中学校が増加していくことが予想されます。市立の幼稚園及び小中学校が小規模化していくことについてあなたはどのように思いますか。
(1つに○)

幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考えについては、「望ましい」と「どちらかといえば望ましい」をあわせた“望ましい”の割合が23.3%、「どちらかといえば望ましくない」と「望ましくない」をあわせた“望ましくない”の割合が62.1%となっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考え

単位：%

区分	有効回答数(件)	望ましい	どちらかといえば望ましい	どちらかといえば望ましくない	望ましくない	わからない	無回答
就学前の子ども	327	6.4	17.7	44.0	15.6	15.3	0.9
小学生の子ども	374	4.8	19.3	47.6	14.2	12.3	1.9
中学生の子ども	180	6.7	16.1	46.1	17.2	11.1	2.8
高校生の子ども	183	2.7	17.5	49.2	16.9	11.5	2.2
その他	23	8.7	17.4	52.2	4.3	17.4	—

(2) 望ましい理由

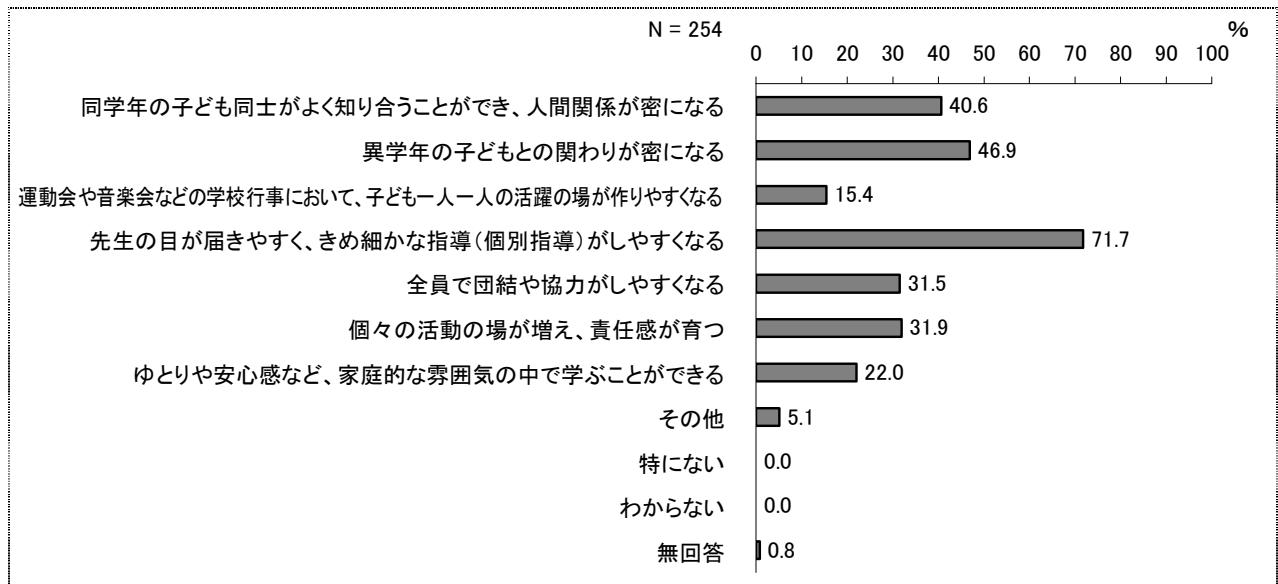
問 18-1 については、問 18 で「1. 望ましい」「2. どちらかといえば望ましい」を回答した方のみお答えください。

問 18-1 その理由は何ですか。(主なもの3つまで○)

幼稚園・小学校・中学校の小規模化を望ましいと思う理由については、「先生の目が届きやすく、きめ細かな指導(個別指導)がしやすくなる」の割合が 71.7%と最も高く、次いで「異学年の子どもとの関わりが密になる」の割合が 46.9%、「同学年の子ども同士がよく知り合うことができ、人間関係が密になる」の割合が 40.6%となっています。

子どもの年代別でみると、他の年代に比べ、就学前の子ども、中学生の子どもで「個々の活動の場が増え、責任感が育つ」の割合が、中学生の子ども、高校生の子どもの「同学年の子ども同士がよく知り合うことができ、人間関係が密になる」の割合が高くなっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、望ましい理由

単位：%

区分	有効回答数(件)	同学年の子ども同士がよく知り合うことができ、人間関係が密になる	異学年の子どもとの関わりが密になる	運動会や音楽会などの学校行事において、子ども一人一人の活躍の場が作りやすくなる	先生の目が届きやすく、きめ細かな指導(個別指導)がしやすくなる	全員で団結や協力がしやすくなる	個々の活動の場が増え、責任感が育つ	ゆとりや安心感など、家庭的な雰囲気の中で学ぶことができる	その他	特にない	わからない	無回答
就学前の子ども	79	36.7	35.4	16.5	72.2	29.1	35.4	32.9	8.9	—	—	—
小学生の子ども	90	38.9	54.4	16.7	75.6	32.2	28.9	17.8	6.7	—	—	—
中学生の子ども	41	48.8	46.3	19.5	61.0	41.5	34.1	17.1	—	—	—	—
高校生の子どもの	37	45.9	51.4	8.1	70.3	24.3	24.3	16.2	—	—	—	5.4
その他	6	16.7	66.7	—	100.0	33.3	50.0	—	—	—	—	—

(3) 望ましくない理由

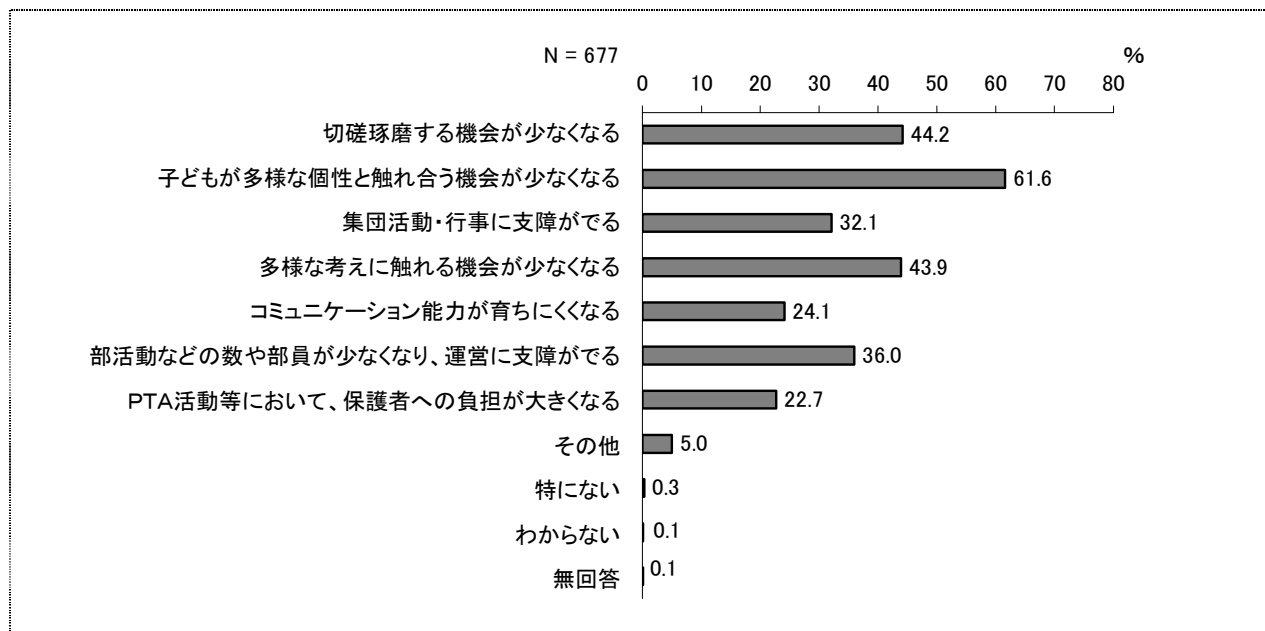
問18-2については、問18で「3. どちらかといえば望ましくない」「4. 望ましくない」を回答した方のみお答えください。

問18-2 その理由は何ですか。(主なもの3つまで○)

幼稚園・小学校・中学校の小規模化を望ましくないと思う理由については、「子どもが多様な個性と触れ合う機会が少なくなる」の割合が61.6%と最も高く、次いで「切磋琢磨する機会が少なくなる」の割合が44.2%となっています。

子どもの年代別で見ると、他の年代に比べ、高校生の子どもの「集団活動・行事に支障がでる」の割合が高くなっています。また、就学前の子ども、小学生の子どもの「多様な考えに触れる機会が少なくなる」の割合が、中学生の子ども、高校生の子どもの「部活動などの数や部員が少なくなり、運営に支障がでる」の割合が高くなっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、望ましくない理由

単位：%

区分	有効回答数(件)	切磋琢磨する機会が少なくなる	子どもが多様な個性と触れ合う機会が少なくなる	集団活動・行事に支障がでる	多様な考えに触れる機会が少なくなる	コミュニケーション能力が育ちにくくなる	部活動などの数や部員が少なくなり、運営に支障がでる	PTA活動等において、保護者への負担が大きくなる	その他	特にない	わからない	無回答
就学前の子ども	195	46.7	62.6	26.7	46.2	24.6	33.3	22.1	5.6	—	0.5	—
小学生の子ども	231	44.6	59.3	30.7	47.6	22.1	32.5	26.4	6.9	0.4	—	0.4
中学生の子ども	114	44.7	58.8	35.1	40.4	24.6	42.1	24.6	4.4	—	—	—
高校生の子ども	121	40.5	66.9	40.5	34.7	26.4	42.1	17.4	1.7	—	—	—
その他	13	38.5	69.2	23.1	53.8	30.8	30.8	—	—	7.7	—	—

8 三田市の教育全般の市民意識

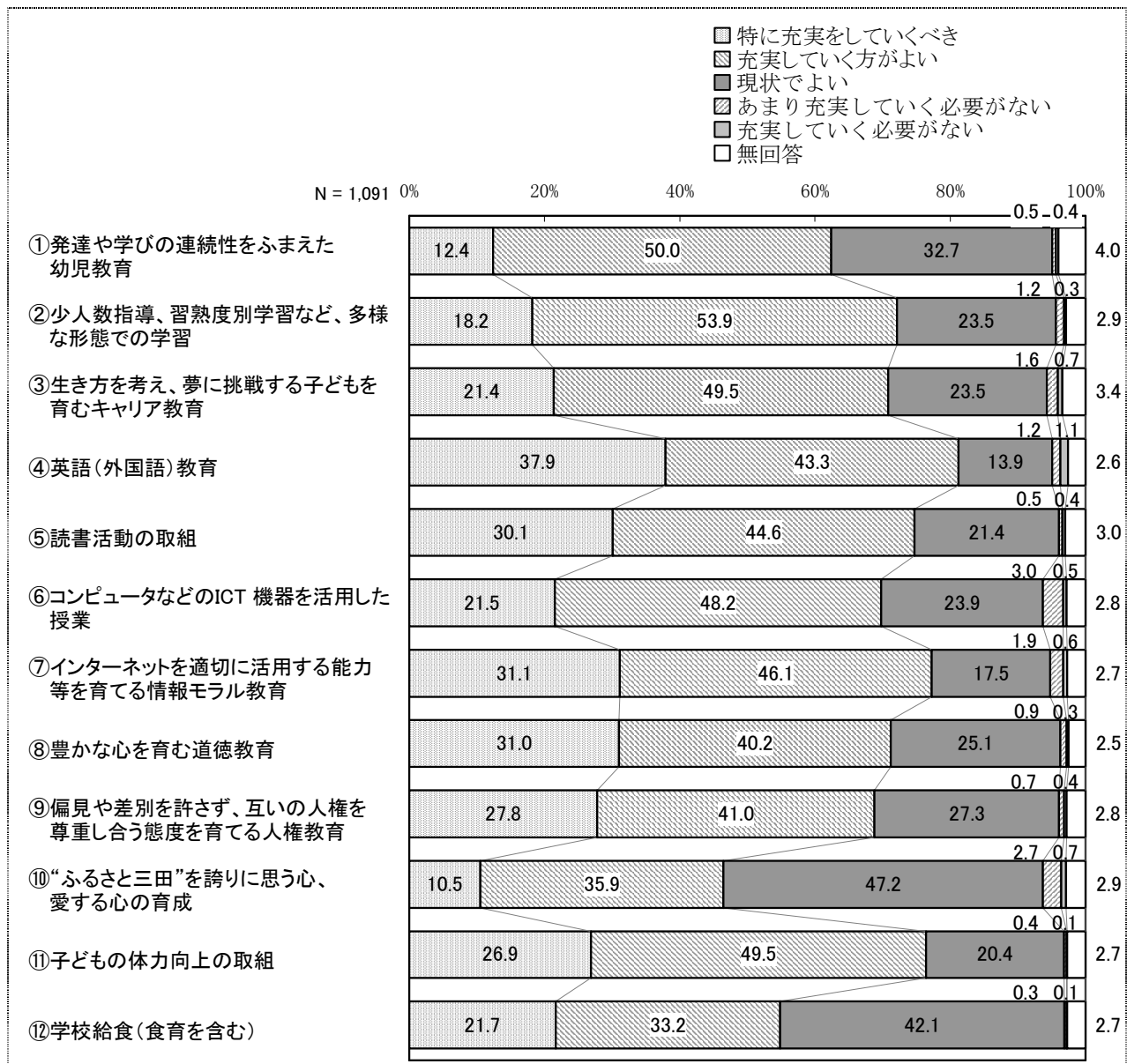
(1) 今後三田市で力を入れて行う必要がある教育施策・教育事業

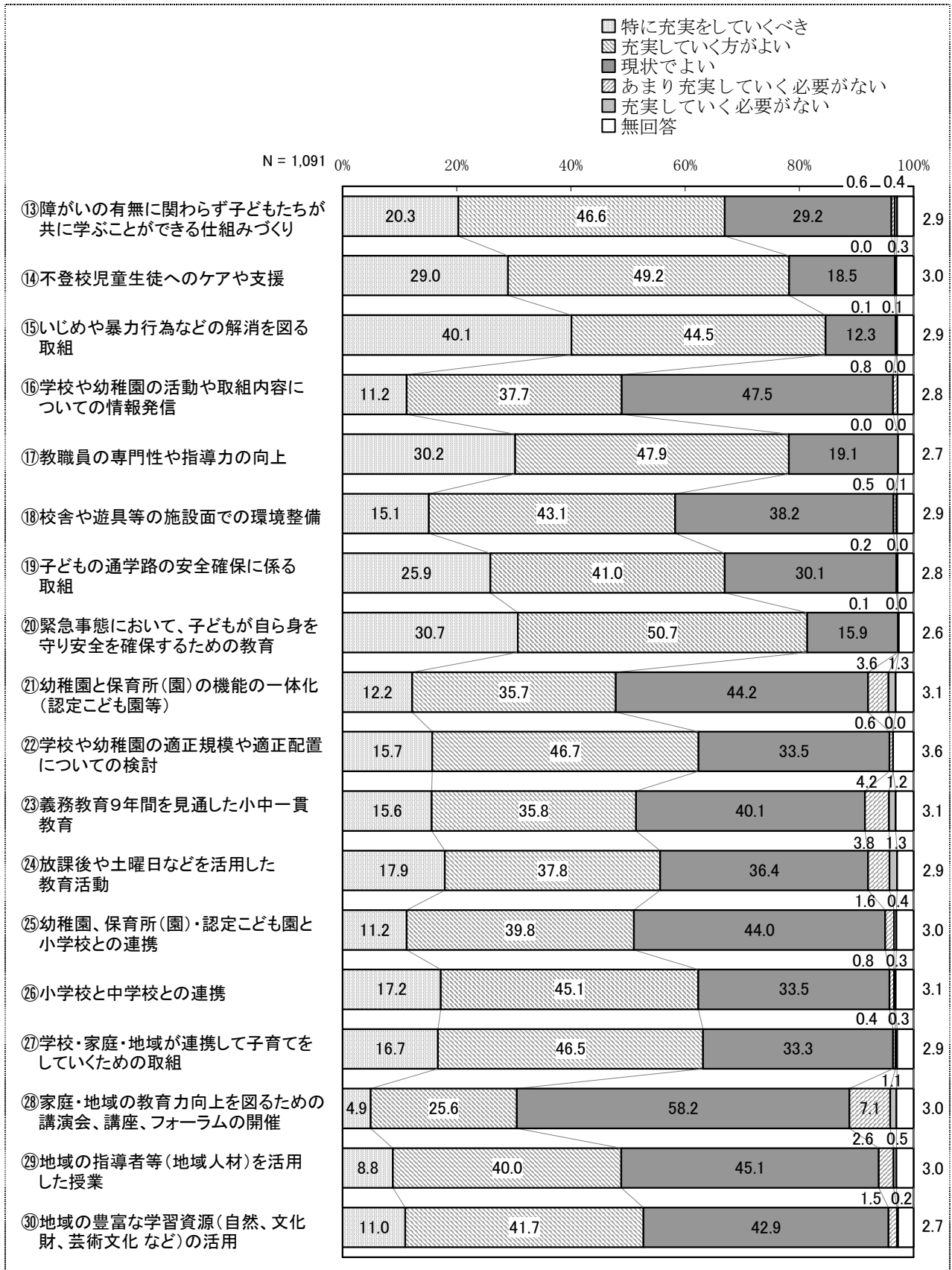
問 19 次の教育施策や教育事業について、あなたは、今後三田市で力を入れて行う必要があると思いますか。

(①～⑳の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)

今後三田市で力を入れて行う必要がある教育施策や教育事業について、「特に充実をしていくべき」と「充実していく方がよい」をあわせた“充実していくべき”の割合が、⑮ いじめや暴力行為などの解消を図る取組 84.6%、次いで⑳ 緊急事態において、子どもが自ら身を守り安全を確保するための教育 81.4%、④ 英語（外国語）教育 81.2%となっています。

○全体集計





9 家庭、地域の教育力を高めるために必要なこと

(1) 三田市の「家庭の教育力」「地域の教育力」について

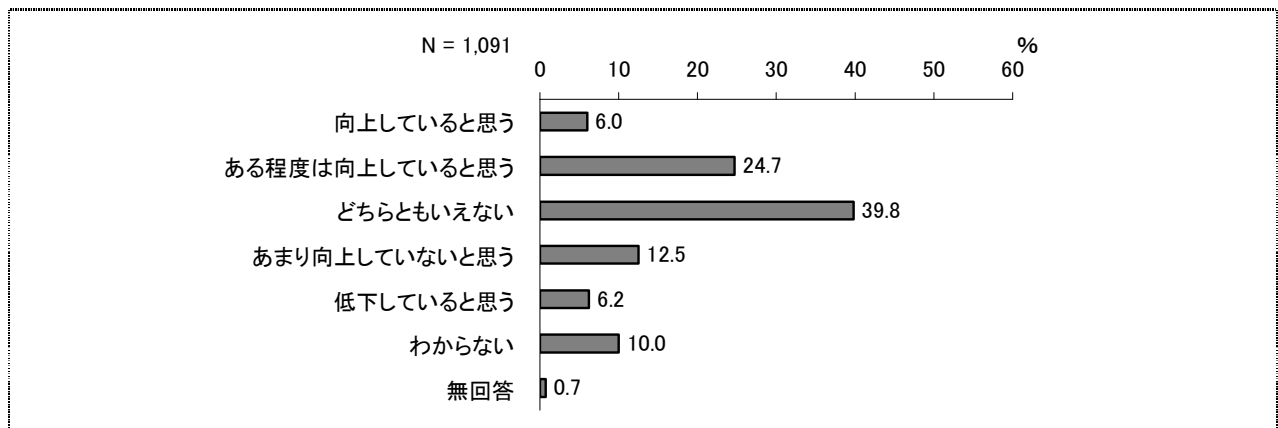
問 20 あなたの周囲では、家庭の教育力、地域の教育力が変化してきていると思いますか。(①、②の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)

①家庭の教育力

三田市の「家庭の教育力」の状況については、「向上していると思う」と「ある程度は向上していると思う」をあわせた“向上していると思う”の割合が30.7%、「あまり向上していないと思う」の割合が12.5%、「低下していると思う」の割合が6.2%となっています。

子どもの年代別で見ると、他の年代に比べ、小学生の子どもで、「向上していると思う」と「ある程度は向上していると思う」をあわせた“向上していると思う”の割合が高くなっています。

○全体集計 (家庭の教育力)



○子どもの年代別にみた、家庭の教育力

単位：%

区分	有効回答数(件)	向上していると思う	ある程度は向上していると思う	どちらともいえない	あまり向上していないと思う	低下していると思う	わからない	無回答
就学前の子ども	327	7.3	21.1	38.5	11.0	4.9	16.5	0.6
小学生の子ども	374	5.1	32.1	37.4	9.4	7.5	7.5	1.1
中学生の子ども	180	7.2	19.4	44.4	18.9	2.2	7.2	0.6
高校生の子ども	183	4.9	21.9	43.2	14.8	9.8	4.9	0.5
その他	23	4.3	21.7	30.4	17.4	8.7	17.4	—

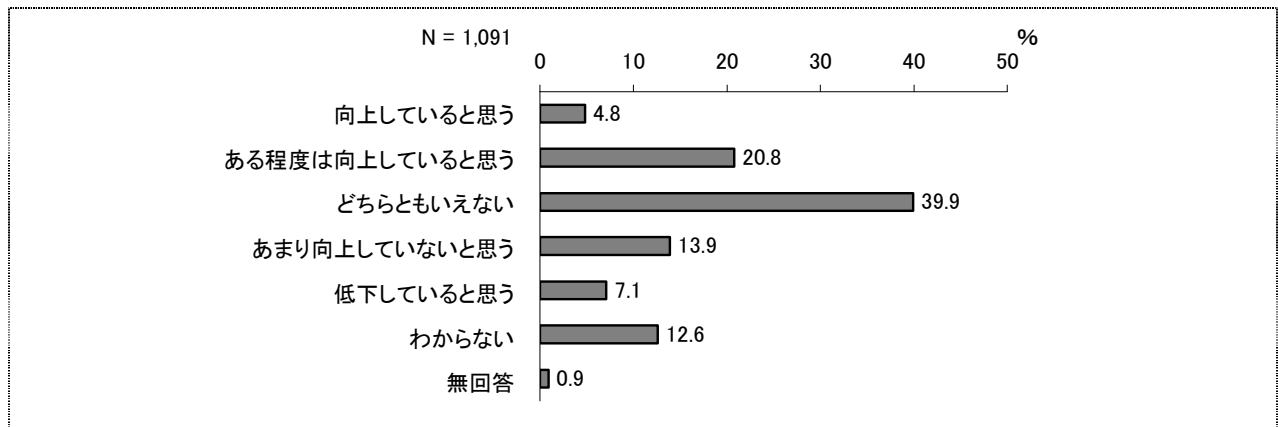
問 20 あなたの周囲では、家庭の教育力、地域の教育力が変化してきていると思いますか。(①、②の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)

②地域の教育力

三田市の「地域の教育力」の状況については、「向上していると思う」と「ある程度は向上していると思う」をあわせた“向上していると思う”の割合が25.6%、「あまり向上していないと思う」の割合が13.9%、「低下していると思う」の割合が7.1%となっています。

子どもの年代別でみると、他の年代に比べ、小学生の子どもで、「向上していると思う」と「ある程度は向上していると思う」をあわせた“向上していると思う”の割合が高くなっています。

○全体集計 (地域の教育力)



○子どもの年代別にみた、地域の教育力

単位：%

区分	有効回答数(件)	向上していると思う	ある程度は向上していると思う	どちらともいえない	あまり向上していないと思う	低下していると思う	わからない	無回答
就学前の子ども	327	4.3	15.9	38.5	12.5	7.3	21.1	0.3
小学生の子ども	374	5.3	27.3	40.1	10.2	6.7	8.8	1.6
中学生の子ども	180	5.6	18.3	40.6	16.1	8.3	10.0	1.1
高校生の子ども	183	4.4	19.7	40.4	20.8	6.6	7.7	0.5
その他	23	—	13.0	43.5	26.1	4.3	13.0	—

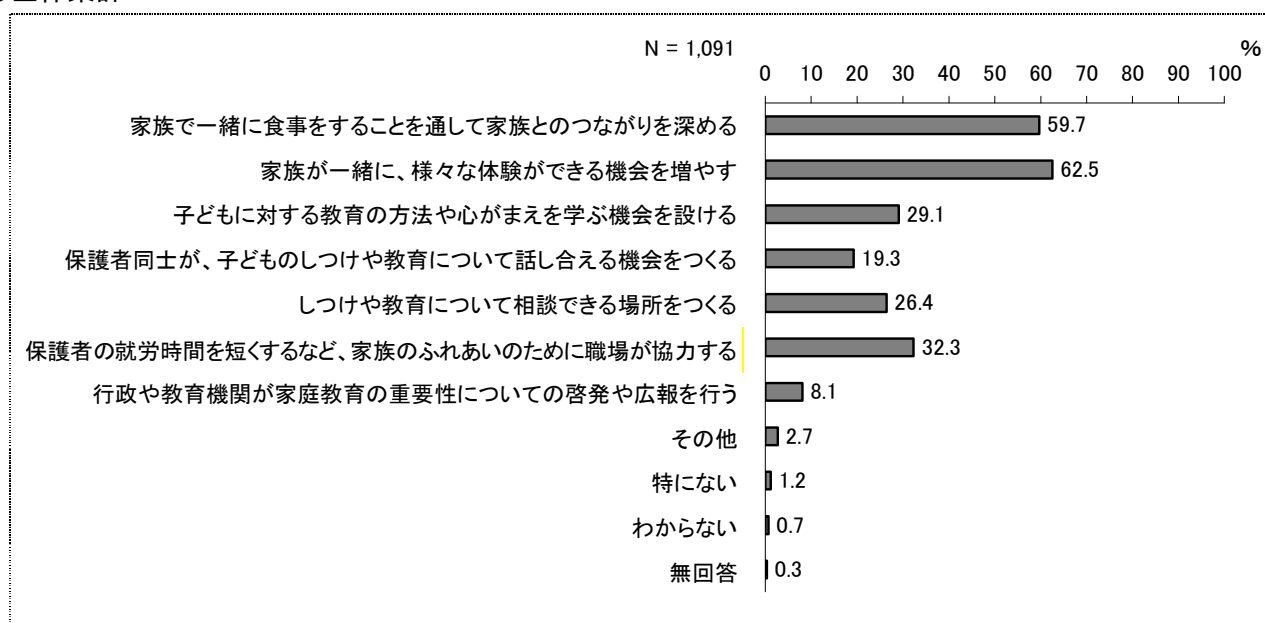
(2)「家庭の教育力」を高めるために必要な取り組み

問 21 あなたは、「家庭の教育力」を高めるためにどのような取組が必要だと思いますか。
(主なもの3つまで○)

「家庭の教育力」を高めるための必要な取り組みについては、「家族と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「家族と一緒に食事を通して家族とのつながりを深める」の割合が 59.7%、「保護者の就労時間を短くするなど、家族のふれあいのために職場が協力する」の割合が 32.3%となっています。

子どもの年代別でみると、他の年代に比べ、就学前の子どもで「家族と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」、「保護者の就労時間を短くするなど、家族のふれあいのために職場が協力する」の割合が高くなっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、「家庭の教育力」を高めるために必要な取り組み

単位：%

区分	有効回答数(件)	家族と一緒に食事を通して家族とのつながりを深める	家族と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす	子どもに対する教育の方法や心がまえを学ぶ機会を設ける	保護者同士が、子どものしつけや教育について話し合える機会をつくる	しつけや教育について相談できる場所をつくる	保護者の就労時間を短くするなど、家族のふれあいのために職場が協力する	行政や教育機関が家庭教育の重要性についての啓発や広報を行う	その他	特にない	わからない	無回答
就学前の子ども	327	62.7	70.9	26.9	19.6	27.8	36.7	4.6	1.8	0.6	0.6	0.3
小学生の子ども	374	58.0	65.2	30.2	20.6	23.5	31.0	9.6	2.9	1.6	0.5	0.5
中学生の子ども	180	56.7	48.9	27.2	20.6	26.1	31.7	10.6	3.3	1.1	1.7	—
高校生の子ども	183	60.7	54.6	31.7	16.4	30.6	26.2	9.3	3.3	1.1	0.5	—
その他	23	52.2	65.2	30.4	13.0	26.1	39.1	4.3	4.3	4.3	—	—

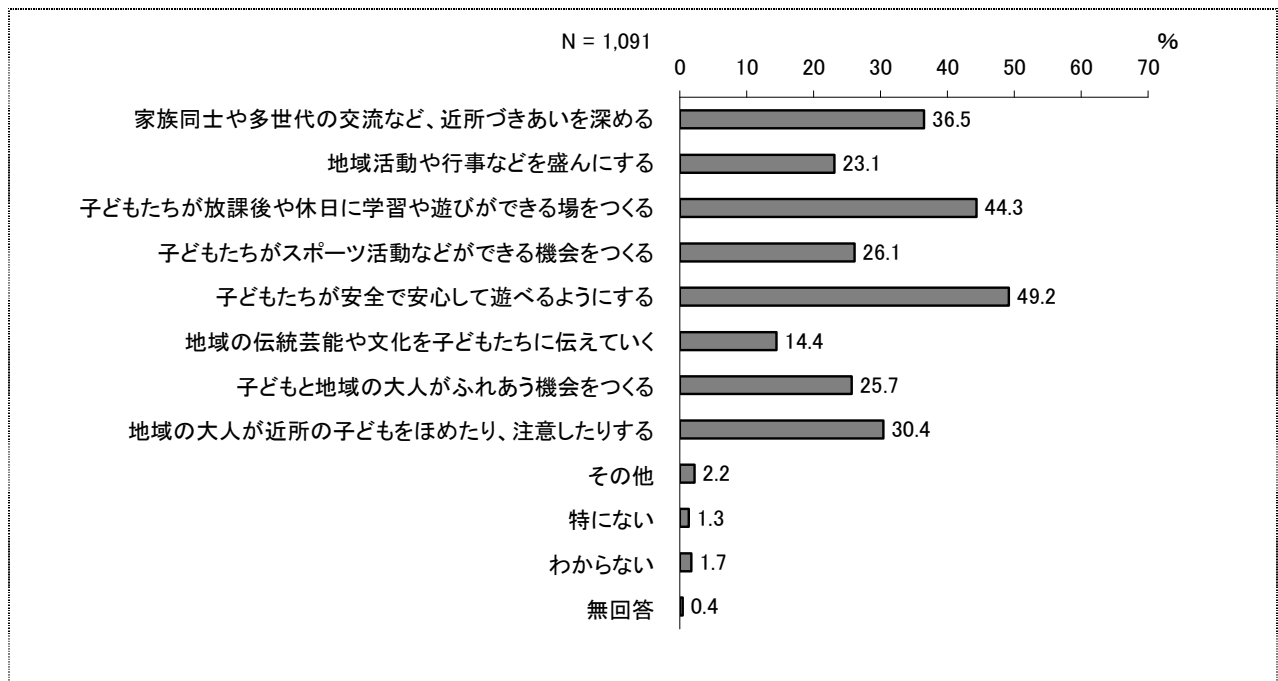
(3)「地域の教育力」を高めるために必要な取り組み

問 22 あなたは、「地域の教育力」を高めるために、地域の中でどのような取組が必要だと思いますか。(主なもの3つまで○)

「地域の教育力」を高めるために必要な取り組みについては、「子どもたちが安全で安心して遊べるようにする」の割合が 49.2%と最も高く、次いで「子どもたちが放課後や休日に学習や遊びができる場をつくる」の割合が 44.3%、「家族同士や多世代の交流など、近所づきあいを深める」の割合が 36.5%となっています。

子どもの年代別でみると、他の年代に比べ、就学前の子どもで「家族同士や多世代の交流など、近所づきあいを深める」、「子どもたちが安全で安心して遊べるようにする」の割合が高くなっています。また、中学生の子どもで「子どもと地域の大人がふれあう機会をつくる」の割合が高くなっています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、「地域の教育力」を高めるために必要な取り組み

単位：%

区分	有効回答数(件)	子どもたちが安全で安心して遊べるようにする	子どもたちが放課後や休日に学習や遊びができる場をつくる	家族同士や多世代の交流など、近所づきあいを深める	地域の大人が近所の子どもをほめたり、注意したりする	子どもと地域の大人がふれあう機会をつくる	地域活動や行事などを盛んにする	地域の伝統芸能や文化を子どもたちに伝えていく	その他	特にない	わからない	無回答
就学前の子ども	327	55.4	44.3	22.0	29.7	24.8	22.0	14.4	1.2	1.2	1.2	—
小学生の子ども	374	49.2	47.9	25.1	30.2	29.4	25.1	13.1	1.9	0.8	1.1	1.1
中学生の子ども	180	43.9	41.1	30.0	28.3	23.3	22.2	16.1	3.3	2.2	2.2	—
高校生の子ども	183	43.2	41.5	32.8	32.2	26.2	22.4	16.4	3.8	1.1	3.3	—
その他	23	47.8	30.4	43.5	47.8	13.0	17.4	8.7	—	4.3	4.3	—

III 教職員アンケート調査

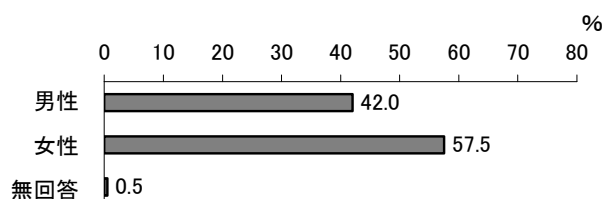
1 回答者の基本属性

問1 あなたの性別はどちらですか。

①性別

N = 628

性別については、「男性」の割合が 42.0%、「女性」の割合が 57.5%となっています。

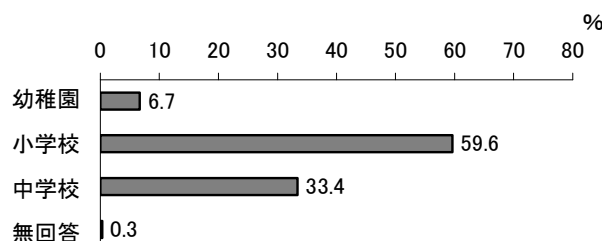


問2 あなたの勤務先はどちらですか。

②勤務先

N = 628

勤務先については、「小学校」の割合が 59.6%と最も高く、次いで「中学校」の割合が 33.4%となっています。



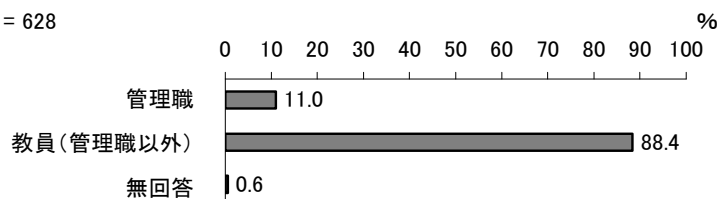
※特別支援学校については、小学部は「小学校」に、中学部・高等部は「中学校」に含まれています。

問3 あなたの職種を教えてください。

③職種

N = 628

職種については、「教員（管理職以外）」の割合が 88.4%、「管理職」の割合が 11.0%となっています。

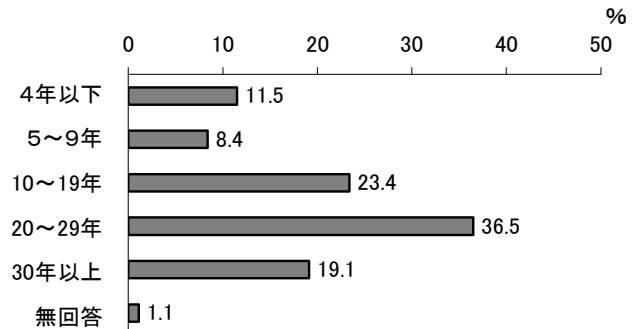


問4 あなたの経験年数を教えてください。

④経験年数

N = 628

経験年数については、「20～29年」の割合が36.5%と最も高く、次いで「10～19年」の割合が23.4%、「30年以上」の割合が19.1%となっています。

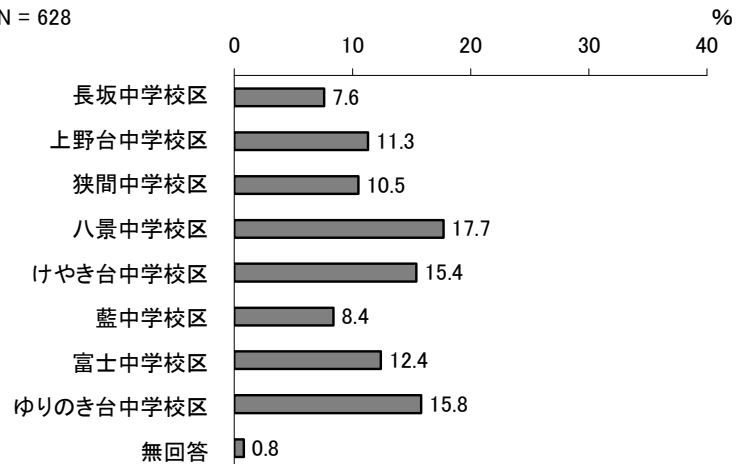


問5 あなたが勤務している学校園はどの地域ですか。

⑤勤務している学校区

N = 628

勤務している学校区(中学校単位)については、「八景中学校区」の割合が17.7%と最も高く、次いで「ゆりのき台中学校区」の割合が15.8%、「けやき台中学校区」の割合が15.4%となっています。



※特別支援学校については、富士中学校区に含まれています。

2 教職員の勤務環境の状況

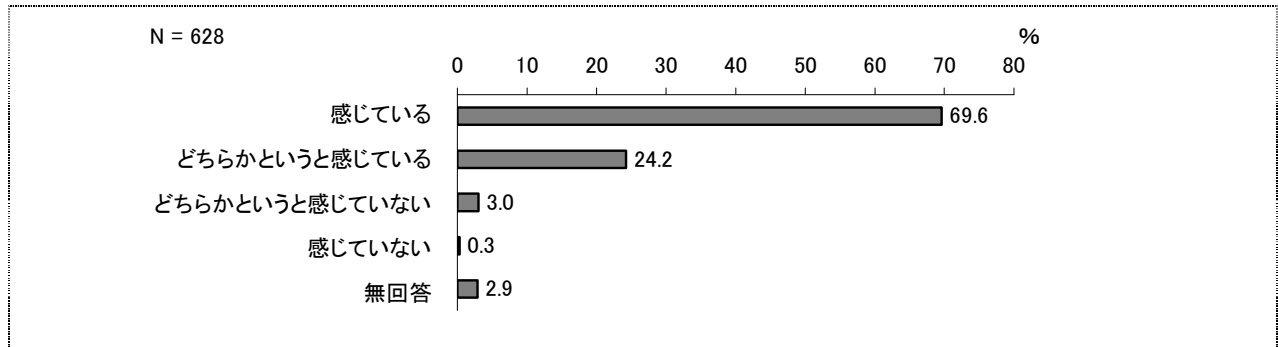
(1) 自身の職務について忙しいと感じている度合い

問6 あなたはご自身の職務について忙しいと感じていますか。(1つに○)

自身の職務について忙しいと感じている度合いについては、「感じている」と「どちらかか」と感じていない」をあわせた“忙しいと感じている”の割合が93.8%、「どちらかか」と感じていない」と「感じていない」をあわせた“忙しいと感じていない”の割合が3.3%となっています。

勤務先別でみると、幼稚園、小学校、中学校すべてで、「感じている」と「どちらかか」と感じていない」をあわせた“忙しいと感じている”の割合が高く、特に小学校で最も高い96.0%となっています。

○全体集計



○勤務先別にみた、自身の職務について忙しいと感じている度合い

単位：%

区分	有効回答数 (件)	感じている	どちらかか」と 感じていない	どちらかか」と 感じていない	感じていない	無回答
幼稚園	42	52.4	35.7	7.1	—	4.8
小学校	374	70.3	25.7	2.4	0.3	1.3
中学校	210	72.4	19.5	3.3	0.5	4.3

(2) 業務の内容について

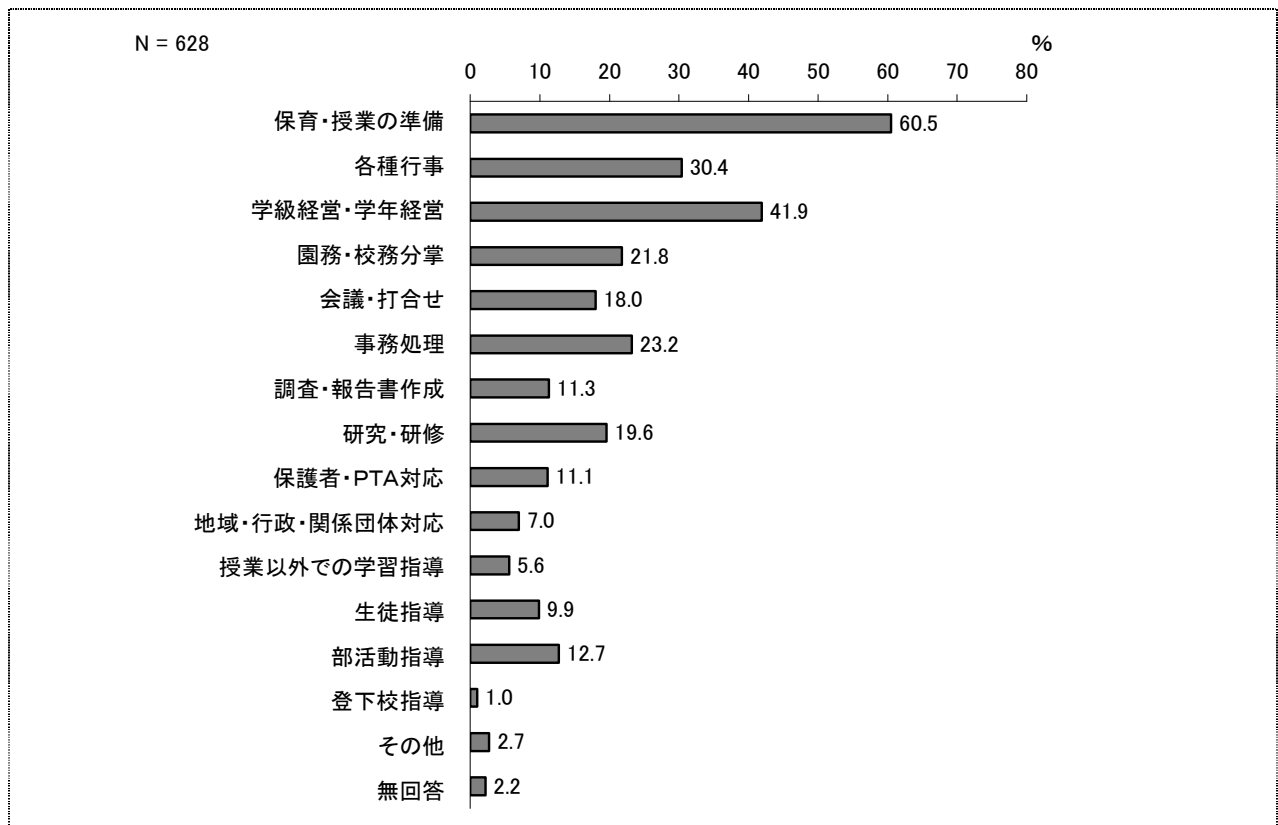
問7 仕事をするうえで、あなたが、①時間をかけている業務、②負担感を感じている業務は、どのような業務ですか。(それぞれ主なもの3つまで番号を記入)

①時間をかけている業務

時間をかけている業務の内容については、「保育・授業の準備」の割合が60.5%と最も高く、次いで「学級経営・学年経営」の割合が41.9%、「各種行事」の割合が30.4%となっています。

勤務先別でみると、他に比べ、幼稚園で「各種行事」の割合が、小学校、中学校で「学級経営・学年経営」「園務・校務分掌」の割合が高くなっています。また、中学校で「部活動指導」の割合が高くなっています。

○全体集計 (時間をかけている業務)



○勤務先別にみた、時間をかけている業務の内容

単位：%

区分	有効回答数(件)	保育・授業の準備	各種行事	学級経営・学年経営	園務・校務分掌	会議・打合せ	事務処理	調査・報告書作成	研究・研修	保護者・PTA対応	地域・行政・関係団体対応	指導	授業以外での学習	生徒指導	部活動指導	登下校指導	その他	無回答
幼稚園	42	64.3	54.8	28.6	14.3	11.9	14.3	2.4	31.0	14.3	16.7	—	—	—	—	—	9.5	—
小学校	374	62.6	36.1	43.9	22.5	21.1	23.8	12.8	25.7	11.0	6.4	7.2	7.2	—	—	0.5	1.9	1.6
中学校	210	56.7	15.7	41.4	22.4	13.8	24.3	10.5	6.7	11.0	6.2	3.8	16.7	16.7	38.1	1.9	2.9	2.9

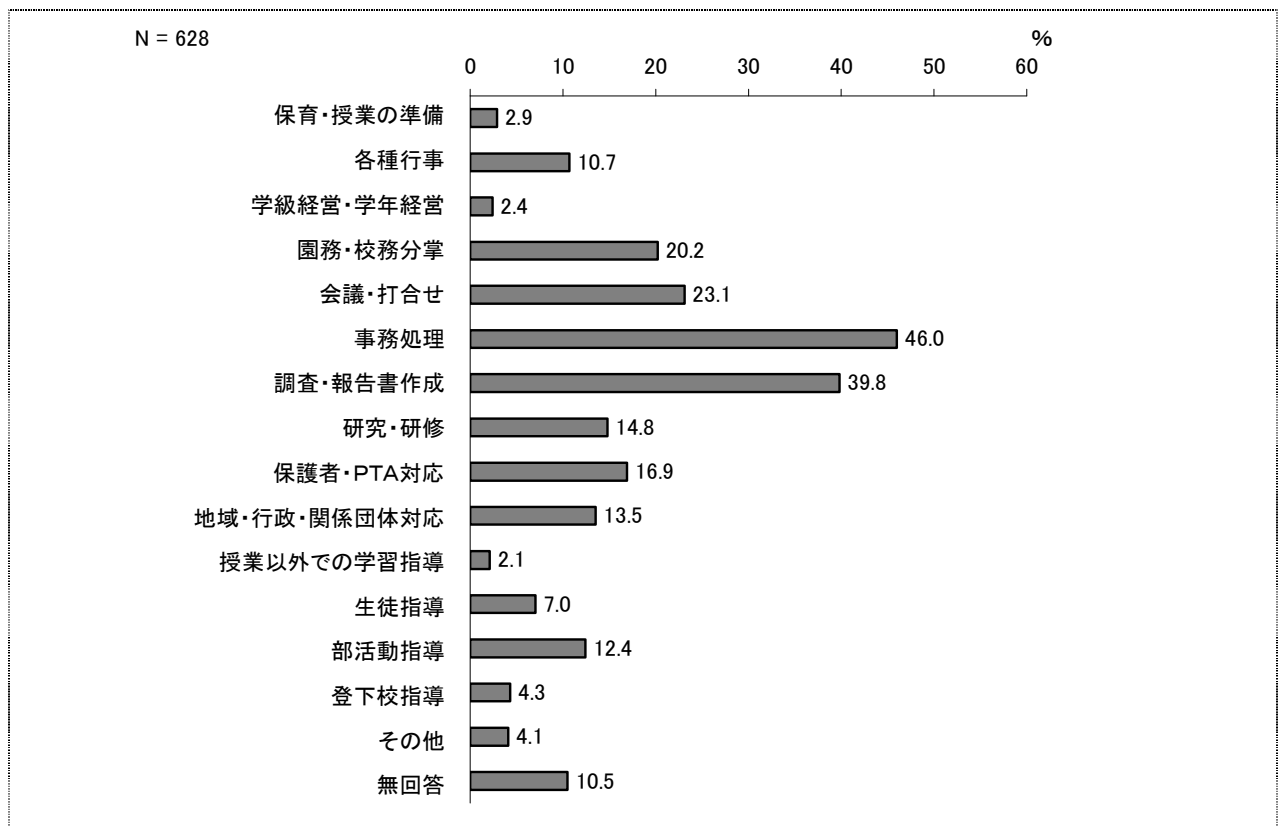
問7 仕事をするうえで、あなたが、①時間をかけている業務、②負担感を感じている業務は、どのような業務ですか。(それぞれ主なもの3つまで番号を記入)

②負担感を感じている業務

負担感を感じている業務については、「事務処理」の割合が46.0%と最も高く、次いで「調査・報告書作成」の割合が39.8%、「会議・打合せ」の割合が23.1%となっています。

勤務先別でみると、他に比べ、幼稚園で「研究・研修」の割合が、小学校で「園務・校務分掌」「会議・打合せ」「調査・報告書作成」の割合が高くなっています。また、中学校で「部活動指導」の割合が高くなっています。

○全体集計 (負担感を感じている業務)



○勤務先別にみた、負担感を感じている業務

単位：%

区分	有効回答数(件)	保育・授業の準備	各種行事	学級経営・学年経営	園務・校務分掌	会議・打合せ	事務処理	調査・報告書作成	研究・研修	保護者・PTA対応	地域・行政・関係団体対応	指導	授業以外での学習	生徒指導	部活動指導	登下校指導	その他	無回答
幼稚園	42	7.1	9.5	9.5	7.1	4.8	42.9	26.2	31.0	9.5	14.3	—	—	—	—	—	9.5	23.8
小学校	374	1.6	11.8	1.6	24.3	27.8	54.5	48.7	17.6	17.4	16.0	2.9	5.9	—	—	2.7	3.5	6.7
中学校	210	4.3	9.0	2.4	15.7	18.6	31.9	27.1	6.7	17.6	9.0	1.0	10.5	37.1	—	8.1	4.3	13.8

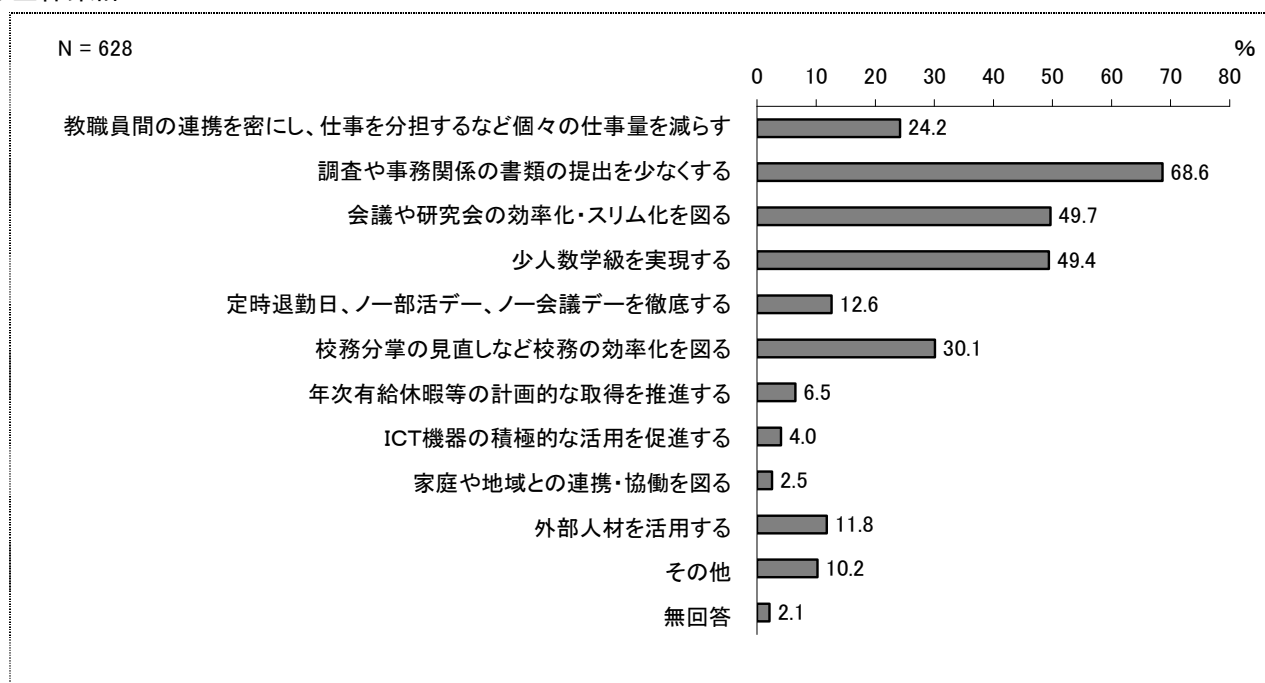
(3) 多忙を解消するために必要なこと

問8 多忙を解消するために必要なことは何だと思えますか。(主なもの3つまでに○)

多忙を解消するために必要なことについては、「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」の割合が68.6%と最も高く、次いで「会議や研究会の効率化・スリム化を図る」の割合が49.7%、「少人数学級を実現する」の割合が49.4%となっています。

勤務先別でみると、他に比べ、幼稚園で「教職員間の連携を密にし、仕事を分担するなど個々の仕事を減らす」の割合が、小学校で「少人数学級を実現する」の割合が高くなっています。また、小学校、中学校で「校務分掌の見直しなど校務の効率化を図る」の割合が高くなっています。

○全体集計



○勤務先別にみた、多忙を解消するために必要なこと

単位：%

区分	有効回答数(件)	調査や事務関係の書類の提出を少なくする	会議や研究会の効率化・スリム化を図る	少人数学級を実現する	定時退勤日、ノー部活デー、ノー会議デーを徹底する	校務分掌の見直しなど校務の効率化を図る	年次有給休暇等の計画的な取得を推進する	ICT機器の積極的な活用を促進する	家庭や地域との連携・協働を図る	外部人材を活用する	その他	無回答	
幼稚園	42	35.7	59.5	54.8	31.0	11.9	7.1	9.5	—	4.8	14.3	19.0	—
小学校	374	22.2	76.7	53.2	58.3	12.6	31.0	4.8	5.1	2.1	9.1	5.6	1.3
中学校	210	25.7	56.7	42.9	37.6	12.9	33.3	9.0	2.9	2.9	16.2	16.7	2.9

3 子どもたちの現状と望む姿

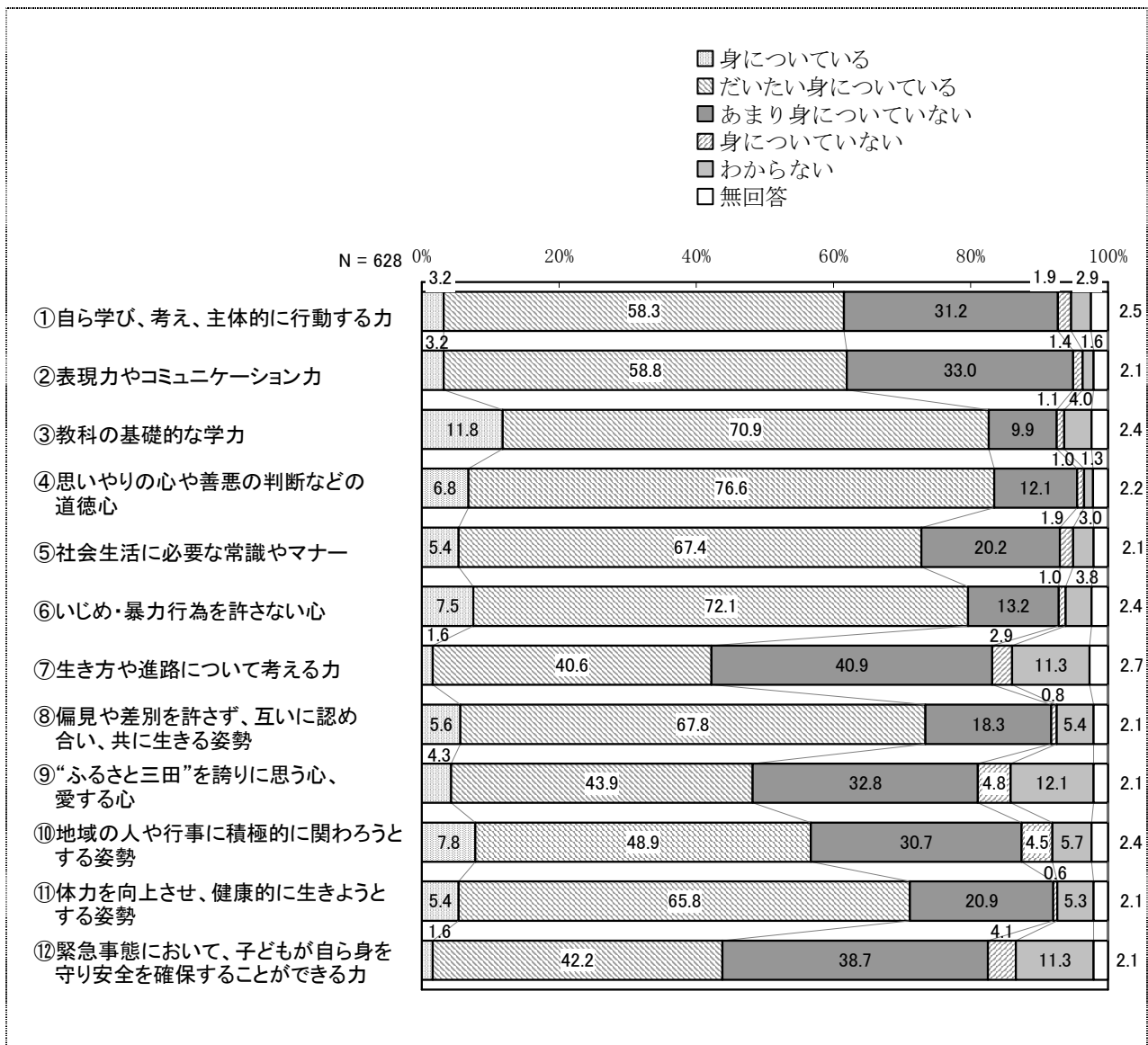
(1) 三田市の子どもたちに身につけている能力や態度

問9 教育を通じて、三田市の子どもたちには、次のような能力や態度が実際に身につけていると思いますか。

(①～⑫の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)

三田市の子どもたちに身につけている能力や態度について、「身につけている」と「だいたい身につけている」をあわせた“身につけている”の割合が、④ 思いやりの心や善悪の判断などの道徳心 83.4%、次いで③ 教科の基礎的な学力 82.7%、⑥ いじめ・暴力行為を許さない心 79.6%となっています。

○全体集計



4 子どもたちの教育についての課題と学校、就学前教育に対する教職員意識

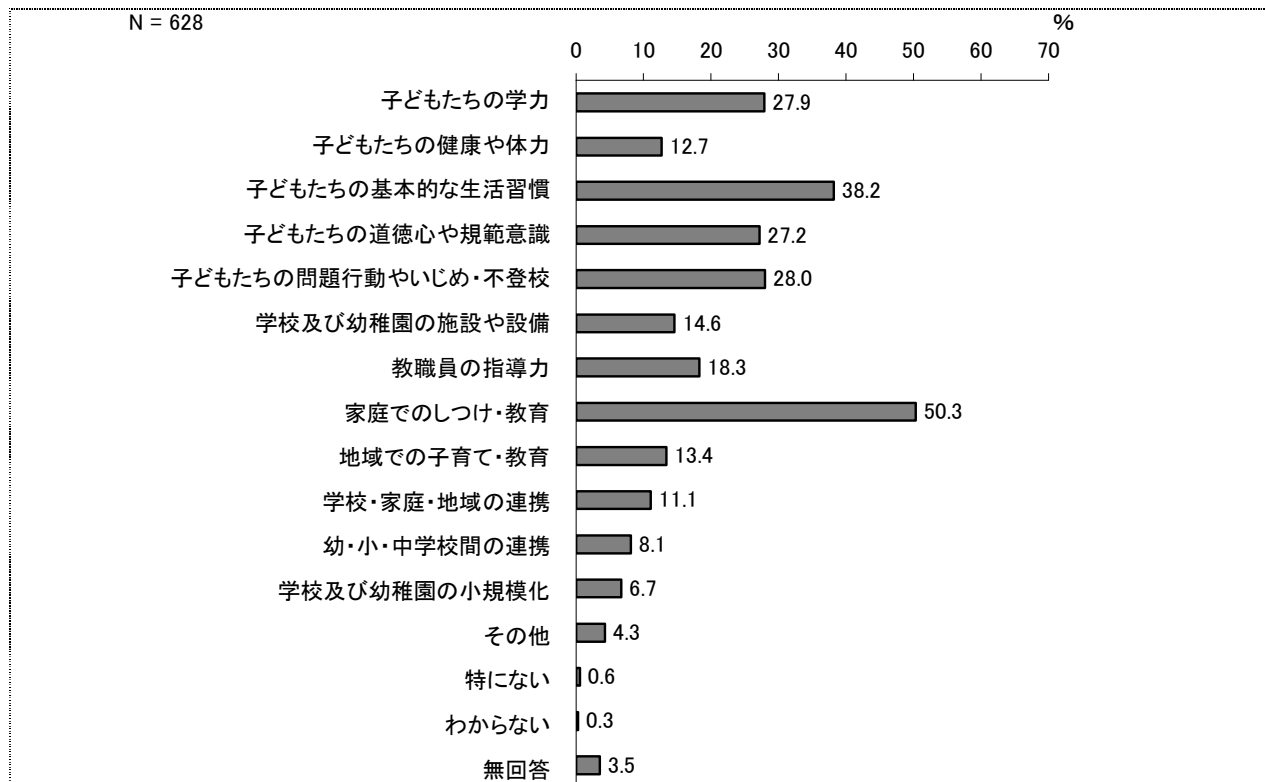
(1) 三田市の子どもたちの教育についての課題

問10 あなたが子どもたちや教育について課題と感じていることは何ですか。
(主なもの3つまでに○)

三田市の子どもたちの教育についての課題については、「家庭でのしつけ・教育」の割合が50.3%と最も高く、次いで「子どもたちの基本的な生活習慣」の割合が38.2%、「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が28.0%となっています。

勤務先別でみると、他に比べ、幼稚園で「子どもたちの健康や体力」「教職員の指導力」の割合が高くなっています。また小学校、中学校で「子どもたちの学力」「子どもたちの道徳心や規範意識」の割合が高くなっています。中学校で「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が高くなっています。

○全体集計



○勤務先別にみた、子どもたちの教育についての課題

単位：%

区分	有効回答数(件)	子どもたちの学力	子どもたちの健康や体力	子どもたちの基本的な生活習慣	子どもたちの道徳心や規範意識	子どもたちの問題行動やいじめ・不登校	学校及び幼稚園の施設や設備	教職員の指導力	家庭でのしつけ・教育	地域での子育て・教育	学校・家庭・地域の連携	幼・小・中学校間の連携	学校及び幼稚園の小規模化	その他	特にない	わからない	無回答
幼稚園	42	9.5	42.9	42.9	14.3	14.3	16.7	26.2	38.1	11.9	4.8	9.5	19.0	2.4	2.4	—	4.8
小学校	374	30.7	12.3	44.1	28.1	22.7	17.1	17.4	48.7	16.8	11.8	7.5	4.8	4.0	0.5	0.3	2.4
中学校	210	26.7	7.6	27.1	28.6	40.5	10.0	18.6	56.2	7.6	11.4	9.0	7.6	5.2	0.5	0.5	4.3

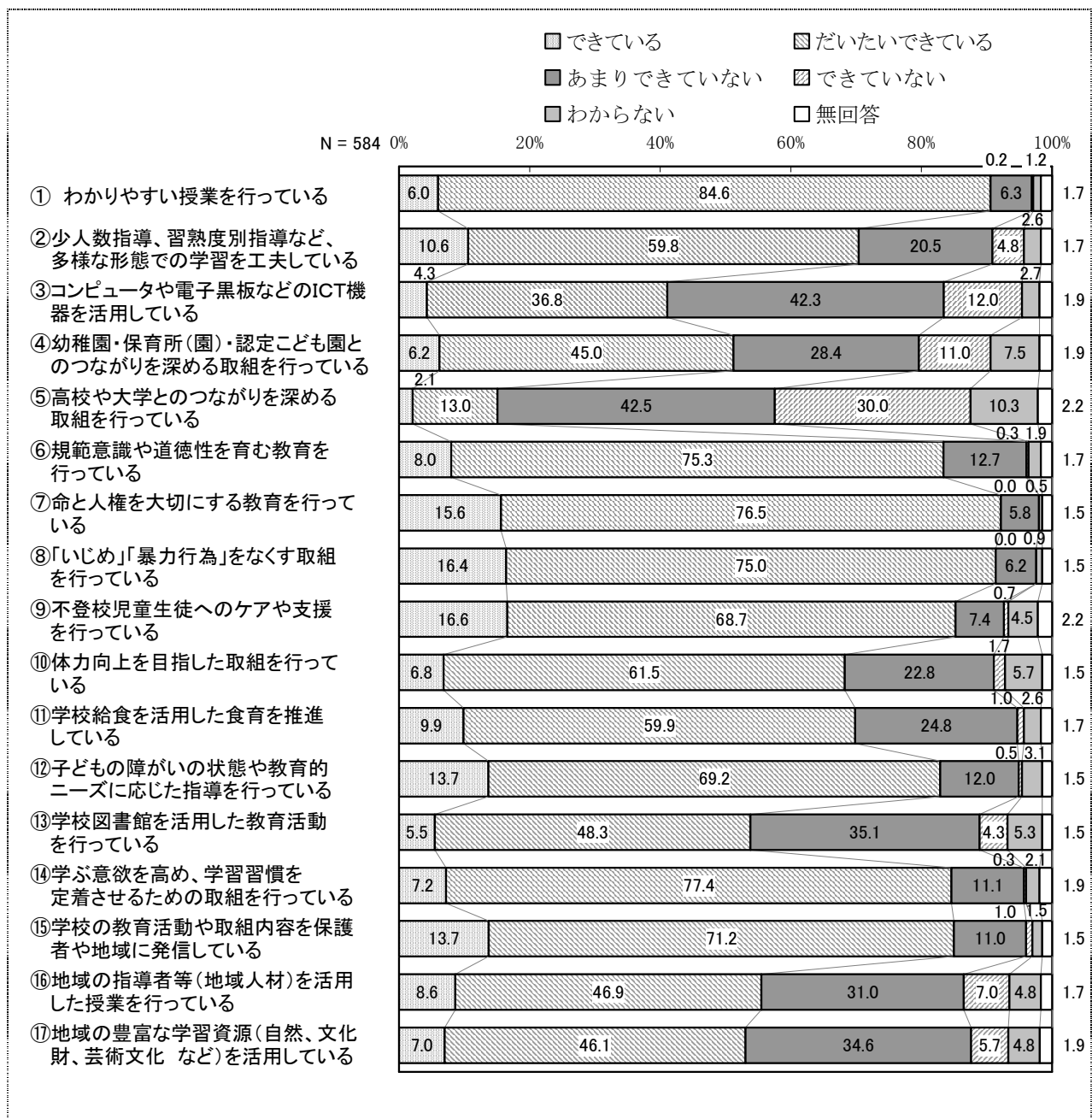
(2) 三田市の学校教育の取組でできていること

問 11 については、問 2 で「2. 小学校」、「3. 中学校」を回答した方のみお答えください。

問 11 三田市の学校教育において、次のような取組について、できていると思いますか。
(①～⑰の各項目について、あてはまるもの、それぞれひとつだけに○)

三田市の学校教育の取組でできていることについて、「できている」と「だいたいできている」をあわせた“できている”の割合が、⑦ 命と人権を大切にする教育を行っている 92.1%、次いで⑧ 「いじめ」「暴力行為」をなくす取組を行っている 91.4%、① わかりやすい授業を行っている 90.6%となっています。

○全体集計



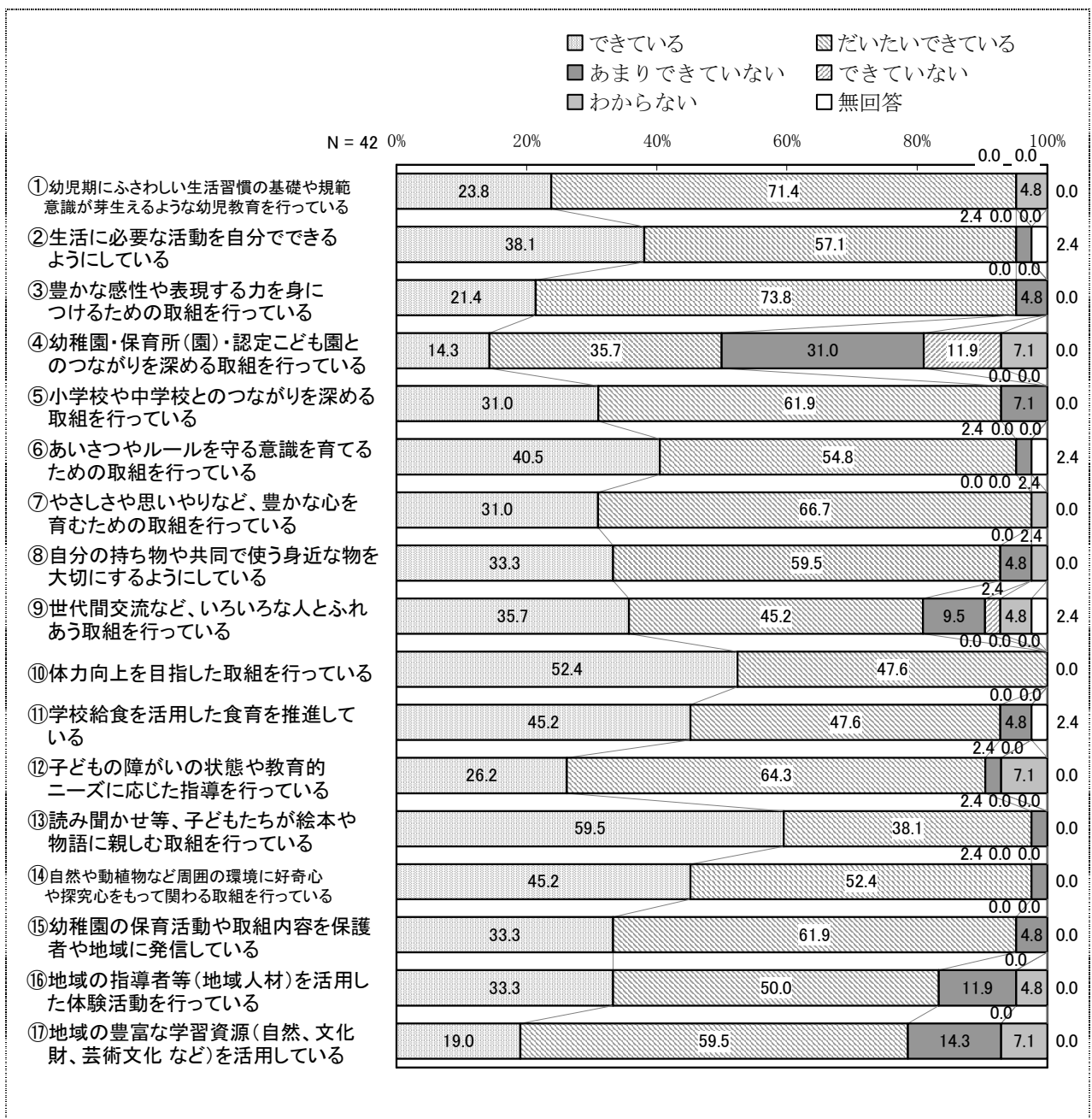
(3) 三田市の就学前教育の取組でできていること

問12については、問2で「1. 幼稚園」を回答した方のみお答えください。

問12 三田市の就学前教育において、次のような取組について、できていると思いますか。(①～⑰の各項目について、あてはまるもの、それぞれひとつだけに○)

三田市の就学前教育の取組でできていることについては、④ 幼稚園・保育所(園)・認定こども園とのつながりを深める取組を行っているを除くすべての項目で「できている」と「だいたいできている」をあわせた“できている”の割合が75%以上と高くなっています。

○全体集計



5 学校・幼稚園の小規模化に対する教職員意識

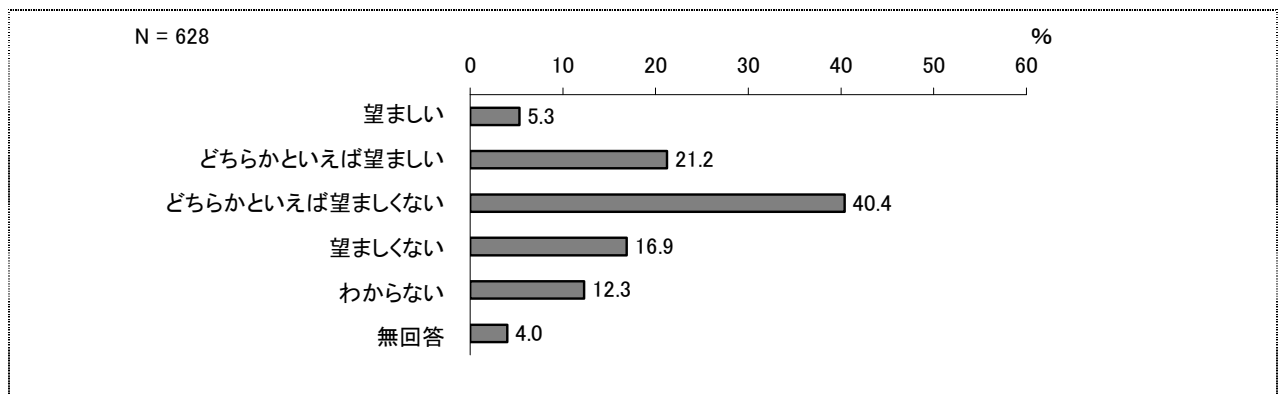
(1) 幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考え

問13 少子化に伴い、市立の幼稚園及び小中学校の子どもの数が減少しており、混合学級の幼稚園（4歳児と5歳児が1クラス）、1学年1クラスの小中学校があり、今後、小規模な幼稚園や小中学校が増加していくことが予想されます。市立の幼稚園及び小中学校が小規模化していくことについてあなたはどのように思いますか。
(1つに○)

幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考えについては、「望ましい」と「どちらかといえば望ましい」をあわせた“望ましい”の割合が26.5%、「どちらかといえば望ましくない」と「望ましくない」をあわせた“望ましくない”の割合が57.3%となっています。

勤務先別でみると、他に比べ、小学校で、「望ましい」と「どちらかといえば望ましい」をあわせた“望ましい”の割合が高くなっています。また、中学校で、「どちらかといえば望ましくない」と「望ましくない」をあわせた“望ましくない”の割合が高くなっています。

○全体集計



○勤務先別にみた、幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考え

単位：%

区分	有効回答数(件)	望ましい	どちらかといえば望ましい	どちらかといえば望ましくない	望ましくない	わからない	無回答
幼稚園	42	—	26.2	45.2	11.9	16.7	—
小学校	374	6.1	26.5	40.9	7.8	14.2	4.5
中学校	210	4.8	11.0	39.0	34.3	8.1	2.9

(2) 望ましい理由

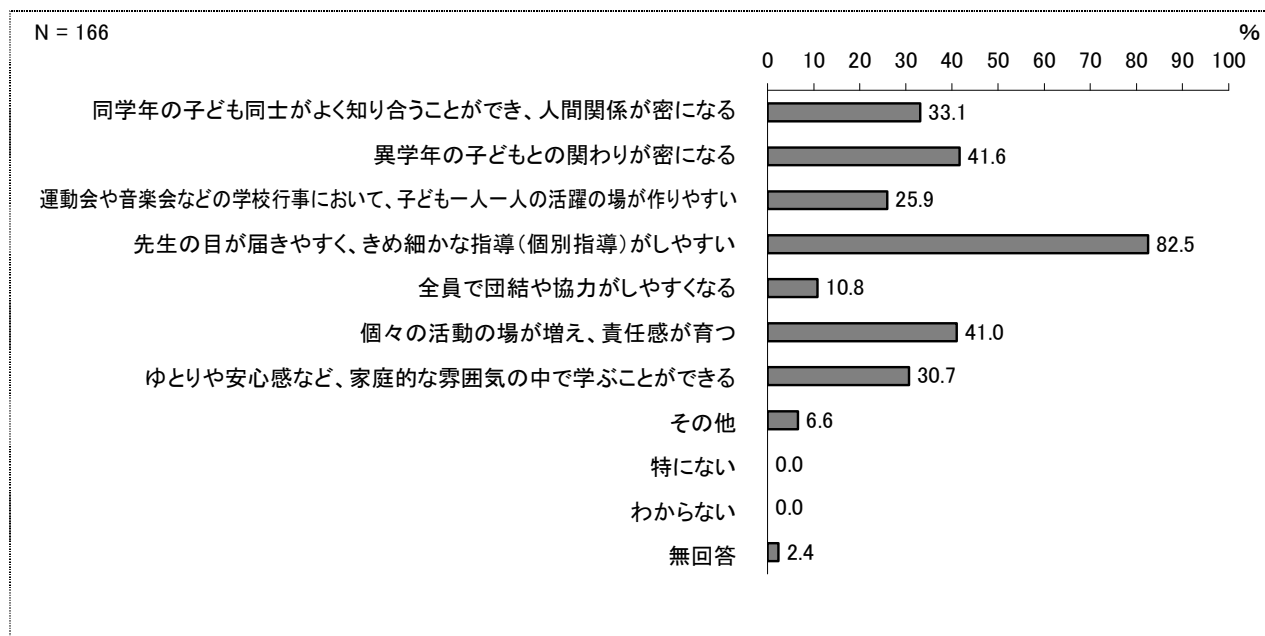
問13-1については、問13で「1. 望ましい」「2. どちらかといえば望ましい」を回答した方のみお答えください。

問13-1 その理由は何ですか。(主なもの3つまで○)

幼稚園・小学校・中学校の小規模化を望ましいと思う理由については、「先生の目が届きやすく、きめ細かな指導（個別指導）がしやすい」の割合が82.5%と最も高く、次いで「異学年の子どもとの関わりが密になる」の割合が41.6%、「個々の活動の場が増え、責任感が育つ」の割合が41.0%となっています。

勤務先別でみると、他に比べ、小学校で「運動会や音楽会などの学校行事において、子ども一人一人の活躍の場が作りやすい」の割合が高くなっています。

○全体集計



○勤務先別にみた、望ましい理由

単位：%

区分	有効回答数(件)	同学年の子ども同士がよく知り合うことができ、人間関係が密になる	異学年の子どもとの関わりが密になる	運動会や音楽会などの学校行事において、子ども一人一人の活躍の場が作りやすい	先生の目が届きやすく、きめ細かな指導（個別指導）がしやすい	全員で団結や協力がしやすくなる	個々の活動の場が増え、責任感が育つ	ゆとりや安心感など、家庭的な雰囲気の中で学ぶことができる	その他	特にない	わからない	無回答
幼稚園	11	36.4	72.7	18.2	100.0	—	36.4	27.3	9.1	—	—	—
小学校	122	32.0	44.3	29.5	83.6	11.5	41.0	32.0	4.9	—	—	2.5
中学校	33	36.4	21.2	15.2	72.7	12.1	42.4	27.3	12.1	—	—	3.0

(3) 望ましくない理由

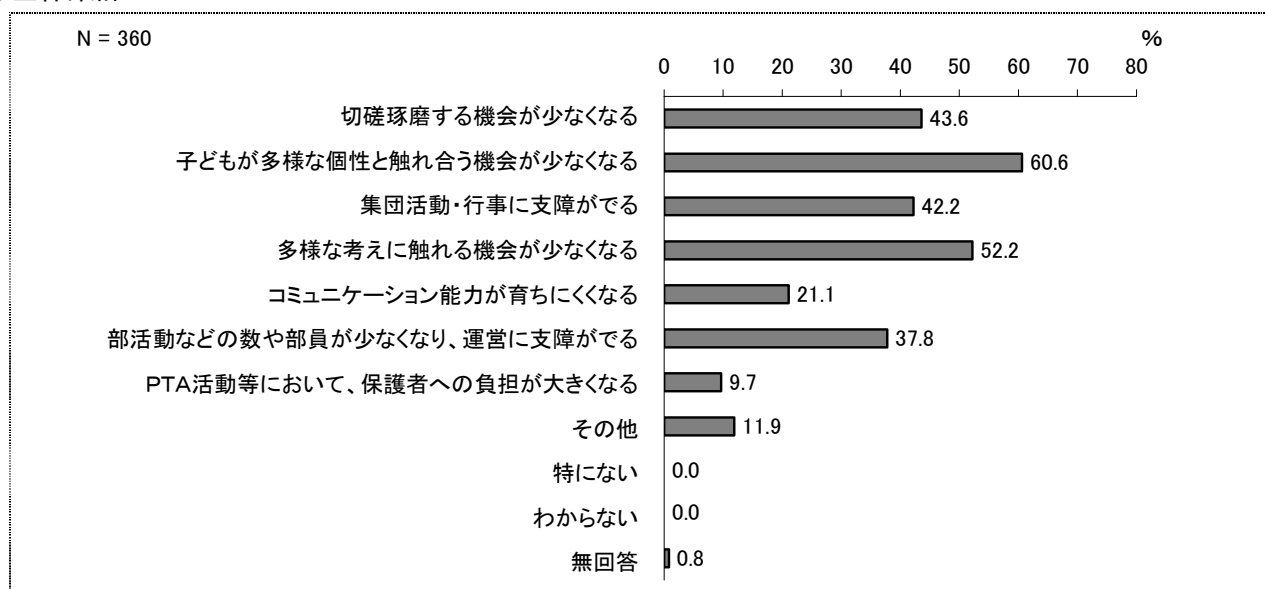
問13-2については、問13で「3. どちらかといえば望ましくない」「4. 望ましくない」を回答した方のみお答えください。

問13-2 その理由は何ですか。(主なもの3つまで○)

幼稚園・小学校・中学校の小規模化を望ましくないと思う理由については、「子どもが多様な個性と触れ合う機会が少なくなる」の割合が60.6%と最も高くなっています。

勤務先別でみると、他に比べ、小学校、中学校で「集団行動・行事に支障がでる」の割合が高くなっています。また、中学校で「部活動などの数や部員が少なくなり、運営に支障がでる」の割合が高くなっています。

○全体集計



○勤務先別にみた、望ましくない理由

単位：%

区分	有効回答数(件)	切磋琢磨する機会が少なくなる	子どもが多様な個性と触れ合う機会が少なくなる	集団活動・行事に支障がでる	多様な考えに触れる機会が少なくなる	コミュニケーション能力が育ちにくくなる	部活動などの数や部員が少なくなり、運営に支障がでる	PTA活動等において、保護者への負担が大きくなる	その他	特にない	わからない	無回答
幼稚園	24	50.0	58.3	33.3	62.5	29.2	12.5	12.5	4.2	—	—	—
小学校	182	45.1	73.1	40.7	60.4	24.2	18.7	8.8	7.1	—	—	1.6
中学校	154	40.9	46.1	45.5	40.9	16.2	64.3	10.4	18.8	—	—	—

6 三田市の教育全般の教職員意識

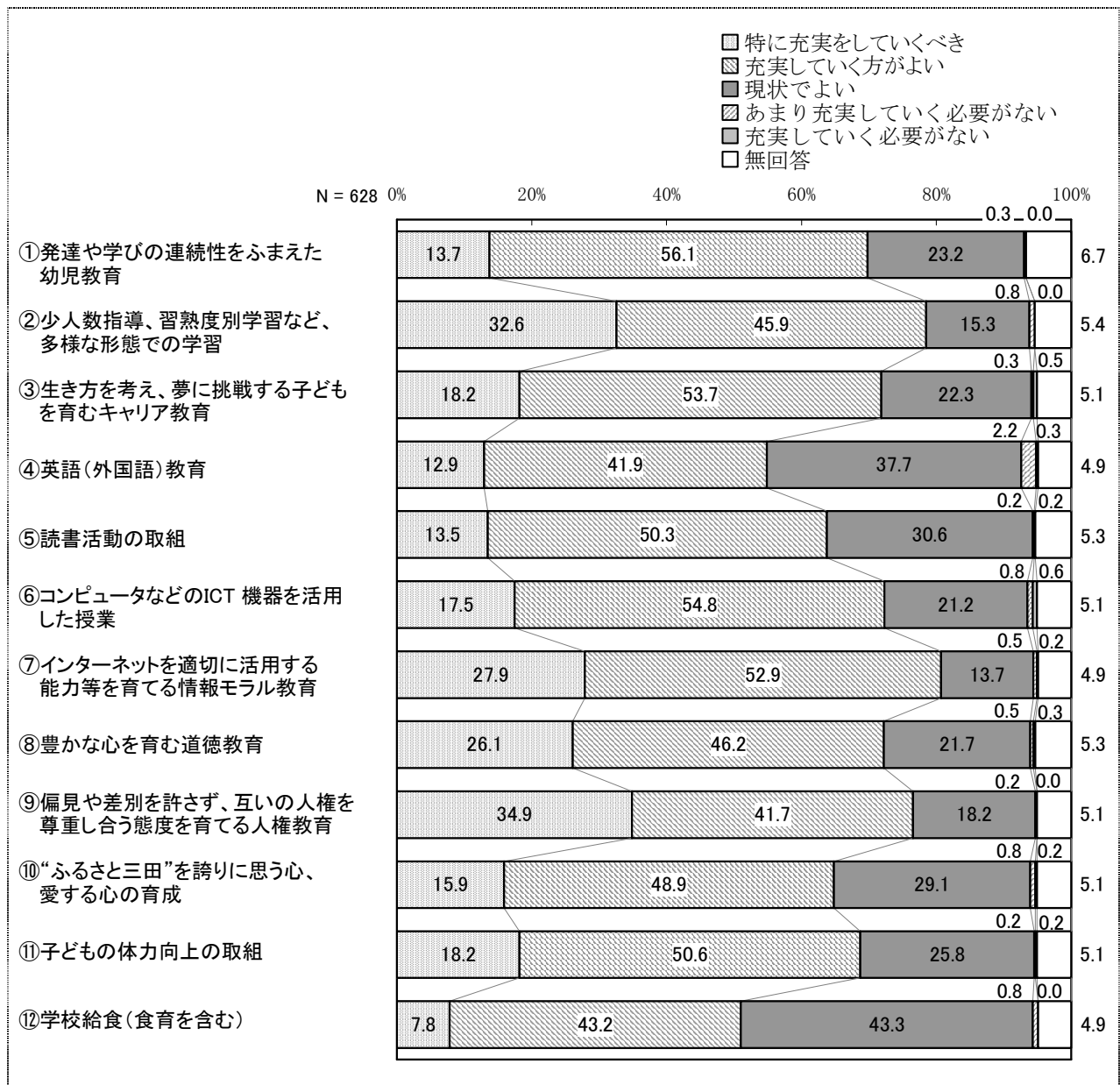
(1) 今後三田市で力を入れて行う必要がある教育施策・教育事業

問 14 次の教育施策や教育事業について、あなたは、今後三田市で力を入れて行う必要があると思いますか。

(①～⑳の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)

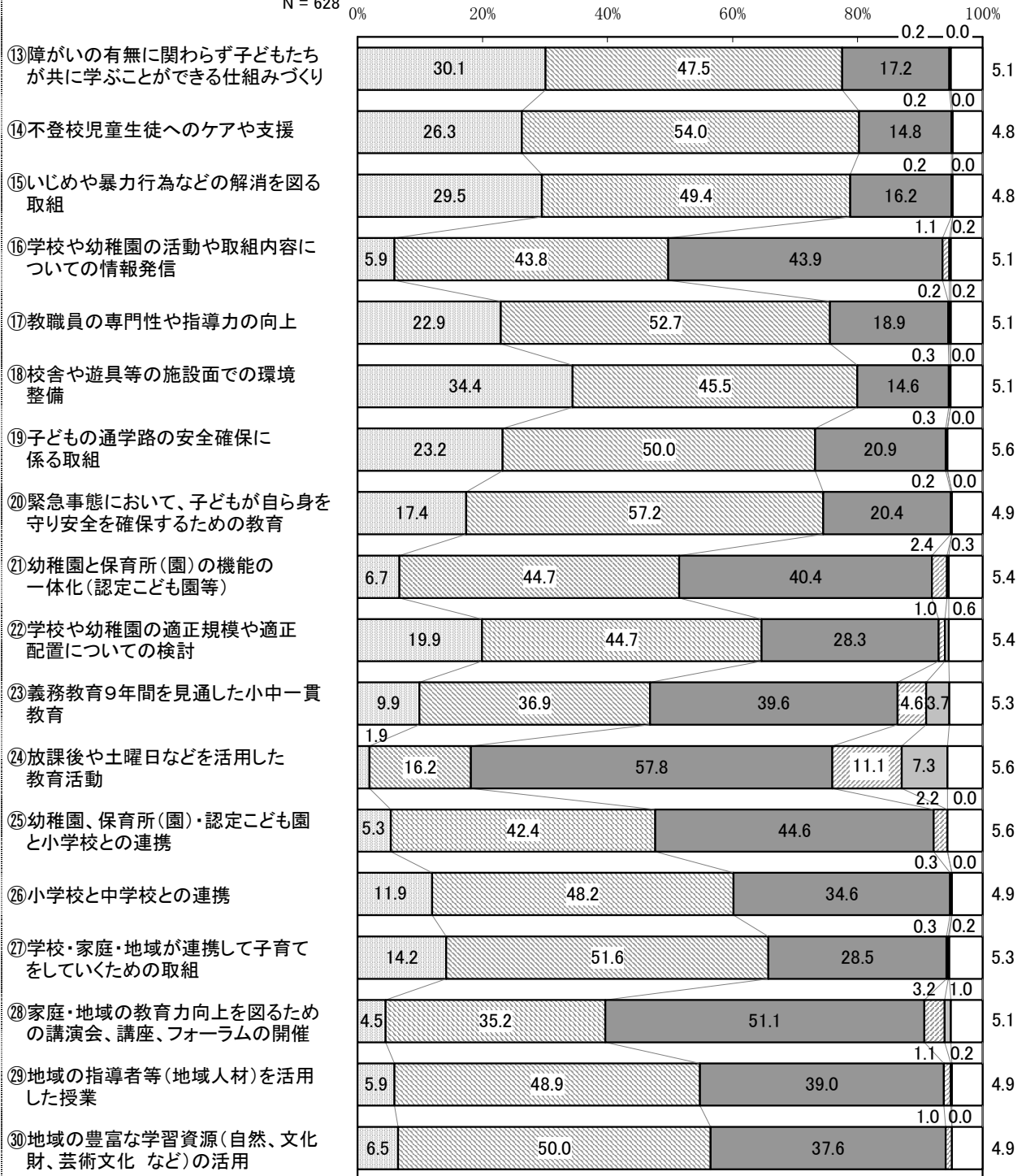
今後三田市で力を入れて行う必要がある教育施策や教育事業については、「特に充実をしていくべき」と「充実していく方がよい」をあわせた“充実していくべき”の割合が、⑦ インターネットを適切に活用する能力等を育てる情報モラル教育 80.8%、次いで⑭ 不登校児童生徒へのケアや支援 80.3%となっています。

○全体集計



- 特に充実をしていくべき
- ▨ 充実していく方がよい
- 現状でよい
- ▩ あまり充実していく必要がない
- 充実していく必要がない
- 無回答

N = 628



IV 共通集計

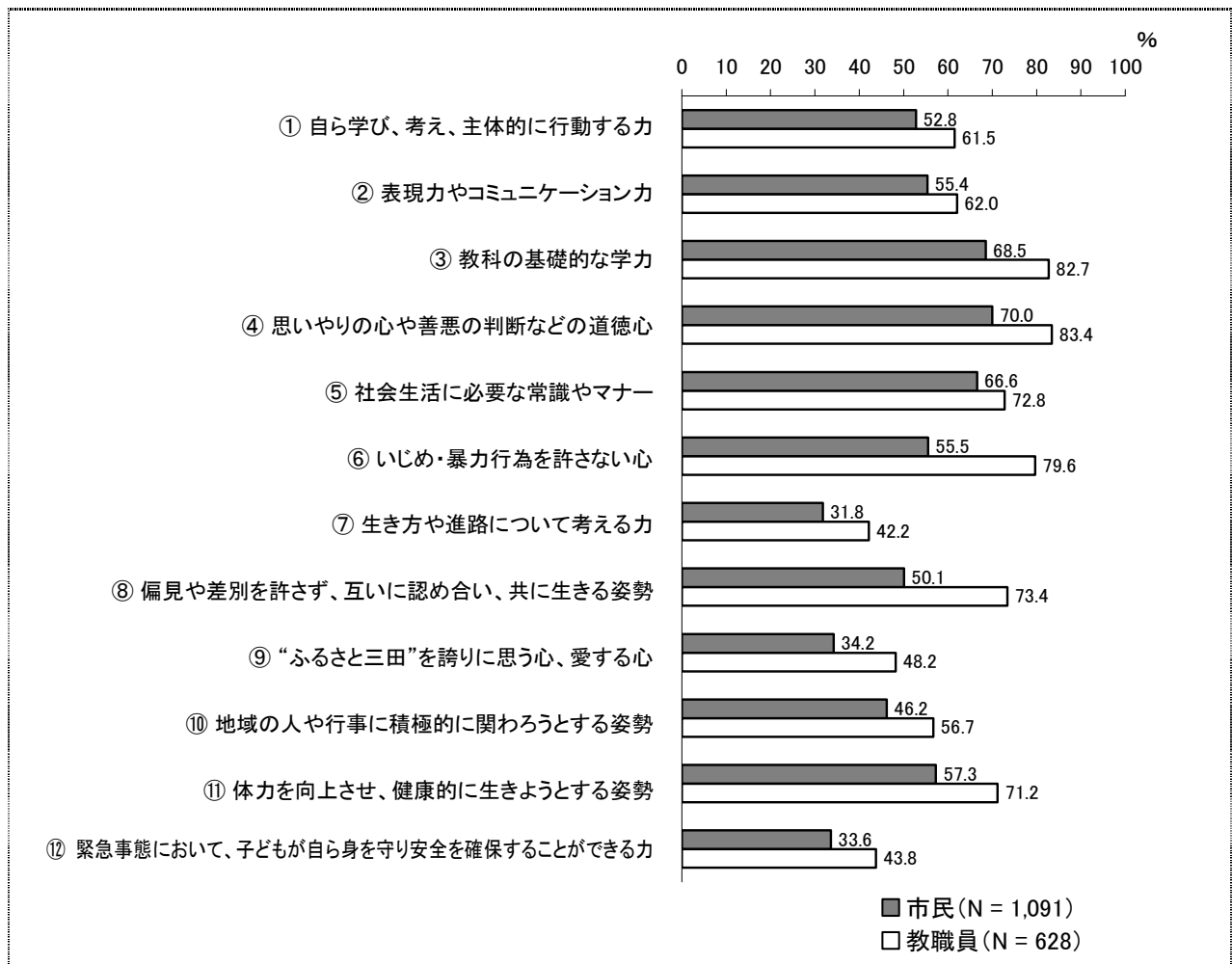
1 子どもたちの現状と望む姿

(1) 三田市の子どもたちに身につけている能力や態度

教育を通じて、三田市の子どもたちには、次のような能力や態度が実際に身につけていると思いますか。(①～⑫の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)
(市民 問 11、教職員 問 9)

市民と教職員を比較すると、すべての項目で市民よりも教職員で「身につけている」と「だいたい身につけている」をあわせた“身につけている”と思う人の割合が高くなっています。

○全体集計 (“身につけている” とする人の割合)



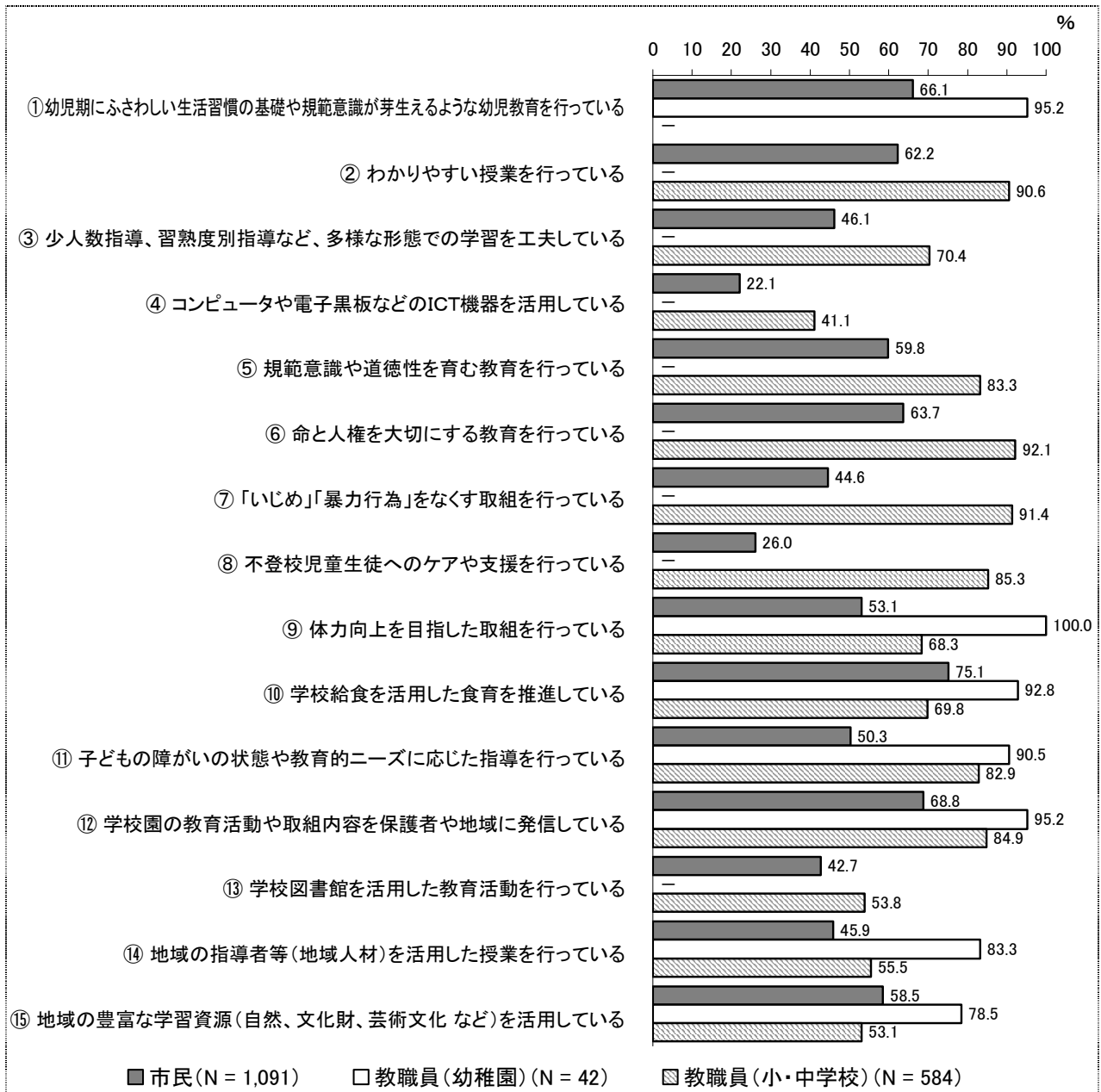
2 子どもたちの教育についての課題と学校、就学前教育に対する意識

(1) 三田市の学校教育の取組でできていること

三田市の学校教育において、次のような取組について、できていると思いますか。
 (①～⑮の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)
 (市民 問 12、教職員 問 11、問 12)

市民と教職員を比較すると、市民、教職員とも「⑩ 学校給食を活用した食育を推進している」「⑫ 学校園の教育活動や取組内容を保護者や地域に発信している」で、「できている」と「だいたいできている」をあわせた“できている”と思う人の割合が、共通して高くなっています。

○全体集計 (“できている” と 思う人の割合)



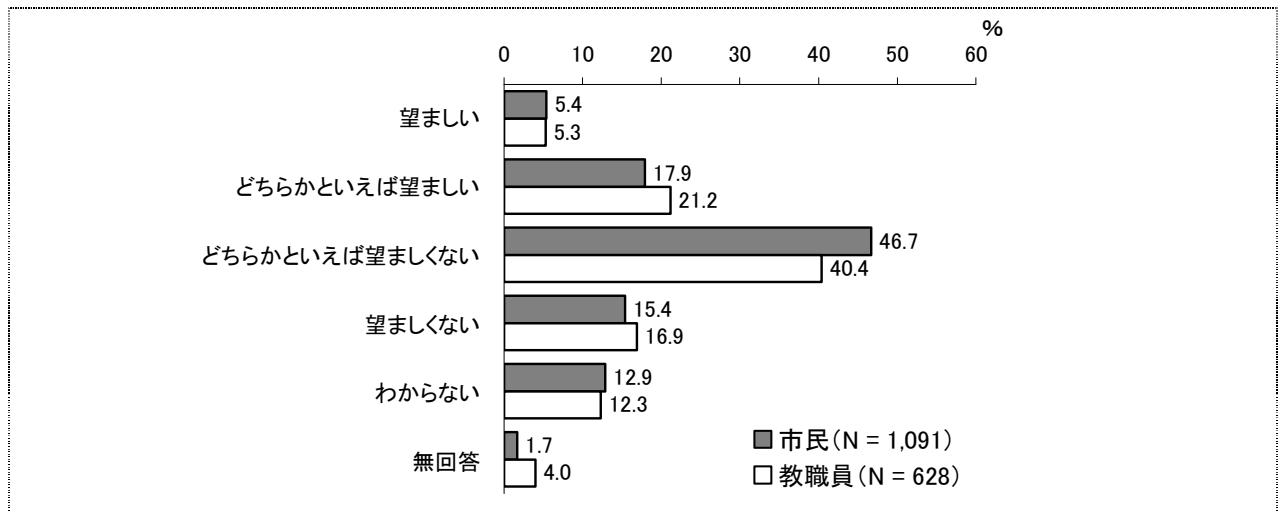
3 学校・幼稚園の小規模化に対する意識

(1) 幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考え

少子化に伴い、市立の幼稚園及び小中学校の子ども数が減少しており、混合学級の幼稚園（4歳児と5歳児が1クラス）、1学年1クラスの小中学校があり、今後、小規模な幼稚園や小中学校が増加していくことが予想されます。市立の幼稚園及び小中学校が小規模化していくことについてあなたはどのように思いますか。（1つに○）（市民 問 18、教職員問 13）

市民と教職員を比較すると、幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考えについては、大きな差異はみられません。

○全体集計



(2) 望ましい理由

前問で「1. 望ましい」「2. どちらかといえば望ましい」を回答した方のみお答えください。

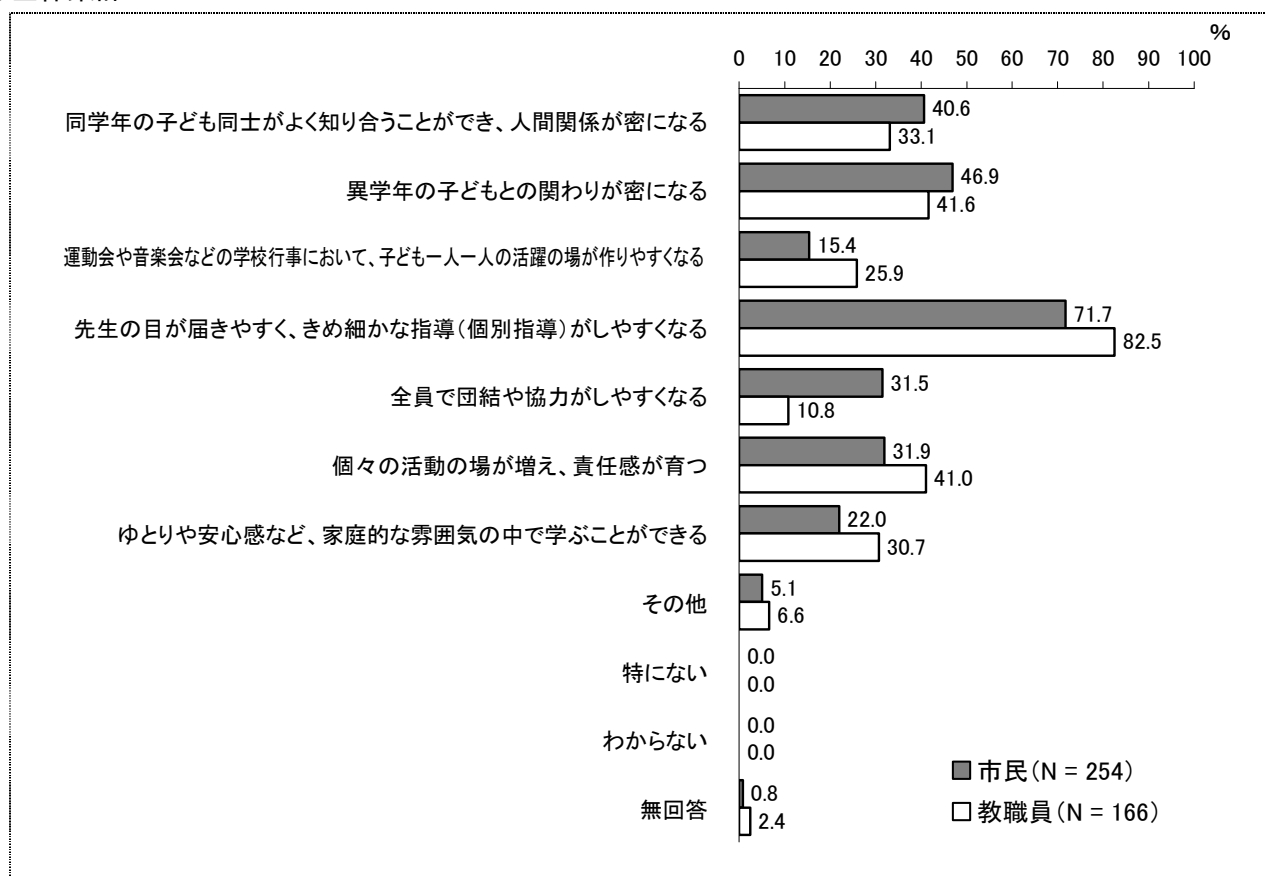
その理由は何ですか。(主なもの3つまで○)(市民 問 18-1、教職員問 13-1)

市民と教職員を比較すると、市民、教職員とも「先生が目が届きやすく、きめ細かな指導(個別指導)がしやすくなる」の割合が最も高くなっています。

市民では、教職員に比べて、「同学年の子ども同士がよく知り合うことができ、人間関係が密になる」「異学年の子どもとの関わりが密になる」「全員で団結や協力がしやすくなる」の割合が高くなっています。

教職員では、市民に比べて、「運動会や音楽会などの学校行事において、子ども一人一人の活躍の場が作りやすくなる」「先生が目が届きやすく、きめ細かな指導(個別指導)がしやすくなる」「個々の活動の場が増え、責任感が育つ」「ゆとりや安心感など、家庭的な雰囲気の中で学ぶことができる」の割合が高くなっています。

○全体集計



(3) 望ましくない理由

前問で「3. どちらかといえば望ましくない」「4. 望ましくない」を回答した方のみお答えください。

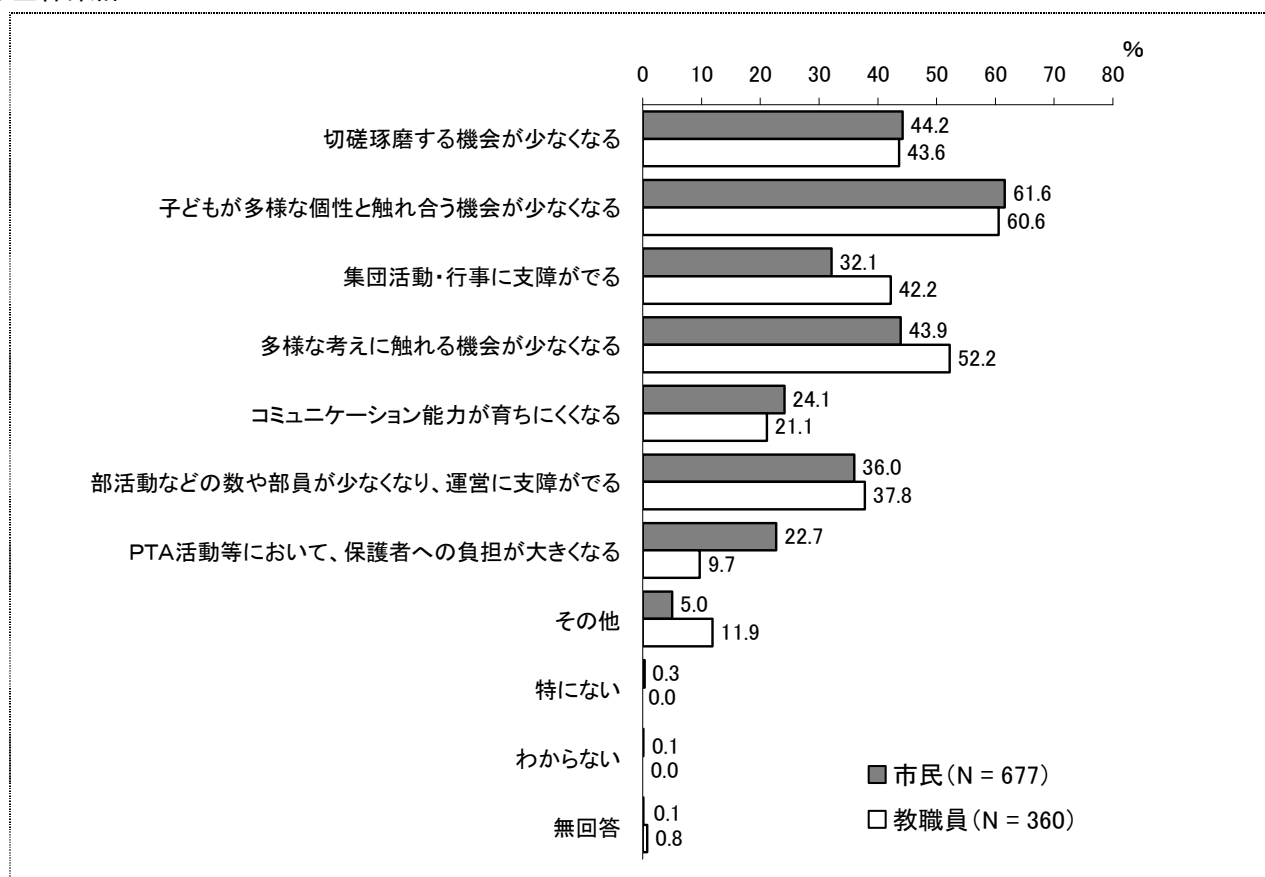
その理由は何ですか。(主なもの3つまで○)(市民 問 18-2、教職員問 13-2)

市民と教職員を比較すると、市民、教職員とも「子どもが多様な個性と触れ合う機会が少なくなる」の割合が最も高くなっています。

市民では、教職員に比べて、「PTA活動等において、保護者への負担が大きくなる」の割合が高くなっています。

教職員では、市民に比べて、「集団活動・行事に支障がでる」「多様な考えに触れる機会が少なくなる」の割合が高くなっています。

○全体集計



4 三田市の教育全般の意識

(1) 今後三田市で力を入れて行う必要がある教育施策・教育事業

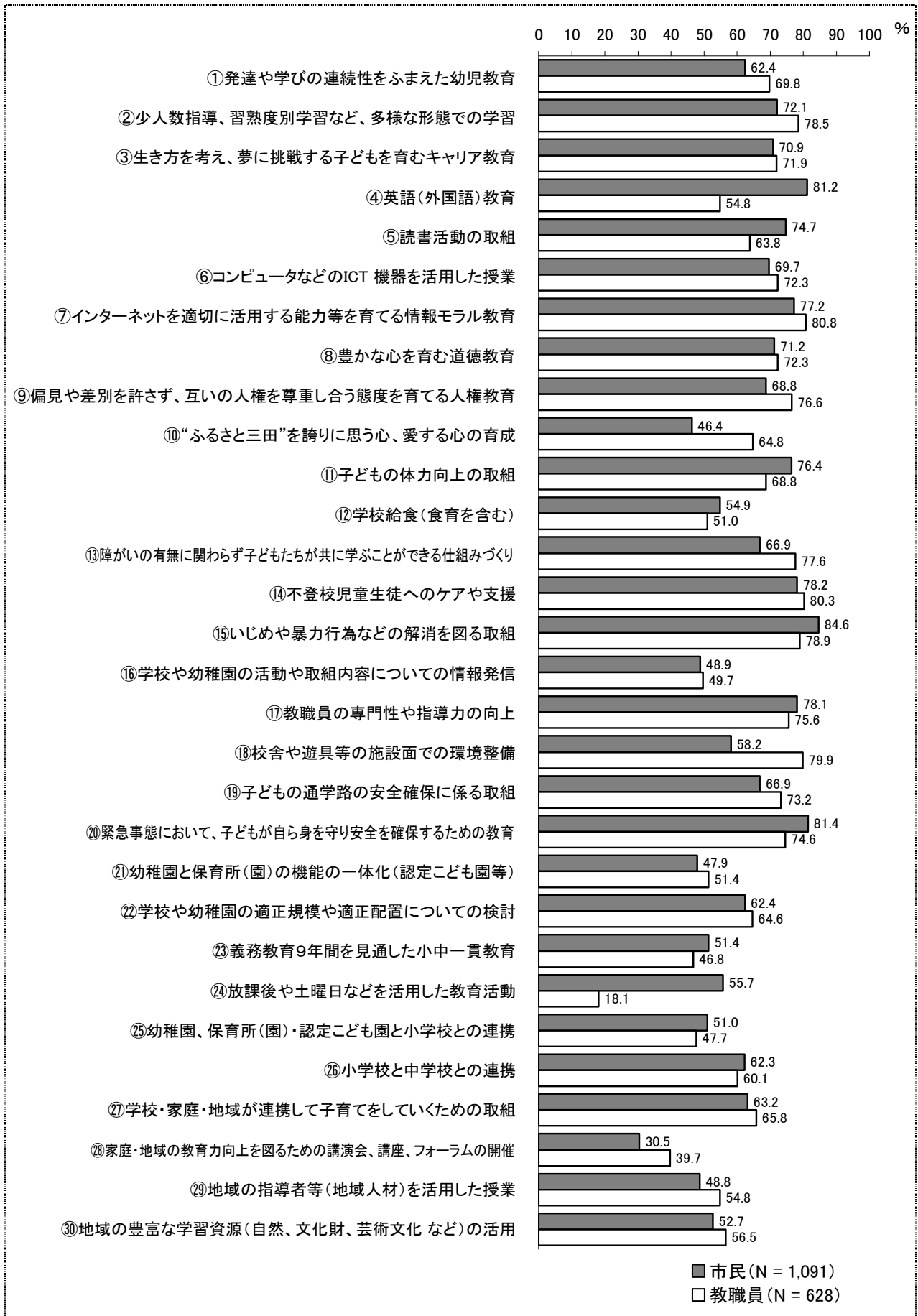
次の教育施策や教育事業について、あなたは、今後三田市で力を入れて行う必要があると思いますか。(①～⑳の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)
(市民 問 19、教職員問 14)

市民と教職員を比較すると、市民、教職員とも「⑦ インターネットを適切に活用する能力等を育てる情報モラル教育」「⑭ 不登校児童生徒へのケアや支援」「⑮ いじめや暴力行為などの解消を図る取組」「⑰ 教職員の専門性や指導力の向上」で、「特に充実していくべき」と「充実していく方がよい」をあわせた“充実していくべき”の割合が、共通して高くなっています。

市民では、教職員に比べて、「④ 英語(外国語)教育」「⑤ 読書活動の取組」「⑪ 子どもの体力向上の取組」「⑳ 緊急事態において、子どもが自ら身を守り安全を確保するための教育」「㉔ 放課後や土曜日などを活用した教育活動」で“充実していくべき”の割合が高くなっています。

教職員では、市民に比べて、「① 発達や学びの連続性をふまえた幼児教育」「② 少人数指導、習熟度別学習など、多様な形態での学習」「⑨ 偏見や差別を許さず、互いの人権を尊重し合う態度を育てる人権教育」「⑩ “ふるさと三田”を誇りに思う心、愛する心の育成」「⑬ 障がいの有無に関わらず子どもたちが共に学ぶことができる仕組みづくり」「⑱ 校舎や遊具等の施設面での環境整備」「⑲ 子どもの通学路の安全確保に係る取組」「㉘ 家庭・地域の教育力向上を図るための講演会、講座、フォーラムの開催」「㉙ 地域の指導者等(地域人材)を活用した授業」で、“充実していくべき”の割合が高くなっています。

○全体集計（“充実していくべき”と思う人の割合）



V 調査結果の概要

今回実施した「市民アンケート調査」及び「教職員アンケート調査」から、第1期計画の基本目標に基づき、以下のとおり調査結果の概要を整理しました。

1 自ら学び、心豊かに生きる子どもの育成について

市民アンケート調査結果では三田市の子どもたちに望む姿（P12）について、「思いやりやさしさを持った子ども」の割合（72.2%）が最も高く、次いで「ルールやマナーを守る子ども」の割合（57.8%）が高くなっており、思いやりや規範意識を持つてほしいと願っていることがわかります。

これは、現在の三田市の子どもたちに身につけている能力や態度について聞いている設問（共通集計P43）から、④ 思いやりの心や善悪の判断などの道徳心（市民：70.0% 教職員：83.4%）、③ 教科の基礎的な学力（市民：68.5% 教職員：82.7%）、⑤ 社会生活に必要な常識やマナー（市民：66.6% 教職員：72.8%）において“身につけている”の割合が高くなっていることから、現在身につけている能力や態度を今後も引き続き子どもたちに望んでいることがうかがえます。

一方で、⑨ “ふるさと三田”を誇りに思う心、愛する心（市民：34.2% 教職員：48.2%）、⑫ 緊急事態において、子どもが自ら身を守り安全を確保することができる力（市民：33.6% 教職員：43.8%）、⑦ 生き方や進路について考える力（市民：31.8% 教職員：42.2%）では“身につけている”の割合が、他に比べて低くなっていることから、まちへの愛着心や自ら身を守る力など次期計画に引き継ぐ課題がみられます。

現在の三田市の学校教育の取組でできていること（P8）について、市民アンケート調査では、⑩ 学校給食を活用した食育を推進しているで、「できている」と「だいたいできている」をあわせた“できている”の割合が高く（75.1%）なっています。

教職員アンケート調査（P36）では、⑦ 命と人権を大切にする教育を行っているで、「できている」と「だいたいできている」をあわせた“できている”の割合が高く（92.1%）なっています。

次に、今後三田市で力を入れて行う必要がある教育施策・教育事業（共通集計P49）について、市民では、④ 英語（外国語）教育（市民：81.2% 教職員：54.8%）、⑤ 読書活動の取組（市民：74.7% 教職員：63.8%）、⑪ 子どもの体力向上の取組（市民：76.4% 教職員：68.8%）、⑳ 緊急事態において、子どもが自ら身を守り安全を確保するための教育（市民：81.4% 教職員：74.6%）、㉔ 放課後や土曜日などを活用した教育活動（市民：55.7% 教職員：18.1%）で“充実していくべき”の割合が高くなっています。

教職員では、① 発達や学びの連続性をふまえた幼児教育（市民：62.4% 教職員：69.8%）、② 少人数指導、習熟度別学習など、多様な形態での学習（市民：72.1% 教職員：78.5%）、⑨ 偏見や差別を許さず、互いの人権を尊重し合う態度を育てる人権

教育（市民：68.8% 教職員：76.6%）、⑩ “ふるさと三田”を誇りに思う心、愛する心の育成（市民：46.4% 教職員：64.8%）、⑬ 障がいの有無に関わらず子どもたちが共に学ぶことができる仕組みづくり（市民：66.9% 教職員：77.6%）、⑱ 校舎や遊具等の施設面での環境整備（市民：58.2% 教職員：79.9%）、⑲ 子どもの通学路の安全確保に係る取組（市民：66.9% 教職員：73.2%）、㉘ 家庭・地域の教育力向上を図るための講演会、講座、フォーラムの開催（市民：30.5% 教職員：39.7%）、㉙ 地域の指導者等（地域人材）を活用した授業（市民：48.8% 教職員：54.8%）で“充実していくべき”の割合が高くなっており、今後三田市で力を入れて行う必要がある教育施策・教育事業について、市民と教職員の傾向の違いがあります。

個別テーマでみると、就学前教育の充実のために必要な取り組み(P10)として「あいさつやルールを守る意識を育てる」の割合（市民：64.5%）が最も高く、次いで「基本的な生活習慣を身に付ける」の割合（市民：56.3%）が高くなっており、初めての集団生活を送るために必要な態度や基本的な生活習慣等の育成に対する期待がみられます。

次に、いじめや不登校などの問題を防止するために必要なこと（P15）については、「保護者が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること」の割合（市民：70.7%）が最も高く、次いで「教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること」の割合（市民：58.4%）となっていることから、学校や家庭がそれぞれの役割を担うとともに、連携強化が必要です。

次に、特別支援教育の充実のために必要な取り組み（P18）については、「障がいに対する理解を深めるための学習の充実」の割合（市民：51.6%）が最も高く、次いで「すべての子どもたちが共に学ぶことができる教育の場と機会の確保」の割合（市民：47.1%）となっていることから、インクルーシブ教育の理念に基づき、障がいのある子どもとない子どもが、可能な限り同じ場で学ぶことができるよう支援していくことが求められています。

2 子どもが安全で安心して学べる環境づくり・学校づくりについて

小・中学校に対しての要望（P9）は、市民アンケート調査において、「教育に対する責任感や子どもに対する愛情を持って接すること」の割合（市民：69.6%）が最も高く、次いで「子どもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること」の割合（市民：42.1%）、「教職員がわかりやすい授業を工夫すること」の割合（市民：38.8%）が高くなっていることから、子どもたち一人一人の個性や能力、可能性を伸ばし育てる教育に努めることが求められています。

教職員アンケート調査では、自身の職務について忙しいと感じている度合い（P30）については、「感じている」と「どちらかというと感じている」をあわせた“忙しいと感じている”の割合が93.8%となっています。

その業務の内容において、時間をかけている業務（P31）については、「保育・授業の準備」の割合（教職員：60.5%）が最も高く、次いで「学級経営・学年経営」の割

合（教職員：41.9%）となっています。また、負担感を感じている業務（P32）については、「事務処理」の割合（教職員：46.0%）が最も高く、次いで「調査・報告書作成」の割合（教職員：39.8%）となっています。

教職員の多忙を解消するために必要なこと（P33）については、「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」の割合（教職員：68.6%）が最も高く、次いで「会議や研究会の効率化・スリム化を図る」の割合（教職員：49.7%）、教職員がゆとりをもって子どもたちに接することができるよう、業務改善に取り組んでいくことが必要です。

現在少子化に伴う市立の幼稚園及び小中学校の子どもの数の減少による学校園の小規模化（共通集計 P45）について、「望ましい」と「どちらかといえば望ましい」をあわせた“望ましい”の割合（市民：23.3% 教職員：26.5%）に比べ、「どちらかといえば望ましくない」と「望ましくない」をあわせた“望ましくない”の割合（市民：62.1% 教職員：57.3%）が高くなっています。

望ましい理由（共通集計 P46）については、「先生が目が届きやすく、きめ細かな指導（個別指導）がしやすくなる」の割合（市民：71.7% 教職員：82.5%）が最も高くなっています。

一方で、望ましくない理由（共通集計 P47）については、「子どもが多様な個性と触れ合う機会が少なくなる」の割合（市民：61.6% 教職員：60.6%）が最も高くなっています。

3 まち（地域）全体での子どもの学びと成長の支援について

市民アンケート調査において、「家庭の教育力」を高めるために必要な取り組み（P26）については、「家族と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」の割合（62.5%）が最も高く、次いで「家族と一緒に食事を通して家族とのつながりを深める」の割合（59.7%）が高くなっていることから、家族と一緒に食事をとる場などの家庭の日常生活におけるコミュニケーションが重要な役割を担っていることがわかります。

次に、「地域の教育力」を高めるために必要な取り組み（P27）については、「子どもたちが安全で安心して遊べるようにする」の割合（49.2%）が最も高く、次いで「子どもたちが放課後や休日に学習や遊びができる場をつくる」の割合（44.3%）が高くなっていることから、放課後や週末等に、地域の方々の参画を得て、子どもたちの安全・安心な活動拠点が求められていることがわかります。

VI 自由意見のまとめ

1 市民アンケート調査

1. 子どもの学び、育ちについて	
(1) 社会的自立に向けた教育について	
外国語教育を充実してほしい	4件
外国語教育の充実を望む	
塾や英会話に行かなくても、学校である程度できるような教育をしてほしい	
キャリア教育が大切である	3件
自分の夢に向かって、前向きに育っていく子どもにするために、小さい時から、キャリア教育が必要である	
中学校のトライやる・ウィークはとてもすばらしい取り組みである	
その他	5件
情報モラル教育は保護者にも必要である	
コンピュータや情報機器の活用よりも読んだり書いたり、発言することを重視してほしい	
子どもの自主自律力を高めていかないと、グローバル化に対応できない	
広い視野で見たり考えたりできるよう、将来について考えられる力を持つ手助けをしてほしい	
(2) 幼児教育について	
保育施設・事業を充実してほしい	17件
こども園の充実と保育園の待機児童を何とかしてほしい	
保育所に通う子どもたちにも、幼稚園に通う子どもたちのように習い事をさせてあげてほしい	
保育園・認定こども園がまだまだ足りていない	
幼稚園サービスを充実してほしい	6件
公立の幼稚園も3年保育だとよい	
地域の子どもの交流の場として幼稚園の空き教室を開放してほしい	
公立幼稚園の預かり保育の曜日を増やしてほしい	
子育てと仕事の両立支援を充実してほしい	4件
母親が子育てしながら働きやすい職場がもっと増えたらよい	
子育て世代への仕事場の理解を図るための支援求人のようなものがあればよい	
就学前教育から小中学校へのつながりが大切である	3件
就学前教育が各園によって特色があるのはよいが、それが小学校への学びに繋がっているようには見えない	
幼稚園から小学校にあがる時、厳しさ等に差があり、子どもが受け入れられなかった	
幼稚園のPTA活動の負担が大きい	2件
幼稚園のPTA活動が厳しすぎるので、次の子どもを望む気になれない	

(3) 学力向上、学習環境の充実について	
学力向上に向けた取り組みを充実してほしい	14件
様々な分野の魅力を感じられる授業をしてもらいたい	
優秀な子にもレベルの高い教育をしてもらえるような制度を導入してほしい	
学校の授業だけでは学力向上が出来なかったため、塾へ行く事になった	
学校間、地域の学力差をなくしてほしい	12件
学校間で学力差が激しいと聞く公立なので、地域によって差が出ないようにしてほしい	
地域で学力の差があるらしいので不安である	
学校図書の活用を図り、充実してほしい	3件
小学校に学校図書館司書を配置してほしい	
勉強については朝5分、読書タイムや低学年には読み聞かせをしてほしい	
就学前教育、小中学校において学校図書をもっと活用する	
その他	7件
受験のやり方が変わり、勉強ができない生徒は遠くの学校へと行くことになっている三田市に住んでいるのに、本当に残念な結果である	
小、中連携をもっと密にしてほしい	
小中一貫教育がよい	
(4) 心の育成について	
子どもが道徳心やモラルをしっかり身につけてほしい	7件
幼少期から、マナーや生活習慣をきっちり身につけることが大切である	
人間としてのモラルや倫理感をどのように教えていくのが重要である	
道徳の教育も教育の場で今まで以上にしていただけるとよい	
体験活動を充実してほしい	4件
授業の中で、実験や経験の機会をたくさん設けてほしい	
三田市の豊かな自然の中で、豊かな個人を育ててほしい	
障害のある人を理解し、受け入れる力を身につけることが必要である	3件
障害のある人への関心、偏見をなくす教育が求められる	
特別支援学校の子供達と関わりを持つことによって、優しい子どもに成長している	
基本的なマナーやあいさつを身につけてほしい	2件
学校、地域でも基本的なマナーやあいさつのできる子どもに育ていけるよう教育をしてほしい	
子どもに元気がない、大人に挨拶ができない	
子どもに思いやりの心を育ててほしい	2件
思いやりの気持ちを育むことが第一と考える	
他人を思いやる気持ちを持つ子どもが減っている気がする	

その他	10件
人間的な深みのある子どもに成長してほしい	
教師も生徒も人間力を高めてほしい	
保護者のマナーがわるい	
自分が人のために何が出来るのだろうか考えながら育つ子どもになってほしい	
三田市を故郷として愛着を持ってほしい	
(5) いじめや不登校の対策について	
いじめ対策が重要である	10件
いじめについて、もっと実態を把握することやいじめの芽をつみとる努力が教育者や保護者に求められる	
小学校・中学校でいじめのない学校づくりをしてほしい	
いじめが見つかったら早期に対応してほしい	
不登校児童への対策が必要である	4件
不登校については家庭の問題ではあるが、ある程度担任・学校に協力してほしい	
不登校生徒が、学校にまた戻ってこられるようにしてほしい	
(6) 部活動の充実、体力や健康づくりについて	
部活動の充実が望まれる	10件
少子化のため、学校の生徒の人数が減り、クラブ活動が出来ない（部員が少なく廃部になる）状況になっている	
部活では先生が経験者ではなく、専門のOBやボランティアの方等をコーチに招いてほしい	
中学校の部活動をもっと充実してほしい	
専門性を身につけた卒業生たちを活用する等、スペシャリストを育てる工夫をしてほしい	
子どもの体力向上が大切である	9件
小学生、中学生で筋力、体力の基礎づくりをしてほしい	
体力強化のための取り組みができればよい	
体育の授業で苦手をなくすための工夫が必要であるそのため、専門の方のサポートが必要である	
学校給食について	8件
給食がしっかりしていることは、ありがたい	
三田産の地産地消も良い取り組みである	
学校給食メニューが代わり映えしない	
中学校でも給食があるので助かるおいしいと子どもは言っている	
子どもが食物アレルギーである	
子どもの健康づくりが大切である	5件
小・中学生に対して、薬物中毒の怖さ、喫煙の健康被害、正しい性教育等の教育を徹底的に行う必要がある	
「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さ、家族みんなで食事をとる大切さを伝えてほしい	
地産地消等の食育指導をしてほしい	
耐ストレス力をつけてもらえるように体を動かすことをもっと教育してほしい	

(7) 支援が必要な子ども・家庭について	
支援が必要な子どもに対する教育の充実が必要である	12件
障害のある子ども個々に応じた学校教育をしてほしい	
未就学児の療育施設を増やしていただきたい	
特別支援教育の充実が必要である	
ひとり親家庭への支援が求められる	5件
母子家庭など生活が苦しい家の子も夢や希望を実現出来るような支援がほしい	
母子家庭の生活の援助をもう少し考えてほしい	
その他	6件
私立幼稚園の保育料が高いので、もう少し補助してほしい	
兄弟の年齢、収入に左右されない幼稚園就園奨励費補助金の支給を望む	
三田市に公的な低利の奨学金や教育ローンなど充実してほしい	

2. 安全・安心で魅力ある学校づくり、環境づくりについて	
(1) 教職員について	
教職員に資質向上が求められる	31件
生徒に対する接し方が不公平な教師が目立つ	
教員の資質向上のための研修の強化が必要である	
教職員の専門的知識の向上が必要である	
多感な年頃であるが、精神面のフォローがある様に感じない子ども達への平等な対応を望む	
教職員のメンタルケアが必要である	5件
先生のメンタルケア、教育の悩みを相談できるしくみなどの強化が必要である	
心身の健康管理（うつ病対策など）を特に望む	
教職員の増員が必要である	5件
少人数クラスでの教員不足で対応しきれない点が多々ある	
先生に相談したくても先生が忙しすぎて話がゆっくりできないため、学校の教員を増やしてほしい	
教職員が子ども一人一人と接することができる環境について	6件
先生方がのびのびと子どもに向き合える環境であればよい	
学校が全てに思える子ども達にとって、頼りになるのは先生と思う	
教員がじっくり子どもと接することができるよう、これ以上の負担を負わせない	
特に小学校は校長先生や教頭先生の異動が多く、1、2年で代わってしまうので、担任の先生に相談できないことを誰に相談するのか	
教職員に対する人員配置の適正化が必要である	

(2) 学校の適正規模・適正配置について	
学校の適正規模、適正配置について	21 件
子どもにとって適切な規模や配置を本当に真剣に考える時期に来ている	
どの地域の子どもも、ある程度の人数の中で学ぶことが将来へ向けて大切である	
小学校については少人数の丁寧な指導が受けられ大変良い面もあるが、中学校に上がってもクラス替えを経験できないことは、コミュニケーション能力などの発達において非常に不安がある	
将来、他の小学校と統合されたりすると、家から遠くなったり、環境が変わったりして不安になる	
小規模校の活性化が必要である	
1人の担任教師が多人数の子どもを指導できない	
過疎化地域対策が必要である	
(3) 安全・安心なまちについて	
放課後や下校時など子どもに対する地域の見守りが大切である	9 件
変質者や声かけなど、子どもが被害にあうケースが増えて不安である	
子どもが安心して登下校できるよう地域の見守り、巡回等の対策を強化してほしい	
パトロールの車をよく見かける走っているだけで安心できる	
交通安全に対する取り組みが必要である	6 件
安全な通学路の確保に取り組んでほしい	
横断歩道に信号機を設置してほしい	
その他	7 件
公園や通学路に防犯カメラを設置する	
通学路の街灯が少ない	
高齢化、少子化、災害等地域でのつながりが大切と叫ばれながら、住民意識が低い	
下校時に子どもの帰宅を親にメールする	
(4) 学校施設等について	
校舎等の整備が必要である	9 件
小学校のトイレがいまだに和式なので、すぐにでも洋式を増やしてほしい	
小学校・中学校の教室に、エアコンをつけてほしい	
学校の建物の耐震性、耐火性を高めてほしい	
幼稚園、小学校、中学校のグラウンドの芝生化	

3. 地域（まち）全体で取り組む教育について	
(1) 学校・家庭・地域の連携について	
放課後や休日など子どもの居場所づくりが大切である	21 件
<ul style="list-style-type: none"> 児童保育、または放課後の小学校での活動を増やしてほしい 土曜日の午前中も学校で学べるようにしてほしい 大学生が休日や放課後、勉強などを教えてくれるような場所がほしい 児童保育に行かなくても夏休みなどの長期休みなど、子どもを安心して遊ばすことが出来る場所がほしい 	
地域の人材を活用して、まち全体で子どもたちを育てていくことが大切である	9 件
<ul style="list-style-type: none"> 地域の公民館などを使用して、年配の方が子どもに勉強や遊びを教えていただけるという機会がほしい 学校教育の現場で地域の力でもっと人的なサポートができるとよい 一流のアスリートや子どもに夢や希望を与えることの出来る人を学校へ呼んで触れ合わせてほしい 	
子どもたちが健やかに育つよう、学校と家庭で連携が必要である	8 件
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの学力向上のため、もう少し学校と家庭、地域がつながれたらよい 地域・家庭の連携を目的とした行事に、多くの保護者が参加しやすい仕組みづくりを望む 親と学校の連携を密にしてもらいたい 	
その他	9 件
<ul style="list-style-type: none"> 幼い子どもの行事は多いが、高校生となると、なかなか接点を見つけられない 1年に何度か近隣の他校と合同学習があるとよい 放課後、幼稚園のように延長保育的なものがあればよい 	
(2) 家庭・地域の教育について	
家庭・地域の教育について	11 件
<ul style="list-style-type: none"> 教育に対する責任感や子どもに対する愛情を持って接することが必要である 親が学べる講演会に足が向かない人が多い 家庭で話し合える場づくりが生まれるよう、親に関心をもってもらえるような、環境づくりが必要である 親子の時間、会話が大切である 家庭ですべきことは、各家庭へ行うよう指導してほしい 夏休み、冬休み、春休みに学力や体力など向上させるためのイベントなどあればよい 土日祝日でのイベント開催が、より子どもたちが平等にいろいろな体験をする機会が得られてよい 	

4. その他	
(1) その他の意見について	
施設整備について	10 件
小学生が雨の日でも遊べる施設がほしい	
旧庁舎を教育施設として利用する	
運動施設（室内プールなど）が充実していない	
アンケートについて	9 件
このアンケートは教育現場などへ活かされているのか	
幼稚園、保育園の説明がわかりやすいと有難い	
このアンケートの集計結果がどれくらい現状に即した結果となるのかは少し疑問に思う	
その他	18 件
夜間、救急を受け入れてもらえる小児科の医療機関が市内にないため不安である	
教育においても、統計学や経済学の視点に立った分析を行い、それを今後活かしてほしい	
今後、子どもの数の減少は市内どの地域でも深刻になってくる少人数になることで子どもの成長に悪影響があつてはならない行政は、市内の雇用推進、若い世帯が市内で暮らしやすい方策を柔軟に検討すべき	
「子育てするならゼッタイ三田」をもっともっとアピールしたらよい	

2 教職員アンケート調査

1. 子どもの学び、育ちについて	
(1) 社会的自立に向けた教育について	
I C T、情報機器の活用を進める	6件
I C Tを活用しやすい状況にするために電子黒板を充実する	
情報化社会に生きる子どもたちに適切な情報機器の活用力、モラル等の力を育む	
(2) 幼児教育について	
幼小の連携が必要である	4件
幼小の連携や様々な人たちがふれあい学びあう場は大切である	
幼・小・中と発達や学びの連続性を見すえた教育のあり方について今後も連携・交流が必要である	
幼児期の教育の質の維持・向上を図るには、施設・人事・予算等において今後も条件整備を進める	
公立幼稚園の預かり保育の曜日を増やしてほしい	
(3) 学力向上、学習環境の充実について	
少人数学級を実施してほしい	10件
小学校卒業まで、35人学級を実施してほしい	
5・6年生で40人学級になると、一人一人に細やかな指導を行うことが難しい	
少人数クラスを実現して、目を届かせやすい環境をつくってほしい	
子どもの教育において集団や異年齢の関わりは重要である	2件
集団の中で多様な個性や考えに触れ、切磋琢磨する機会が必要である	
(4) 心の育成について	
特別支援教育、インクルーシブ教育の充実が必要である	7件
特別支援学級の在籍の児童が増え、人的・物的配置の充実を強く望む	
特別支援教育をインクルーシブの視点で行ってほしい	
心の教育が必要である	3件
心の教育は、さらなる充実と具体的に取り組めるようにしてほしい	
道徳を大切に、人を育てることが重要である	
(5) 部活動の充実、体力や健康づくりについて	
部活動の充実が望まれる	8件
生徒の体力増進や部活にも力を入れてほしい	
教科教育と同じく中学校における部活動も人間育成に大切な要因である	
中学における部活動は、外部コーチ的な取り組みを更に充実すべきである	
(6) 支援が必要な子ども・家庭について	
支援が必要な子ども・家庭について	2件
3才児健診の内容を充実させたり、配慮の必要な園児に対する支援を充実させたりすることが大切である	
経済面を含む保護者へのサポートを充実させていく必要がある	

2. 安全・安心で魅力ある学校づくり、環境づくりについて	
(1) 教職員について	
教職員の増員等が必要である	45 件
<p>教員の人的配置を増やすことが三田の教育の充実につながる</p> <p>教員が忙しすぎて余裕がない</p> <p>指導員や指導補助員などの人材を増やしてほしい</p> <p>学力向上支援教員や指導補助員の増員を望む</p> <p>専科のない低学年の担任のサポートが必要である</p> <p>教職員を増やし、生徒と向きあえる時間の確保をサポートしてもらいたい</p> <p>学校の中の仕事がスリム化され、生徒とゆとりをもってかかわりたい</p> <p>少人数で、授業を行えるように教職員を配置してほしい</p> <p>連合体育大会は、練習から当日まで小規模校で取り組んでいくのは大きな負担となっている</p> <p>教師の精神的ケアの充実が必要である</p> <p>教師一人一人の心のゆとりが「三田市のあたたかい教育」には不可欠</p> <p>書類を作る時間を減らしてほしい</p> <p>勤務時間に見合った職務内容の見直しをしてほしい</p>	
教職員に資質向上が求められる	13 件
<p>指導力に課題のある教職員に対する研修の充実を図ることが必要である</p> <p>研修所機能の強化（各教科の指導主事の充実、教員情報の発信、データ蓄積等）が必要である</p> <p>教師の意識改革の研修会が必要である</p> <p>教育研修所の図書がわかりにくい</p>	
(2) 学校の適正規模・適正配置について	
学校の適正規模、適正配置について	21 件
<p>学校の適正規模や適正配置については、何年か先を見通して協議・検討に入る時期と思う</p> <p>学校の統合を早急に検討してもらいたい</p> <p>小規模校の合併を考えていかないと部活などで子どもや親のニーズに応えられなくなってきている</p> <p>小規模校でも独自性を出し、一人一人の子どもたちが自信とプライドを持って活動している学校を見るにつけ、一概に小規模校が良くないとは言えない</p> <p>地域の要望や実態をふまえて、慎重な議論が必要である</p> <p>通学距離のことや地域の学校がなくなるのは避けたい統廃合には反対である</p>	
(3) 学校施設等について	
校舎、通学路等の整備が必要である	13 件
<p>各学校のトイレが使いにくく、古く、リニューアルしてほしい</p> <p>暖房機具（エアコン等）の設置をしてほしい</p> <p>教育施設・設備の老朽化が進んでいる</p> <p>通学路の安全対策、例えば自転車専用レーンや防犯カメラの設置等が急務である</p>	

3. 地域（まち）全体で取り組む教育について	
（1）学校・家庭・地域の教育について	
学校・家庭・地域の教育について	6 件
学校や家庭教育の充実とともに、地域の中で子どもを育てていくという意識が必要である	
保・幼・小・中の連携の研修で、もう少し地域や学校の取り組みなどを話す場、情報交換の場があればよい	
地域の特色を活かし、地域社会と連携した教育活動を充実してほしい	
4. その他	
（1）その他の意見について	
その他	16 件
総合的に「生きる力」を育む、三田の教育でありたい	
学校司書を全校に配置してほしい	
小中が今以上に連携し、9年間を見通した教育を行えることが望ましい	
様々な教育活動を様々な機関が責任を持って分担することが必要である	
特色ある学校づくりの推進をしてほしい	
三田市の特色を活かした個性的な教育が打ち出されるとよい	
子育ての指針やマナー、虐待をなくすための啓発をしていく取り組みをしてほしい	
子どもたちが、生き生きと生活できる環境づくりや、命を大切に思うことができるような生き方ができるよう、大人が生き方を示し、学び続けられるような取り組みができればと思う	

子どもの教育や学習に関する取組についておたずねします。

問9 子どもの教育について、あなたが関心のあることは何ですか。
(主なもの3つまで○)

- 1. 子どもの学力
- 2. 子どもの健康や体力
- 3. 子どもの基本的な生活習慣
- 4. 子どもの道徳心や規範意識
- 5. 子どものいじめ・不登校の問題
- 6. 学校の施設・設備
- 7. 教職員の指導力や専門性
- 8. 家庭でのしつけ・教育
- 9. 家庭でのコミュニケーション
- 10. 地域での子育て・教育
- 11. 学校・家庭・地域の連携
- 12. その他()

問10 あなたは、三田市の子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思いますか。
(主なもの3つまで○)

- 1. ルールやマナーを守る子ども
- 2. 健康で活発な子ども
- 3. 自分の意見をはっきりと言える子ども
- 4. 創造性が豊かな子ども
- 5. 思いやりややさしさを持った子ども
- 6. 努力できる子ども
- 7. 責任感を持った子ども
- 8. 意欲的に学習する子ども
- 9. 向上心やチャレンジ精神のある子ども
- 10. 夢を持っている子ども
- 11. リーダーシップのある子ども
- 12. ふるさとを愛する子ども
- 13. その他()
- 14. 特にない
- 15. わからない

問11 教育を通じて、三田市の子どもたちには、次のような能力や態度が実際に身についていると思いますか。

(①～⑫の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)

項目	1	2	3	4	5
	身につけている	いただいている	あまりない	い身につけていない	わからない
① 自ら学び、考え、主体的に行動する力	1	2	3	4	5
② 表現力やコミュニケーション力	1	2	3	4	5
③ 教科の基礎的な学力	1	2	3	4	5
④ 思いやりや心や善悪の判断などの道徳心	1	2	3	4	5
⑤ 社会生活に必要な常識やマナー	1	2	3	4	5
⑥ いじめ・暴力行為を許さない心	1	2	3	4	5
⑦ 生き方や進路について考える力	1	2	3	4	5
⑧ 偏見や差別を許さず、互いに認め合い、共に生きる姿勢	1	2	3	4	5
⑨ “ふるさと三田”を誇りに思う心、愛する心	1	2	3	4	5
⑩ 地域の人や行事に積極的に関わろうとする姿勢	1	2	3	4	5
⑪ 体力を向上させ、健康的に生きようとする姿勢	1	2	3	4	5
⑫ 緊急事態において、子どもが自ら身を守り安全を確保することができる力	1	2	3	4	5

問 12 三田市の学校教育において、次のような取組について、できていると思えますか。
(①～⑯の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)

取組内容	1 できている	2 いた りたい できて	3 な あまり できて い	4 できて いない	5 わ か ら な い
① 幼児期にふさわしい生活習慣の基礎や規範意識が芽生えるような幼児教育を行っている	1	2	3	4	5
② わかりやすい授業を行っている	1	2	3	4	5
③ 少人数指導、習熟度別指導など、多様な形態での学習を工夫している	1	2	3	4	5
④ コンピュータや電子黒板などのICT*機器を活用している	1	2	3	4	5
⑤ 規範意識や道徳性を育む教育を行っている	1	2	3	4	5
⑥ 命と人権を大切にする教育を行っている	1	2	3	4	5
⑦ 「いじめ」「暴力行為」をなくす取組を行っている	1	2	3	4	5
⑧ 不登校児童生徒へのケアや支援を行っている	1	2	3	4	5
⑨ 体力向上を目指した取組を行っている	1	2	3	4	5
⑩ 学校給食を活用した食育を推進している	1	2	3	4	5
⑪ 子どもの障がいの状態や教育的ニーズに応じた指導を行っている	1	2	3	4	5
⑫ 学校の教育活動や取組内容を保護者や地域に発信している	1	2	3	4	5
⑬ 学校図書館を活用した教育活動を行っている	1	2	3	4	5
⑭ 地域の指導者等（地域人材）を活用した授業を行っている	1	2	3	4	5
⑮ 地域の豊富な学習資源（自然、文化財、芸術文化 など）を活用している	1	2	3	4	5

* ICT : Information and Communication Technology の略で、情報通信技術のこと。

問 13 あなたは小・中学校に対してどのようなことを望みますか。(主なもの3つまで○)

1. 教育に対する責任感や子どもに対する愛情を持って接すること
2. 教職員がわかりやすい授業を工夫すること
3. 生活習慣や社会規範の根本となり、指導すること
4. 子どもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること
5. 子どもや保護者の相談に快く応じてくれること
6. 担当教科に関して専門的な知識を持っていること
7. 子どもに公平に接すること
8. 社会の要請や時代の変化に柔軟に対応する力を持っていること
9. 部活動や体育等の基礎的な体づくりを熱心に指導すること
10. その他 ()
11. 特にない
12. わからない

問 14 あなたは、いじめや不登校などの問題を防止するためにどのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つまで○)

1. 保護者が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること
2. 保護者がいじめ等の問題行動に対して指導すること
3. 地域で子どもたちを見守り、注意するなど、地域の教育力を高めること
4. 教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること
5. 教職員がいじめ等の問題行動に対して指導すること
6. 学校や家庭において情報モラル教育*の充実を図ること
7. 学校において人権教育や道徳教育の充実を図ること
8. 専門の相談員（スクール・カウンセラー*）に、いつでも悩みを相談できること
9. 市や教育委員会がいじめ防止の啓発活動などに積極的に取り組むこと
10. 学校や家庭、地域連携を強化すること
11. 学校と警察や子ども家庭センター等の関係機関との連携を強化すること
12. その他 ()
13. 特にない
14. わからない

*情報モラル教育：よりよいコミュニケーションや人間関係づくりに向けて、インターネットやスマートフォンなど情報手段を上手にかたく使っていくための判断力や心構えを身に付けさせる教育。

*スクール・カウンセラー：不登校などの対策として、小・中・高等学校に配置し、児童生徒や保護者、教職員へのカウンセリングを行う専門家。

問 15 あなたは、三田市の就学前教育[※]の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか。(主なもの3つまで○)

1. 基本的な生活習慣を身に付ける
2. あいさつやルールを守る意識を育てる
3. 自然とふれあう体験をする
4. 世代間交流など、いろいろな人とふれあう体験をする
5. 教職員の資質の向上
6. 幼稚園での子育て支援の強化(預かり保育や園庭開放[※]、未就園児の保育体験など)
7. 保育所(園)保育と幼稚園教育が両方行える施設の整備(認定こども園[※]など)
8. 幼稚園・保育所(園)・認定こども園同士のつながりを深める
9. 幼稚園・保育所(園)・認定こども園と小学校のつながりを深める
10. 幼稚園・保育所(園)・認定こども園の施設や道具、おもちゃなどの充実
11. 保護者の教育力の向上を図る
12. 保護者同士が子育てについて情報交換しあえるネットワークづくり
13. その他()
14. 特になし
15. わからない

※就学前教育：小学校へ入学する前の保育・教育。

※園庭開放：園庭を、その園に通っていない子どもたちにも開放すること。

※認定こども園：幼稚園と保育所(園)の機能、特長を合わせ持ち、地域の子育て支援も行う、小学校就学前教育の施設。

問 16 あなたは、子どもたちの安全・安心な学校や幼稚園・保育所(園)・認定こども園での生活の充実のために、どのような取組が必要だと思いますか。(主なもの1つに○)

1. 施設の安全対策
2. 不審者の侵入対策
3. 交通安全・防犯対策等の教育
4. 防災・防犯訓練
5. 登下校時の見守り
6. その他()
7. 特になし
8. わからない

問 17 あなたは、特別支援教育[※]の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか。(主なもの3つまで○)

1. すべての子どもたちが共に学ぶことができる教育の場と機会の確保
2. 乳幼児期からの支援体制の整備
3. 子どもの実態に応じた相談体制の充実
4. 特別支援学級等での専門的な教育の充実
5. 学校環境のユニバーサルデザイン[※]化
6. 障がいに対する理解を深めるための学習の充実
7. その他()
8. 特になし
9. わからない

※特別支援教育：障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、その持っている力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。

※ユニバーサルデザイン：年齢や障がいの有無にかかわらず、できるだけ多くの人が利用することができるようデザイン。

問 18 少子化に伴い、市立の幼稚園及び小中学校の子どもの数が減少しており、混合学級の幼稚園（4歳児と5歳児が1クラス）、1学年1クラスの小中学校があり、今後、小規模な幼稚園や小中学校が増加していくことが予想されます。
市立の幼稚園及び小中学校が小規模化していくことについてあなたはどのように思いますか。

(1つEO)

1. 望ましい 問 18-1 ^
2. どちらかといえば望ましい
3. どちらかといえば望ましくない 問 18-2 ^
4. 望ましくない
5. わからない 問 19 ^

問 18-1 については、問 18 で「1. 望ましい」「2. どちらかといえば望ましい」を回答した方のみお答えください。

問 18-1 その理由は何ですか。(主なもの3つまで)

1. 同学年の子どもの数がよくなる
2. 異学年の子どもの関わりが密になる
3. 運動会や音楽会などの学校行事において、子ども一人一人の活躍の場が作りやすくなる
4. 先生の目が届きやすく、きめ細かな指導（個別指導）がしやすくなる
5. 全員で団結や協力がしやすくなる
6. 個々の活動の場が増え、責任感が育つ
7. ゆとりや安心感など、家庭的な雰囲気の中で学ぶことができる
8. その他（具体的に)
9. 特になし
10. わからない

問 18-2 については、問 18 で「3. どちらかといえば望ましくない」「4. 望ましくない」を回答した方のみお答えください。

問 18-2 その理由は何ですか。(主なもの3つまで)

1. 切磋琢磨する機会が少なくなる
2. 子どもが多様な個性と触れ合う機会が少なくなる
3. 集団活動・行事に支障がでる
4. 多様な考えに触れる機会が少なくなる
5. コミュニケーション能力が育ちにくくなる
6. 部活動などの数や部員が少なくなり、運営に支障がでる
7. P.T.A活動等において、保護者への負担が大きくなる
8. その他（具体的に)
9. 特になし
10. わからない

問 19 次の教育施策や教育事業について、あなたは、今後三田市で力を入れて行う必要があると思いますか。(①~⑩の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ)

項目	1 しつこく いっしょに がんばる	2 少し がんばる がしつこく ではない	3 現状 でよい	4 あまり 必要 ない	5 必要 ない
①発達や学びの連続性をふまえた幼児教育	1	2	3	4	5
②少人数指導、習熟度別学習など、多様な形態での学習	1	2	3	4	5
③生き方を考え、夢に挑戦する子どもを育むキャリア教育	1	2	3	4	5
④英語（外国語）教育	1	2	3	4	5
⑤読書活動の取組	1	2	3	4	5
⑥コンピュータなどのICT機器を活用した授業	1	2	3	4	5
⑦インターネットを適切に活用する能力等を育てる情報モラル教育	1	2	3	4	5
⑧豊かな心を育む道徳教育	1	2	3	4	5
⑨偏見や差別を許さず、互いの人権を尊重し合う態度を育てる人権教育	1	2	3	4	5
⑩ “ふるさと三田”を誇りに思う心、愛する心の育成	1	2	3	4	5
⑪子どもの体力向上の取組	1	2	3	4	5
⑫学校給食（食育を含む）	1	2	3	4	5
⑬障がいのある児童らも子どもたちが共に学ぶことができる仕組みづくり	1	2	3	4	5
⑭不登校児童生徒へのケアや支援	1	2	3	4	5
⑮いじめや暴力行為などの解消を図る取組	1	2	3	4	5
⑯学校や幼稚園の活動や取組内容についての情報発信	1	2	3	4	5
⑰教職員の専門性や指導力の向上	1	2	3	4	5
⑱校舎や遊具等の施設面での環境整備	1	2	3	4	5
⑲子どもの通学路の安全確保に係る取組	1	2	3	4	5
⑳緊急事態において、子どもが自ら身を守り安全を確保するための教育	1	2	3	4	5
㉑幼稚園と保育所（園）の機能の一体化（認定こども園等）	1	2	3	4	5
㉒学校や幼稚園の通正規や通正規（※1）についての検討	1	2	3	4	5
㉓義務教育9年間を見通した小中一貫教育（※2）	1	2	3	4	5
㉔放課後や土曜日などを活用した教育活動	1	2	3	4	5
㉕幼稚園、保育所（園）・認定こども園と小学校との連携	1	2	3	4	5
㉖小学校と中学校との連携	1	2	3	4	5
㉗学校・家庭・地域が連携して子育てをしていくための取組	1	2	3	4	5
㉘家庭・地域の教育力向上を図るための講演会、講座、フォーラムの開催	1	2	3	4	5
㉙地域の指導者等（地域人材）を活用した授業	1	2	3	4	5
㉚地域の豊富な学習資源（自然、文化財、芸術文化 など）の活用	1	2	3	4	5

※1 通正規や通正規配置：少子化が進む中、学校や幼稚園において、どの程度の規模や人数で教育を行うことが望ましいかを考えていくこと。

※2 小中一貫教育：小学校と中学校の義務教育9年間を連続した期間ととらえ、児童生徒の発達段階に合わせた一貫性のある学習指導・生活指導を行うとともに、小学校と中学校が協働して系統的・継続的に教育活動を展開すること。

教育や学習に関する取組についておたずねします。

問9 教育を通じて、三田市の子どもたちには、次のような能力や態度が実際に身についていると思いますか。

(①～⑫の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)

項目	1	2	3	4	5
	1 身につけている	2 いたっている	3 いたらない	4 身につけていない	5 わからない
① 自ら学び、考え、主体的に行動する力	1	2	3	4	5
② 表現力やコミュニケーション力	1	2	3	4	5
③ 教科の基礎的な学力	1	2	3	4	5
④ 思いやりや心や善悪の判断などの道徳心	1	2	3	4	5
⑤ 社会生活に必要な常識やマナー	1	2	3	4	5
⑥ いじめ・暴力行為を許さない心	1	2	3	4	5
⑦ 生き方や進路について考える力	1	2	3	4	5
⑧ 偏見や差別を許さず、互いに認め合い、共に生きる姿勢	1	2	3	4	5
⑨ “ふるさと三田”を誇りに思う心、愛する心	1	2	3	4	5
⑩ 地域の人や行事に積極的に関わろうとする姿勢	1	2	3	4	5
⑪ 体力を向上させ、健康的に生きようとする姿勢	1	2	3	4	5
⑫ 緊急事態において、子どもが自ら身を守り安全を確保することができる	1	2	3	4	5

問10 あなたが子どもたちや教育について課題と感じていることは何ですか。

(主なもの3つまでに○)

1. 子どもたちの学力
2. 子どもたちの健康や体力
3. 子どもたちの基本的な生活習慣
4. 子どもたちの道徳心や規範意識
5. 子どもたちの問題行動やいじめ・不登校
6. 学校及び幼稚園の施設や設備
7. 教職員の指導力
8. 家庭でのしつけ・教育
9. 地域での子育て・教育
10. 学校・家庭・地域の連携
11. 幼・小・中学校間の連携
12. 学校及び幼稚園の小規模化
13. その他()
14. 特になし
15. わからない

問11 については、問2で「2. 小学校」、「3. 中学校」を回答した方のお答えください。

問12 三田市の学校教育において、次のような取組について、できていると思えますか。
(①～⑮の各項目について、あてはまるものを、それぞれひとつだけ○)

取組内容	1	2	3	4	5
	1 できている	2 できている	3 できていない	4 できていない	5 わからない
① わかりやすい授業を行っている	1	2	3	4	5
② 少人数指導、習熟度別指導など、多様な形態での学習を工夫している	1	2	3	4	5
③ コンピュータや電子黒板などのICT機器を活用している	1	2	3	4	5
④ 幼稚園・保育所(園)・認定こども園とのつながりを深める取組を行っている	1	2	3	4	5
⑤ 高校や大学とのつながりを深める取組を行っている	1	2	3	4	5
⑥ 規範意識や道徳性を育む教育を行っている	1	2	3	4	5
⑦ 命や人権を大切にすることを教育を行っている	1	2	3	4	5
⑧ 「いじめ」「暴力行為」をなくす取組を行っている	1	2	3	4	5
⑨ 不登校児童生徒へのケアや支援を行っている	1	2	3	4	5
⑩ 体力向上を目指した取組を行っている	1	2	3	4	5
⑪ 学校給食を活用した食育を推進している	1	2	3	4	5
⑫ 子どもの障がいの状態や教育的ニーズに合わせた指導を行っている	1	2	3	4	5
⑬ 学校図書館を活用した教育活動を行っている	1	2	3	4	5
⑭ 学ぶ意欲を高め、学習習慣を定着させるための取組を行っている	1	2	3	4	5
⑮ 学校の教育活動や取組内容を保護者や地域に発信している	1	2	3	4	5
⑯ 地域の指導者等(地域人材)を活用した授業を行っている	1	2	3	4	5
⑰ 地域の豊富な学習資源(自然、文化財、芸術文化など)を活用している	1	2	3	4	5

問 12 については、問2で「1. 幼稚園」を回答した方のみお答えください。

問 12 三市市の就学前教育において、次のような取組について、できていると思えますか。
 (①～⑰の各項目について、あてはまるものを、それぞれひとつだけ○)

取組内容	1	2	3	4	5
	できている	だいたいできている	あまりない	い	わからない
① 幼児期にふさわしい生活習慣の基礎や規範意識が芽生えるような幼児教育を行っている	1	2	3	4	5
② 生活に必要な活動を自分でできるようにしている	1	2	3	4	5
③ 豊かな感性や表現する力を身につけるための取組を行っている	1	2	3	4	5
④ 幼稚園・保育所(園)・認定こども園とのつながりを深める取組を行っている	1	2	3	4	5
⑤ 小学校や中学校とのつながりを深める取組を行っている	1	2	3	4	5
⑥ あいさつやルールを守る意識を育てるための取組を行っている	1	2	3	4	5
⑦ やさしさや思いやりなど、豊かな心を育むための取組を行っている	1	2	3	4	5
⑧ 自分の持ち物や共同で使う身近な物を大切にしている	1	2	3	4	5
⑨ 世代間交流など、いろいろなる人とふれあう取組を行っている	1	2	3	4	5
⑩ 体力向上を目指した取組を行っている	1	2	3	4	5
⑪ 学校給食を活用した食育を推進している	1	2	3	4	5
⑫ 子どもの障がいの状態や教育的ニーズに応じた指導を行っている	1	2	3	4	5
⑬ 読み聞かせ等、子どもたちが絵本や物語に親しむ取組を行っている	1	2	3	4	5
⑭ 自然や動植物など周囲の環境に好奇心や探究心をもつて関わる取組を行っている	1	2	3	4	5
⑮ 幼稚園の保育活動や取組内容を保護者や地域に発信している	1	2	3	4	5
⑯ 地域の指導者等(地域人材)を活用した体験活動を行っている	1	2	3	4	5
⑰ 地域の豊富な学習資源(自然、文化財、芸術文化など)を活用している	1	2	3	4	5

ここからはすべての方にお答えください。

問 13 少子化に伴い、市立の幼稚園及び小中学校の子ども数が減少しており、混合学級の幼稚園(4歳児と5歳児が1クラス)、1学年1クラスの小中学校があり、今後、小規模な幼稚園や小中学校が増加していくことが予想されます。
 市立の幼稚園及び小中学校が小規模化していくことについてあなたはどのように思いますか。
 (1つに○)

1. 望ましい 問 13-1 へ
2. どちらかといえば望ましい 問 13-1 へ
3. どちらかといえば望ましくない 問 13-2 へ
4. 望ましくない 問 13-2 へ
5. わからない 問 14 へ

問 13-1 については、問 13 で「1. 望ましい」「2. どちらかといえば望ましい」を回答した方のみお答えください。

問 13-1 その理由は何か。(主なもの3つまで)

1. 同学年の子ども同士がよく知り合うことができ、人間関係が密になる
2. 異学年の子どもとの関わりが密になる
3. 運動会や音楽会などの学校行事において、子ども一人一人の活躍の場が作りやすい
4. 先生の目が届きやすく、きめ細かな指導(個別指導)がしやすい
5. 全員で団結や協力がしやすくなる
6. 個々の活動の場が増え、責任感が育つ
7. ゆとりや安心感など、家庭的な雰囲気の中で学ぶことができる
8. その他(具体的に)
9. 特にない
10. わからない

問 13-2 については、問 13 で「3. どちらかといえば望ましくない」「4. 望ましくない」を回答した方のみお答えください。

問 13-2 その理由は何か。(主なもの3つまで)

1. 切磋琢磨する機会が少なくなる
2. 子どもが多様な個性と触れ合う機会が少なくなる
3. 集団活動・行事に支障がでる
4. 多様な考えに触れる機会が少なくなる
5. コミュニケーション能力が育ちにくくなる
6. 部活動などの部員が少なくなり、運動に支障がでる
7. PTA活動等において、保護者への負担が大きくなる
8. その他(具体的に)
9. 特にない
10. わからない

問14 次の教育施策や教育事業について、あなたは今後三田市で力を入れて、あなたは、今後三田市で力を入れて行う必要があると思いますか。(①～⑩の各項目について、あてはまるものに、それぞれひとつだけ○)

項目	1 とても 必要 です	2 充 分 な 必要 です	3 現 状 で よ い	4 あ まり な い 必要 です	5 必 ず な い 必要 です
①発達や学びの連続性をふまえた幼児教育	1	2	3	4	5
②少人数指導、習熟度別学習など、多様な形態での学習	1	2	3	4	5
③生き方を考え、夢に挑戦する子どもを育むキャリア教育	1	2	3	4	5
④英語(外国語)教育	1	2	3	4	5
⑤読書活動の取組	1	2	3	4	5
⑥コンピュータなどのICT機器を活用した授業	1	2	3	4	5
⑦インターネットを適切に活用する能力等を育てる情報モラル教育	1	2	3	4	5
⑧豊かな心を育む道徳教育	1	2	3	4	5
⑨偏見や差別を許さず、互いの人権を尊重し合う態度を育てる人権教育	1	2	3	4	5
⑩“ふるさと三田”を誇りに思ふ心、愛する心の育成	1	2	3	4	5
⑪子どもの体力向上の取組	1	2	3	4	5
⑫学校給食(食育を含む)	1	2	3	4	5
⑬障がいの有無に関わらず子どもたちが共に学ぶことができる仕組みづくり	1	2	3	4	5
⑭不登校児童生徒へのケアや支援	1	2	3	4	5
⑮いじめや暴力行為などの解消を図る取組	1	2	3	4	5
⑯学校や幼稚園の活動や取組内容についての情報発信	1	2	3	4	5
⑰教職員の専門性や指導力の向上	1	2	3	4	5
⑱校舎や遊具等の施設面での環境整備	1	2	3	4	5
⑲子どもの通学路の安全確保に係る取組	1	2	3	4	5
⑳緊急事態において、子どもが自ら身を守り安全を確保するための教育	1	2	3	4	5
㉑幼稚園と保育所(園)の機能の一体化(認定こども園等)	1	2	3	4	5
㉒学校や幼稚園の適正規模や適正配置(※1)についての検討	1	2	3	4	5
㉓義務教育9年間を早通した小中一貫教育(※2)	1	2	3	4	5
㉔放課後や土曜日などを活用した教育活動	1	2	3	4	5
㉕幼稚園、保育所(園)・認定こども園と小学校との連携	1	2	3	4	5
㉖小学校と中学校との連携	1	2	3	4	5
㉗学校・家庭・地域が連携して子育てしていくための取組	1	2	3	4	5
㉘家庭・地域の教育力向上を図るための講演会、講座、フォーラムの開催	1	2	3	4	5
㉙地域の指導者等(地域人材)を活用した授業	1	2	3	4	5
㉚地域の豊富な学習資源(自然、文化財、芸術文化 など)の活用	1	2	3	4	5

※1 適正規模や適正配置：少子化が進む中、学校や幼稚園において、どの程度の規模や人数で教育を行うことが望ましいのかを考えたこと。

※2 小中一貫教育：小学校と中学校の義務教育9年間を連続した期間ととらえ、児童生徒の発達段階に即した一貫性のある学習指導・生活指導を行うとともに、小学校と中学校が協働して系統的・継続的に教育活動を展開すること。

三田市の教育に関して、望まれることや具体的なご提案、ご感想がございましたら、ご記入ください。

以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。